

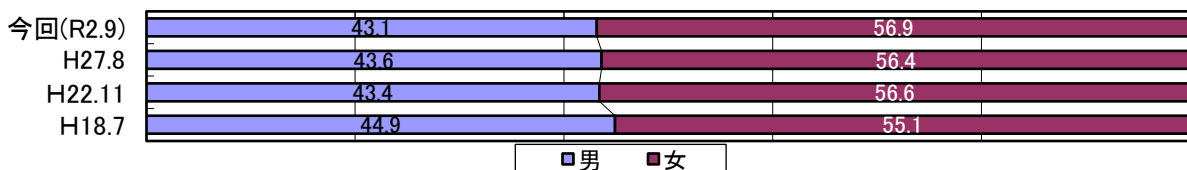
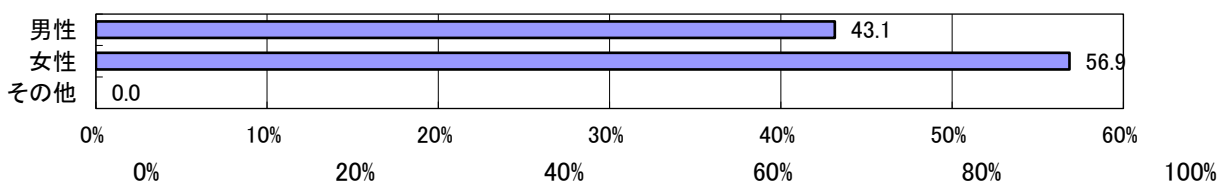
第2章 単純集計結果

1 回答者の属性

問1
はじめに、あなたご自身のことについておたずねします。

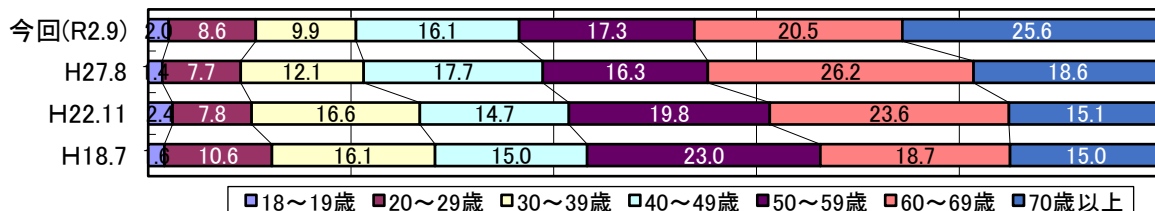
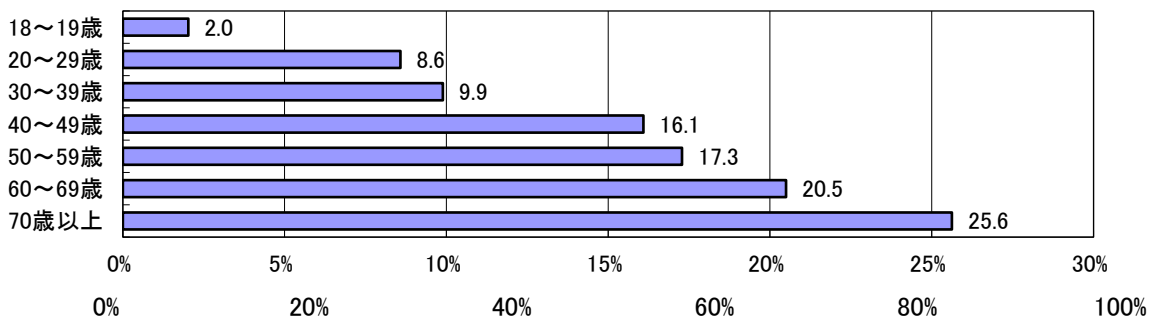
問1.1 性別 (SA)

回答数/回収数		832/841	
項目	回答数	構成比	
男性	359	43.1	
女性	473	56.9	
その他	0	0.0	
合計	832	100.0	



問1.2 年齢 (SA)

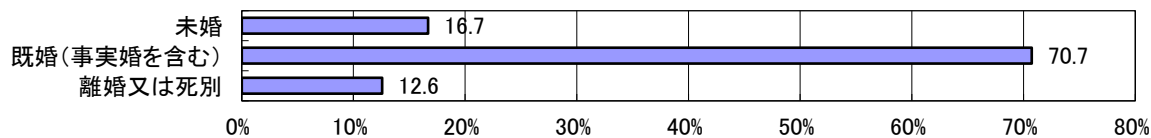
回答数/回収数		839/841	
項目	回答数	構成比	
18~19歳	17	2.0	
20~29歳	72	8.6	
30~39歳	83	9.9	
40~49歳	135	16.1	
50~59歳	145	17.3	
60~69歳	172	20.5	
70歳以上	215	25.6	
合計	839	100.0	



問1.3 結婚（SA）

回答数/回収数 827/841

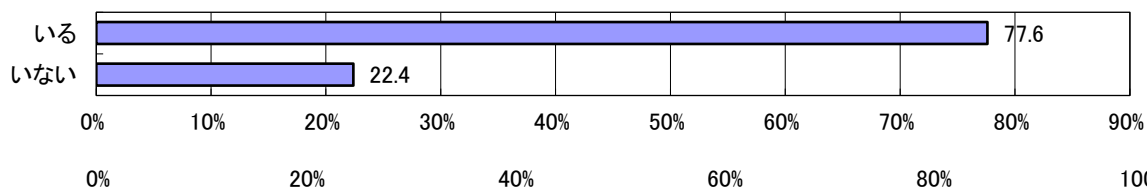
項目	回答数	構成比
未婚	138	16.7
既婚（事実婚を含む）	585	70.7
離婚又は死別	104	12.6
合計	827	100.0



問1.4 子ども（SA）

回答数/回収数 835/841

項目	回答数	構成比
いる	648	77.6
いない	187	22.4
合計	835	100.0

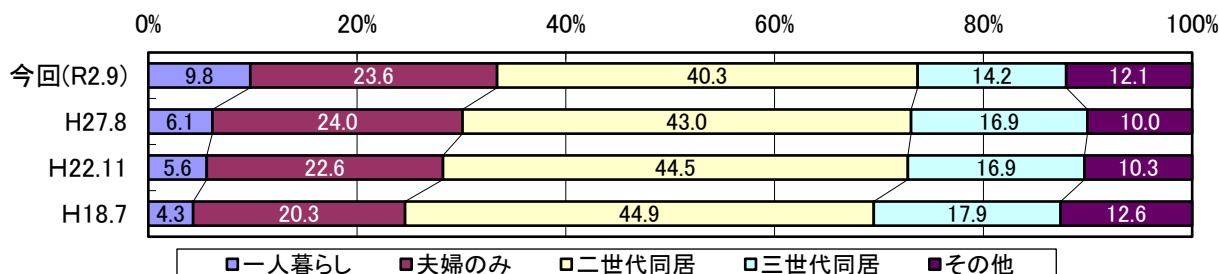
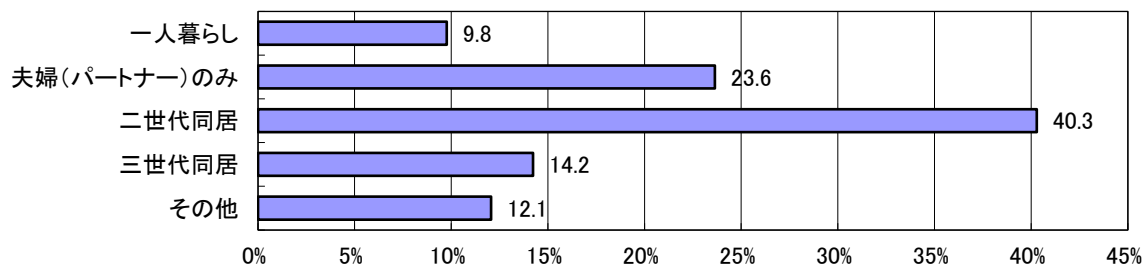


第2章 単純集計結果 1 回答者の属性

問1.5.1 家族形態（SA）

回答数/回収数 829/841

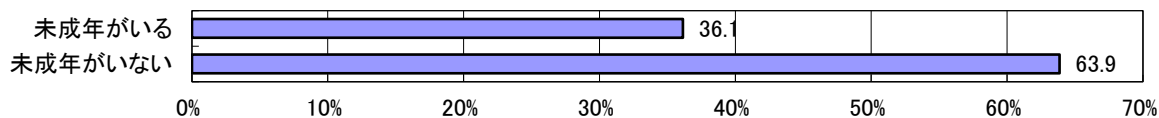
項目	回答数	構成比
一人暮らし	81	9.8
夫婦（パートナー）のみ	196	23.6
二世帯同居	334	40.3
三世帯同居	118	14.2
その他	100	12.1
合計	829	100.0



問1.5.2 未成年（SA）

回答数/回収数 736/841

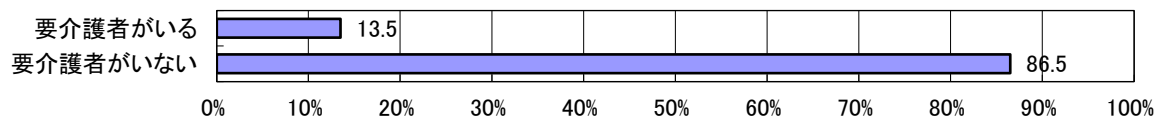
項目	回答数	構成比
未成年がいる	266	36.1
未成年がいない	470	63.9
合計	736	100.0



問1.5.3 要介護者（SA）

回答数/回収数 741/841

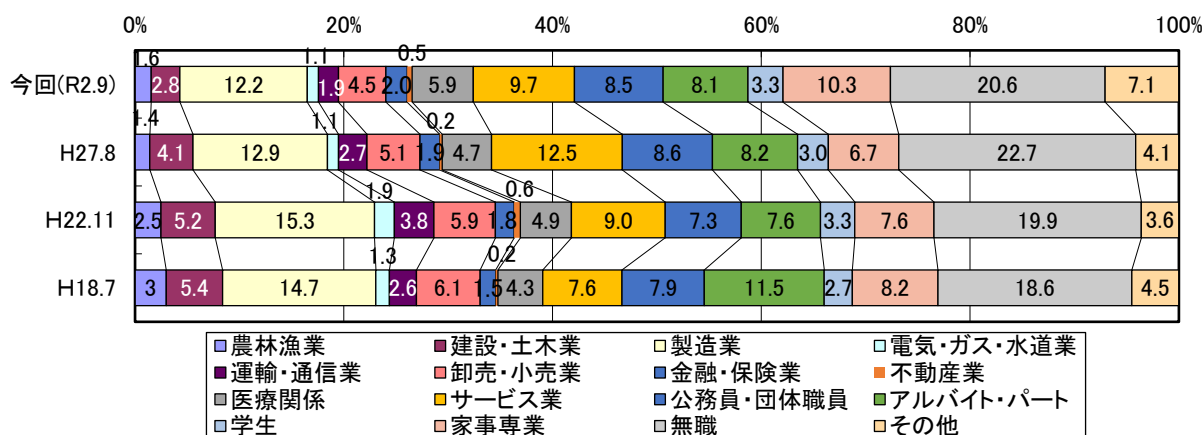
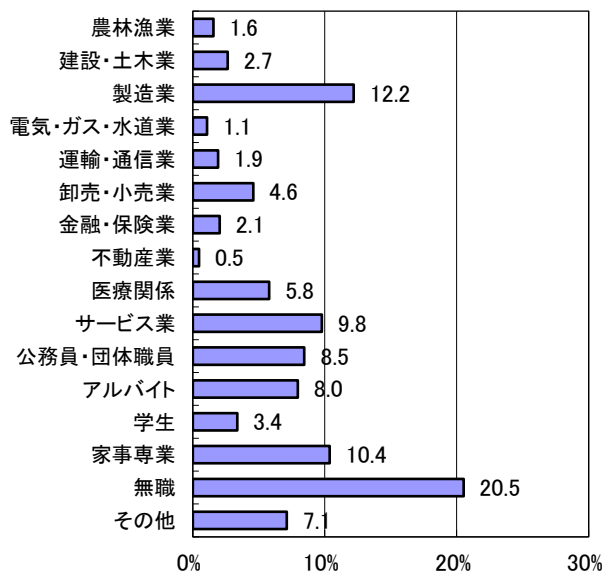
項目	回答数	構成比
要介護者がいる	100	13.5
要介護者がいない	641	86.5
合計	741	100.0



問1.6 職業（SA）

回答数/回収数 836/841

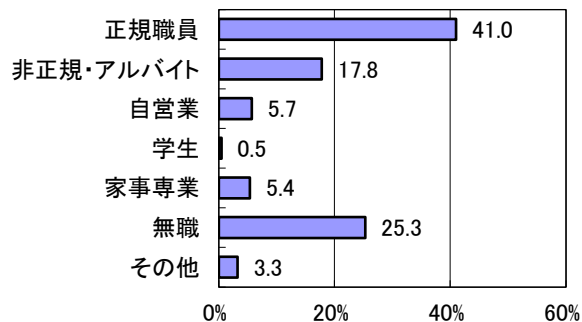
項目	回答数	構成比
農林漁業	13	1.6
建設・土木業	23	2.8
製造業	102	12.2
電気・ガス・水道業	9	1.1
運輸・通信業	16	1.9
卸売・小売業	38	4.5
金融・保険業	17	2.0
不動産業	4	0.5
医療関係	49	5.9
サービス業	81	9.7
公務員・団体職員	71	8.5
アルバイト	68	8.1
学生	28	3.3
家事専業	86	10.3
無職	172	20.6
その他	59	7.1
合計	836	100.0



問1.7 配偶者（パートナー）の就業状況（SA）

回答数 620

項目	回答数	構成比
正規職員	254	41.0
非正規・アルバイト	110	17.7
自営業	35	5.6
学生	3	0.5
家事専業	33	5.3
無職	157	25.3
その他	20	3.2
合計	620	100.0

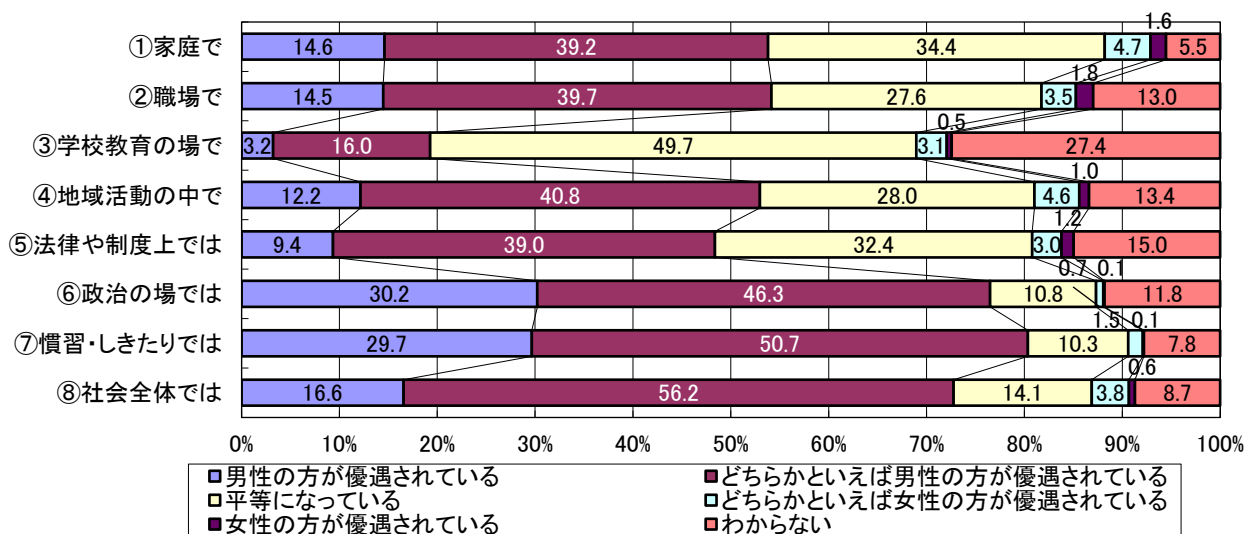


2 男女平等意識について

問2
あなたは次の各分野で男女の地位は平等になっていると考えますか。①～⑧の各分野について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つ選んで番号に○印をつけてください。(S A)

回答数/回収数 815/841

項目	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	合計
①家庭で	14.6	39.2	34.4	4.7	1.6	5.5	100.0
②職場で	14.5	39.7	27.6	3.5	1.8	13.0	100.0
③学校教育の中で	3.2	16.0	49.7	3.1	0.5	27.4	100.0
④地域活動の中で	12.2	40.8	28.0	4.6	1.0	13.4	100.0
⑤法律や制度上では	9.4	39.0	32.4	3.0	1.2	15.0	100.0
⑥政治の場では	30.2	46.3	10.8	0.7	0.1	11.8	100.0
⑦慣習・しきたりでは	29.7	50.7	10.3	1.5	0.1	7.8	100.0
⑧社会全体では	16.6	56.2	14.1	3.8	0.6	8.7	100.0



<集計結果>

男女の地位の平等感について家庭や職場など7つの分野ごとに聞いたところ、「平等になっている」と答えた人の割合は、「家庭」で34.4%、「職場」で27.6%、「学校」で49.7%、「地域活動」で28.0%、「法律や制度」で32.4%、「政治の場」で10.8%、「慣習・しきたり」で10.3%となっている。7つの分野の他に「社会全体」としての男女の平等を感じているとする人は14.1%であった。

「学校」など、一部で男女平等が進んでいることが把握できるが、社会全体的に男性が優遇されている意識が認識できる。

① 家庭で

家庭では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 51.9%、「平等になっている」と答えた人の割合が 33.2%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とする人の割合が 6.0%となっている。

<性別による比較>

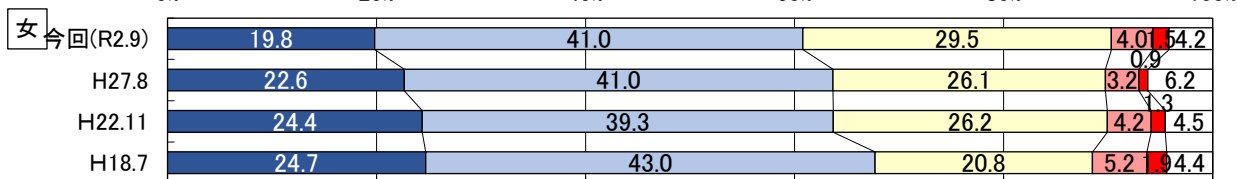
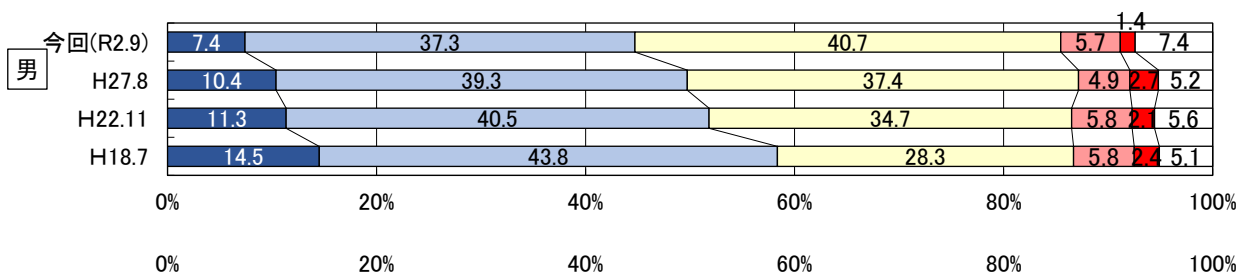
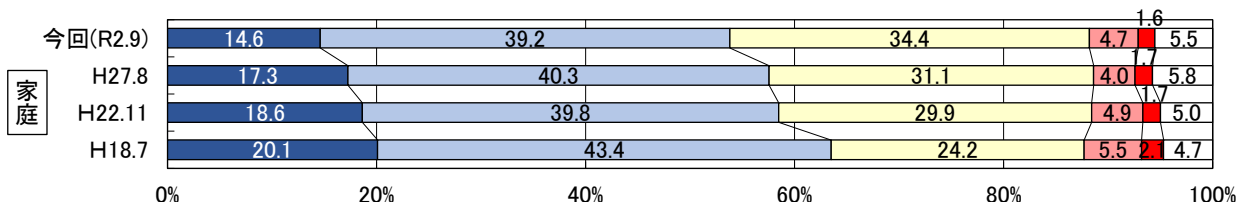
男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性 (42.9%) より女性 (58.9%) の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性 (28.6%) より男性 (39.1%) の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

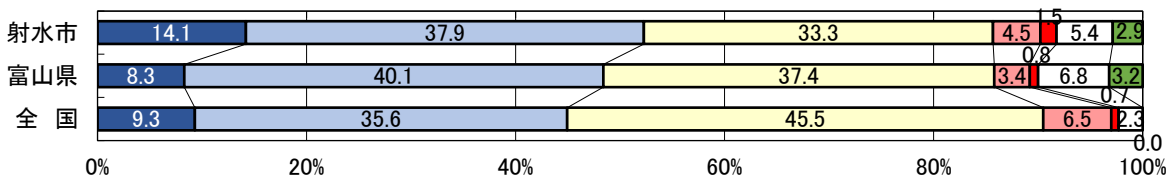
「平等になっている」と答えた人の割合は平成 18 年より 10.2 ポイント (24.2%→29.9%→31.1%→34.4%) 増加している。男性では 12.4 ポイント (28.3%→34.7%→37.4%→40.7%)、女性では 8.7 ポイント (20.8%→26.2%→26.1%→29.5%) 増加している。

<富山県調査、全国調査との比較>

「平等になっている」と答えた人の割合は、富山県 (37.4%) より 4.1 ポイント低く、全国 (45.5%) より 12.2 ポイント低くなっている。



■男性の方が優遇されている □どちらかといえば男性の方が優遇されている
 □平等になっている ■どちらかといえば女性の方が優遇されている
 ■女性の方が優遇されている □わからない



■男性の方が優遇されている □どちらかといえば男性の方が優遇されている
 □平等になっている ■どちらかといえば女性の方が優遇されている
 ■女性の方が優遇されている □わからない
 ■無回答

※富山県、全国との比較は無回答含む

② 職場で

職場では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 53.6%、「平等になっている」と答えた人の割合が 27.6%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とする人の割合が 5.3%となっている。

<性別による比較>

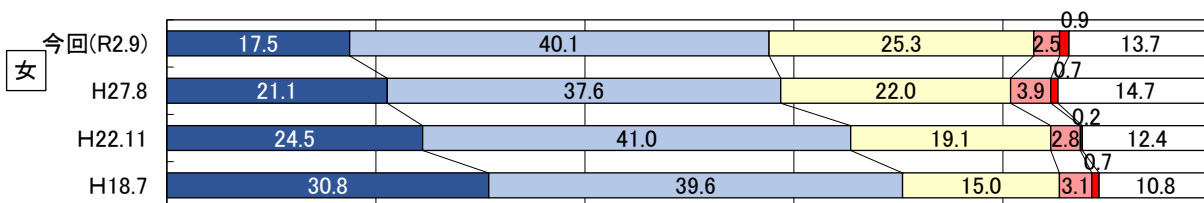
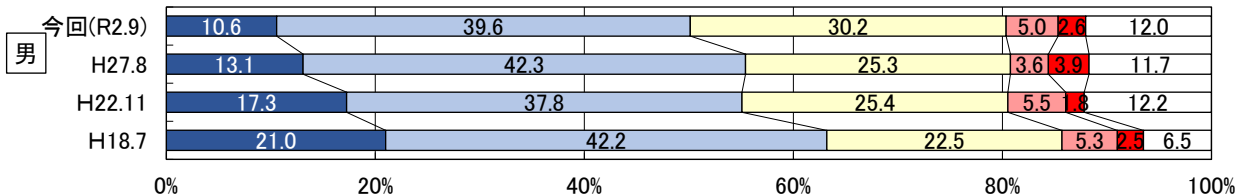
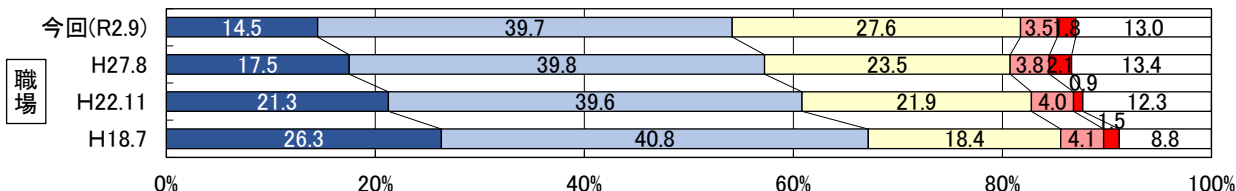
性別で見ると、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（50.2%）より女性（57.6%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（25.3%）より男性（30.2%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

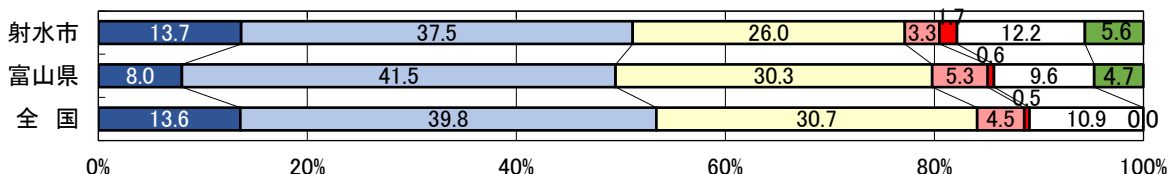
前回調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は平成 18 年から 9.2 ポイント（18.4%→21.9%→23.5%→27.6%）増加している。男性では 7.7 ポイント（22.5%→25.4%→25.3%→30.2%）、女性では 10.3 ポイント（15.0%→19.1%→22.0%→25.3%）増加している。

<富山県調査、全国調査との比較>

富山県調査、全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、富山県（30.3%）より 4.3 ポイント低く、全国（30.7%）より 4.7 ポイント低くなっている。



■ 男性の方が優遇されている □ どちらかといえば男性の方が優遇されている
□ 平等になっている ■ どちらかといえば女性の方が優遇されている
■ 女性の方が優遇されている □ わからない



■ 男性の方が優遇されている □ どちらかといえば男性の方が優遇されている
□ 平等になっている ■ どちらかといえば女性の方が優遇されている
■ 女性の方が優遇されている ■ 無回答
□ わからない

※富山県、全国との比較は無回答含む

③ 学校教育の場で

学校では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 19.2%、「平等になっている」と答えた人の割合が 49.7%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とする人の割合が 3.5%となっている。前回調査と同様に、他分野と比較して、「平等になっている」と答えた人の割合が高いが、「わからない」とする人の割合も高い。

<性別による比較>

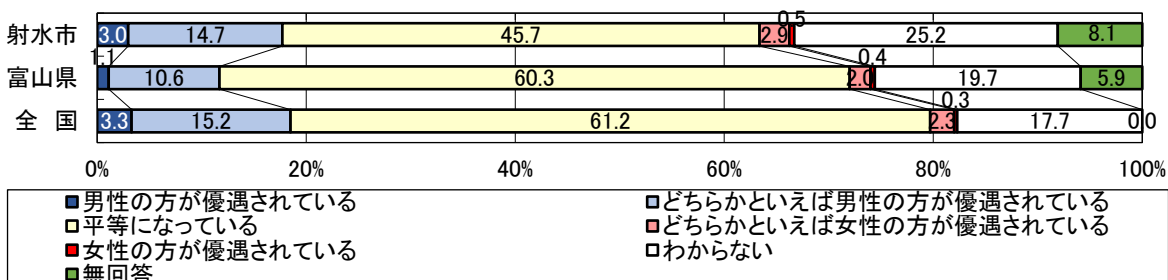
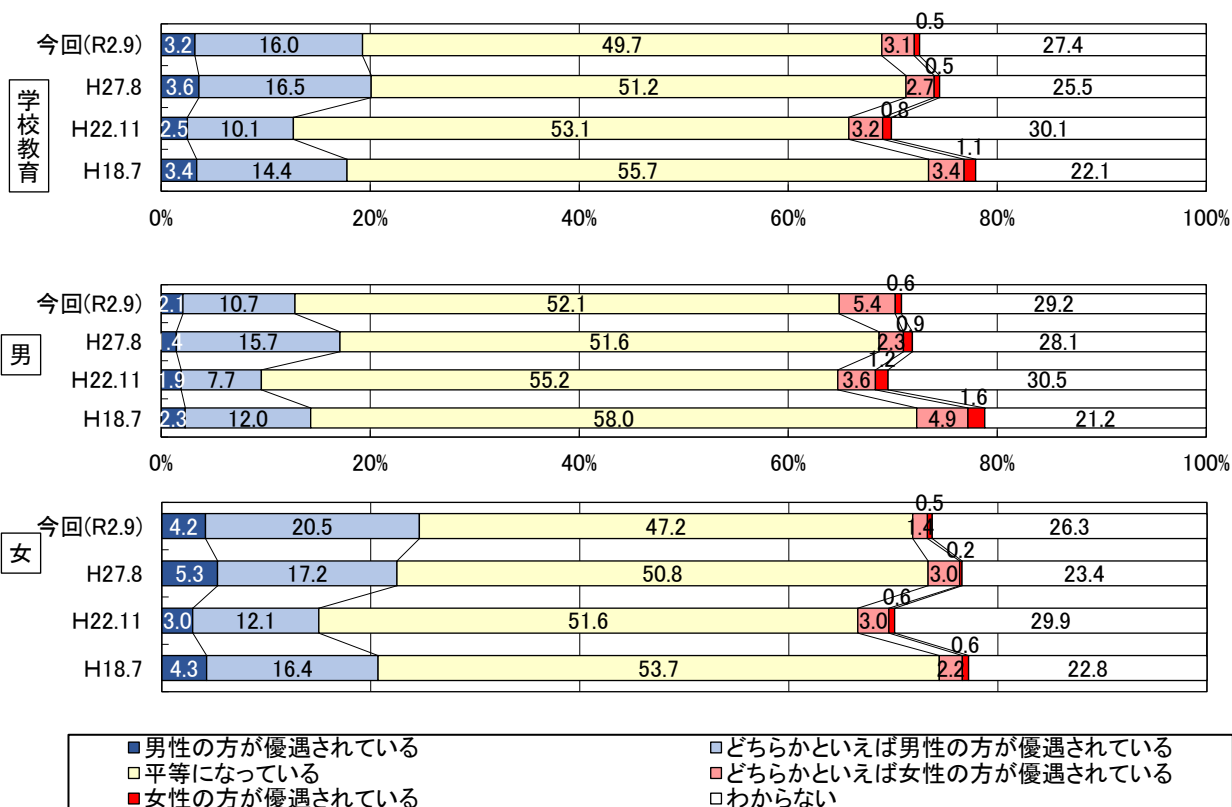
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（12.8%）より女性（24.7%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（47.2%）より男性（52.1%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

前回調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は平成 18 年より 6.4 ポイント（55.7%→53.1%→51.2%→49.3%）減少している。男性では 5.9 ポイント（58.0%→55.2%→51.6%→52.1%）、女性では 6.5 ポイント（53.7%→51.6%→50.8%→47.2%）減少している。

<富山県調査、全国調査との比較>

富山県調査、全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、富山県（60.3%）より 15.4 ポイント、全国（61.2%）より 16.3 ポイントそれぞれ低くなっている。



※富山県、全国との比較は無回答含む

④ 地域活動の中で

地域活動では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 53.0%、「平等になっている」と答えた人の割合が 28.0%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」とする人の割合が 5.6%となっている。

＜性別による比較＞

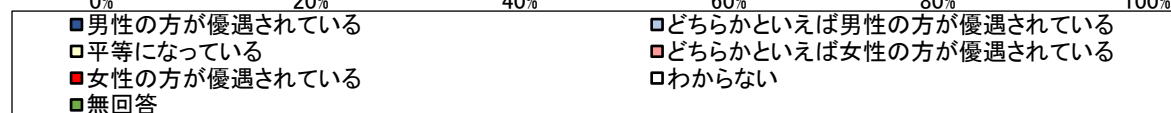
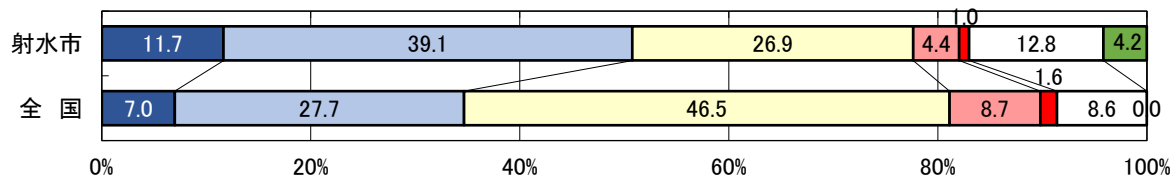
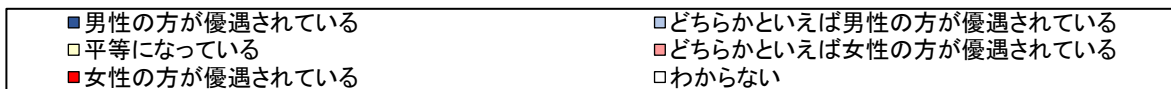
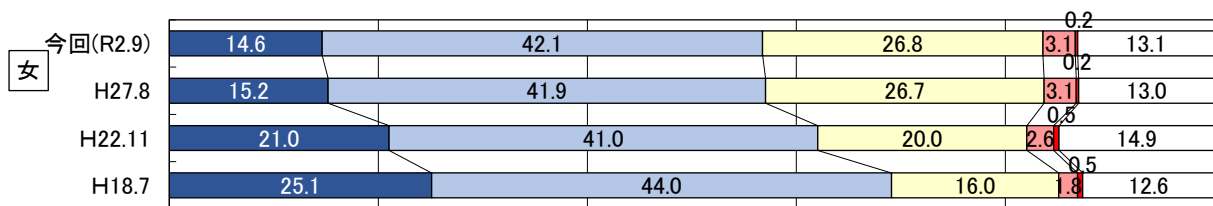
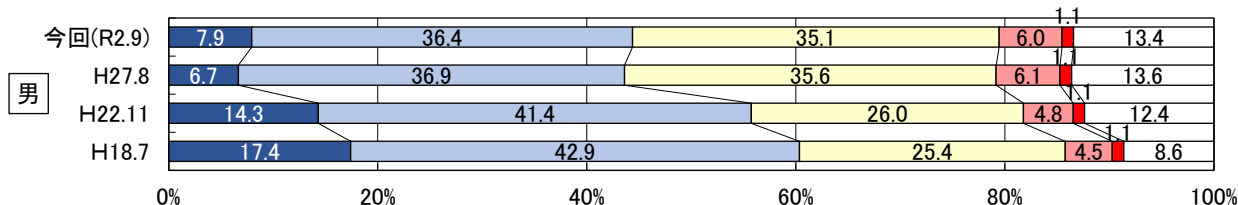
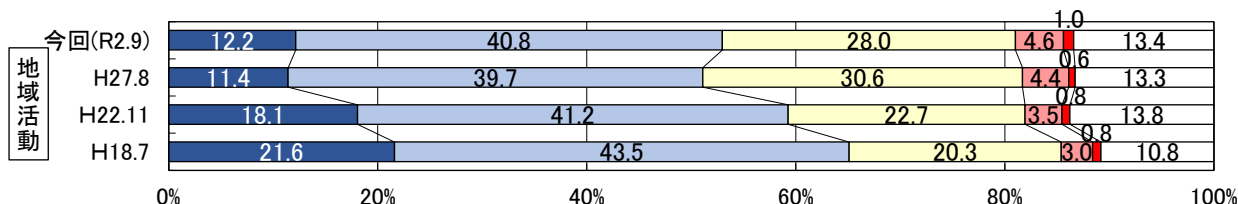
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（44.3%）より女性（56.7%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（26.8%）より男性（35.1%）の方が高くなっている。

＜既往調査との比較＞

「平等になっている」と答えた人の割合は平成 18 年より 7.7 ポイント（20.3%→22.7%→30.6%→28.0%）増加している。男性では 9.7 ポイント（25.4%→26.0%→35.6%→35.1%）、女性では 10.8 ポイント（16.0%→20.0%→26.7%→26.8%）増加している。

＜全国調査との比較＞

全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、全国（46.5%）より 19.6 ポイント低くなっている。



※富山県調査データなし ※全国との比較は無回答含む

⑤ 法律や制度で

法律や制度では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 48.4%、「平等になっている」と答えた人の割合が 32.4%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」とする人の割合が 4.2%となっている。

<性別による比較>

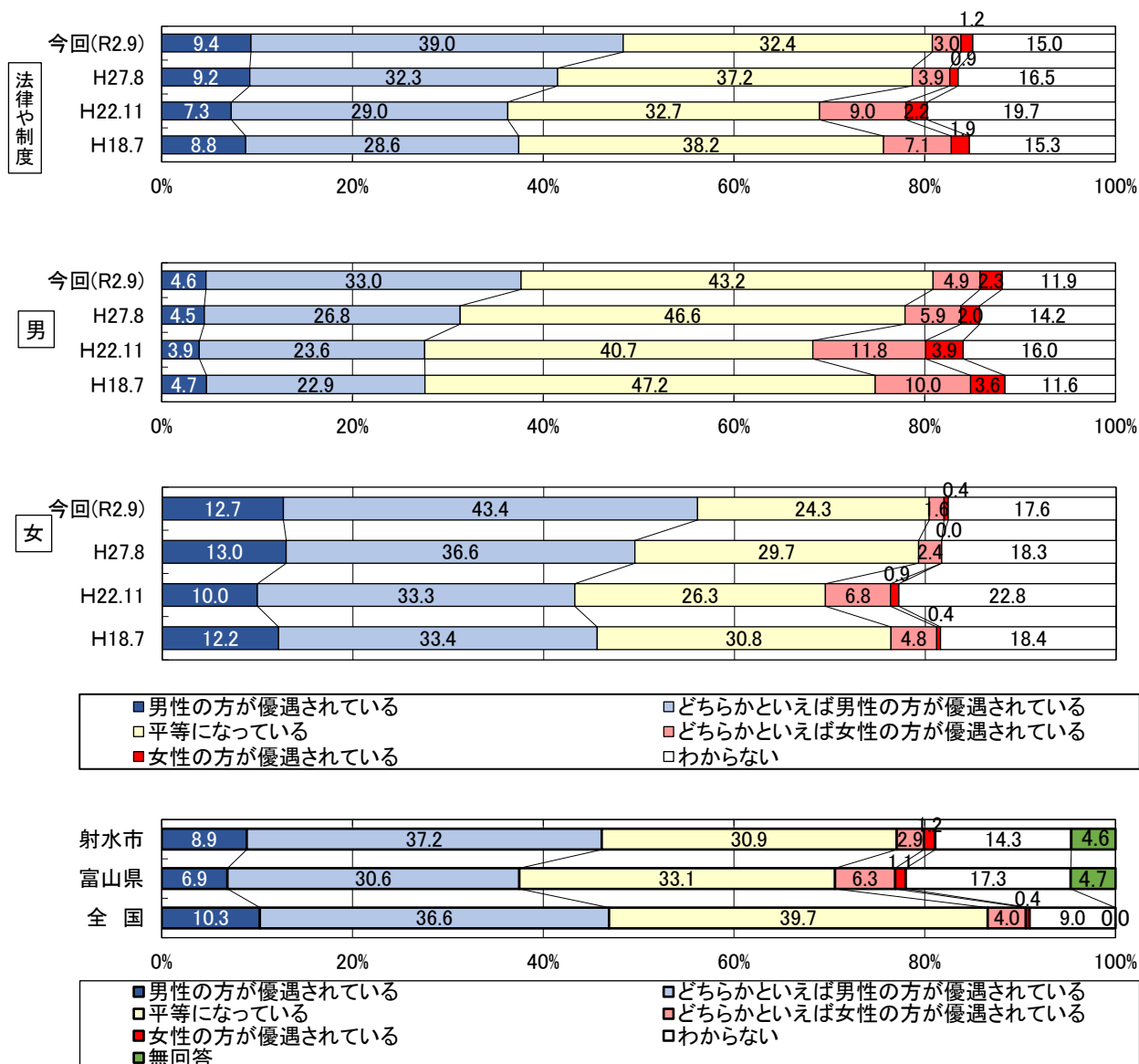
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性 (37.6%) より女性 (56.1%) の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性 (24.3%) より男性 (43.2%) の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

「平等になっている」と答えた人の割合は平成 18 年に比べ 5.8 ポイント (38.2%→32.7%→37.2%→32.4%) 減少している。男性では 4.0 ポイント (47.2%→40.7%→46.6%→43.2%)、女性では 6.5 ポイント (30.8%→26.3%→29.7%→24.3%) 減少している。

<富山県調査、全国調査との比較>

富山県調査、全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、富山県 (33.1%) より 2.2 ポイント、全国 (39.7%) より 8.8 ポイントそれぞれ低くなっている。



※富山県、全国との比較は無回答含む

⑥ 政治の場で

政治の場では、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 76.5%、「平等になっている」と答えた人の割合が 10.8%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とする人の割合が 0.8%となっている。

<性別による比較>

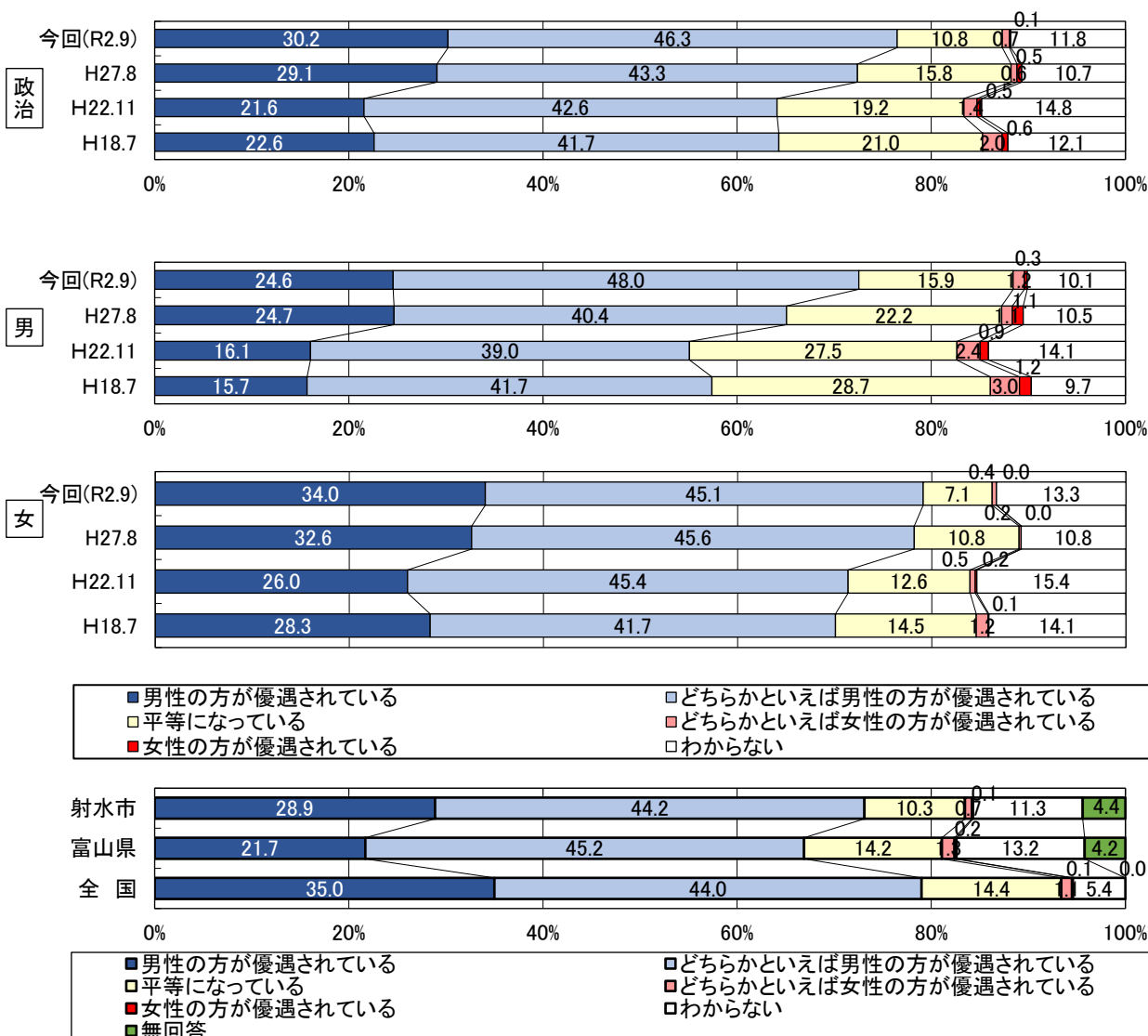
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（72.6%）より女性（79.1%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（7.1%）より男性（15.9%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

「平等になっている」と答えた人の割合は平成 18 年より 10.2 ポイント（21.0%→19.2%→15.8%→10.8%）低下している。男性では 12.8 ポイント（28.7%→27.5%→22.2%→15.9%）、女性では 7.4 ポイント（14.5%→12.6%→10.8%→7.1%）低下している。

<富山県調査、全国調査との比較>

富山県調査、全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、富山県（14.2%）より 3.9 ポイント低く、全国（14.4%）より 4.1 ポイント低くなっている。



※富山県、全国との比較は無回答含む

⑦ 慣習、しきたりで

慣習、しきたりでは、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 80.4%、「平等になっている」と答えた人の割合が 10.3%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とする人の割合が 1.6%となっている。

<性別による比較>

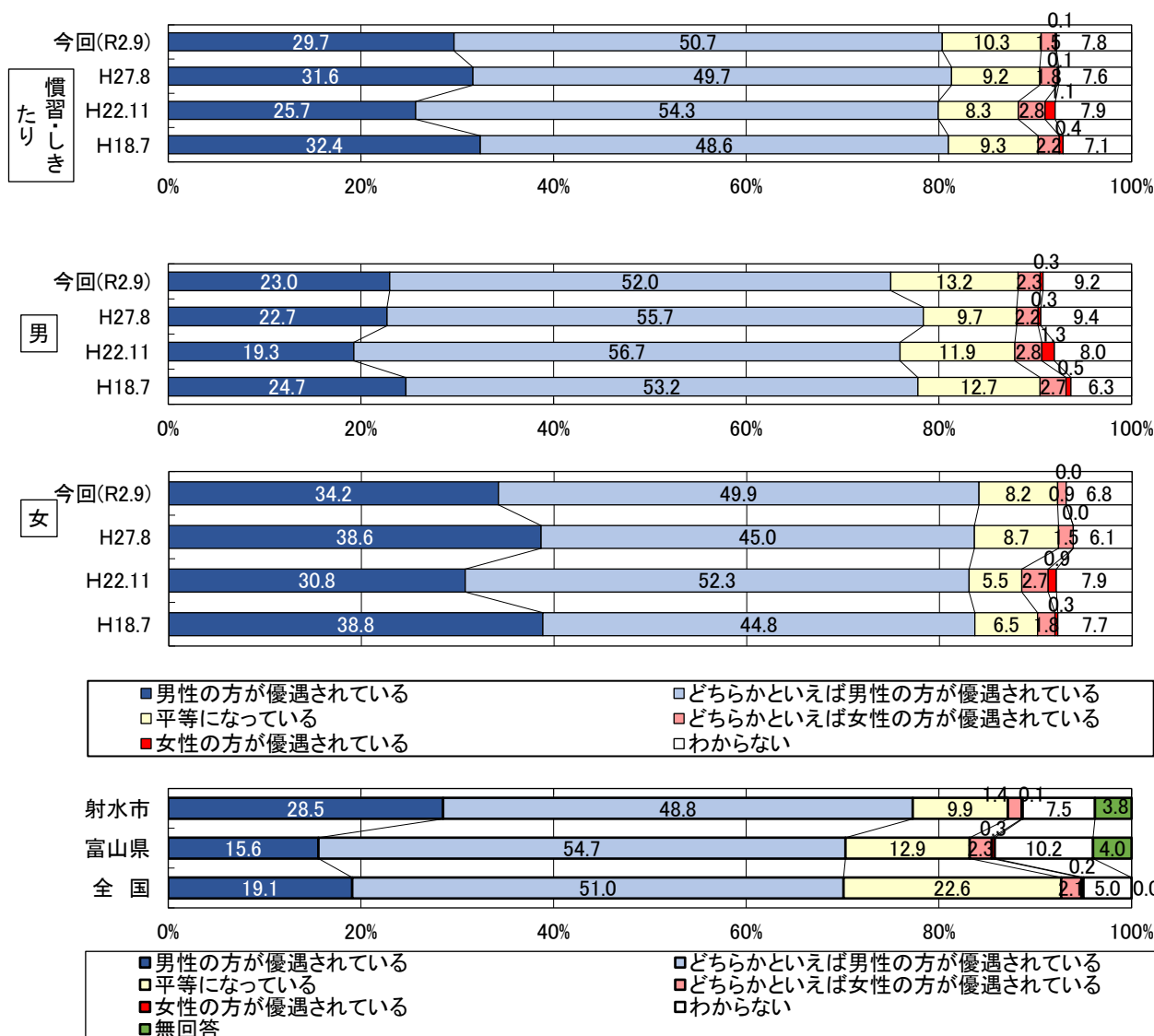
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（75.0%）より女性（84.1%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（8.2%）より男性（13.2%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

「平等になっている」と答えた人の割合は平成 18 年と比べ 1.0 ポイント（9.3%→8.3%→9.2%→10.3%）増加している。男性では 0.5 ポイント（12.7%→11.9%→9.7%→13.2%）増加し、女性では 1.7 ポイント（6.5%→5.5%→8.7%→8.2%）増加している。

<富山県調査、全国調査との比較>

富山県調査、全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、富山県（12.9%）より 3.0 ポイント、全国（22.6%）より 12.7 ポイント低くなっている。



※富山県、全国との比較は無回答含む

⑧ 社会全体では

社会全体にみて、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合が 72.8%、「平等になっている」と答えた人の割合が 14.1%、「女性の方が優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」とする人の割合が 4.4%となっている。

<性別による比較>

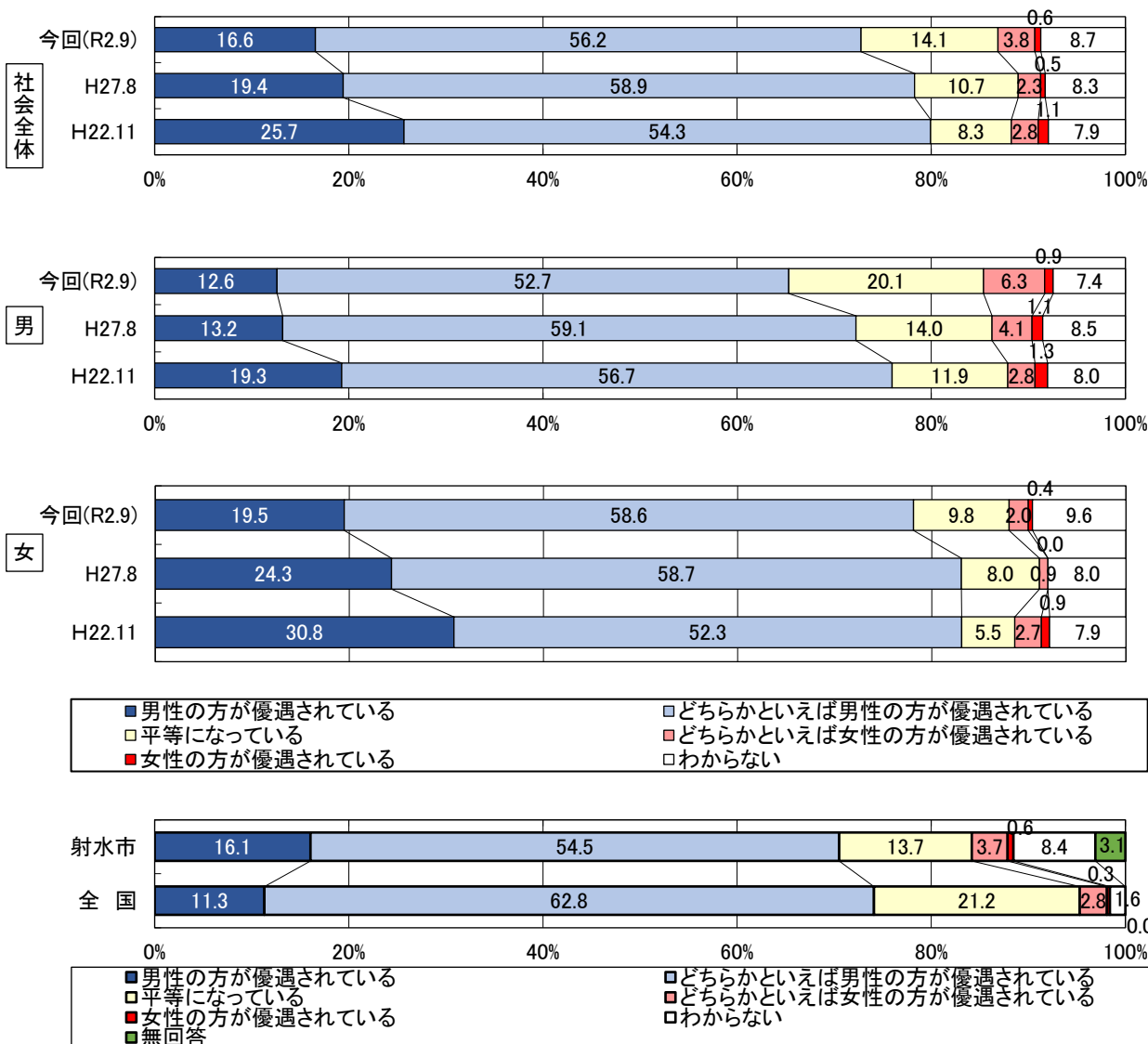
「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」とする人の割合は、男性（65.3%）より女性（78.1%）の方が高くなっている。また、「平等になっている」と答えた人の割合は、女性（9.8%）より男性（20.1%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

「平等になっている」と答えた人の割合は 5.8 ポイント（8.3%→10.7%→14.1%）上昇している。男性では8.2ポイント（11.9%→14.0%→20.1%）、女性では4.3ポイント（5.5%→8.0%→9.8%）増加している。

<全国調査との比較>

全国調査と比較すると、「平等になっている」と答えた人の割合は、全国（21.2%）より 7.5 ポイント低くなっている。



※富山県調査データなし、※全国との比較は無回答含む

3 家庭生活について

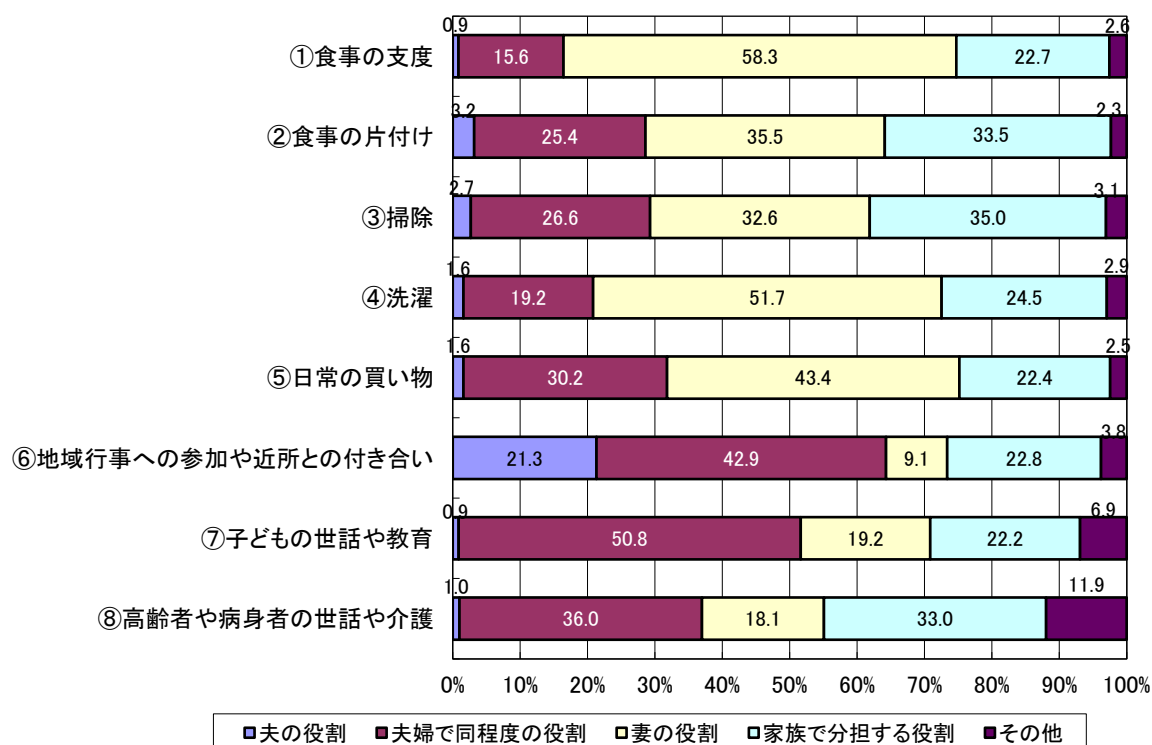
問3

次の①～⑧の家庭の仕事は、誰の役割だと思いますか。

①～⑧の各項目について、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つ選んで番号に○印をつけてください。(SA)

(上段：回答数、下段：%)

項目	家事一般					合計
	夫の役割	夫婦で同程度の役割	妻の役割	家族で分担する役割	その他	
①食事の支度	7 0.9	127 15.6	475 58.3	185 22.7	21 2.6	815 100.0
②食事の片付け	26 3.2	206 25.4	288 35.5	272 33.5	19 2.3	811 100.0
③掃除	22 2.7	217 26.6	266 32.6	286 35.0	25 3.1	816 100.0
④洗濯	13 1.6	157 19.2	422 51.7	200 24.5	24 2.9	816 100.0
⑤日常の買い物	13 1.6	246 30.2	353 43.4	182 22.4	20 2.5	814 100.0
⑥地域行事への参加や近所との付き合い	7 21.3	350 42.9	74 9.1	186 22.8	31 3.8	648 100.0
⑦子どもの世話や教育	8 0.9	404 50.8	153 19.2	177 22.2	55 6.9	797 100.0
⑧高齢者や病身者の世話や介護	8 1.0	286 36.0	144 18.1	262 33.0	95 11.9	795 100.0



① 家事一般（食事の支度、食事の後片付け、掃除、洗濯、日常の買い物）

家庭における家事一般の役割分担について聞いたところ、「妻」と答えた人の割合が44.3%と最も高く、次いで、「家族で分担する役割」27.6%、「夫婦で同程度の役割」23.4%の順となった。家事一般の内訳では、「食事の支度」について「妻」の割合が最も高くなっており、58.3%を

第2章 単純集計結果 3 家庭生活について

占めている。「家族で分担する」が最も多かったのは「掃除」で35.0%、次いで「食事の片付け」33.5%という順になっている。

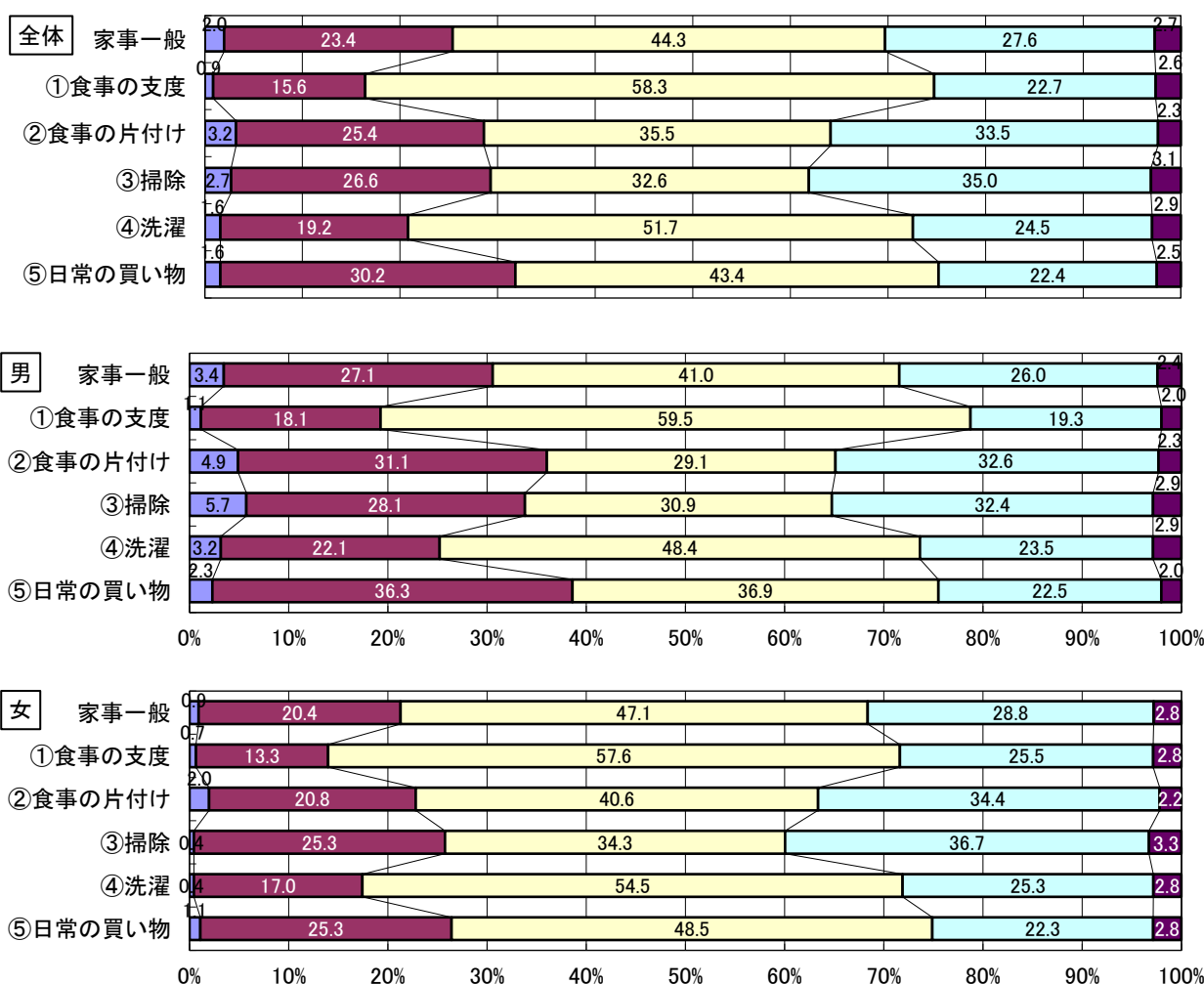
「夫婦で同程度の役割」としたのは「日常の買物」で30.2%、次いで「掃除」26.6%、「食事の片付け」25.4%となっている。

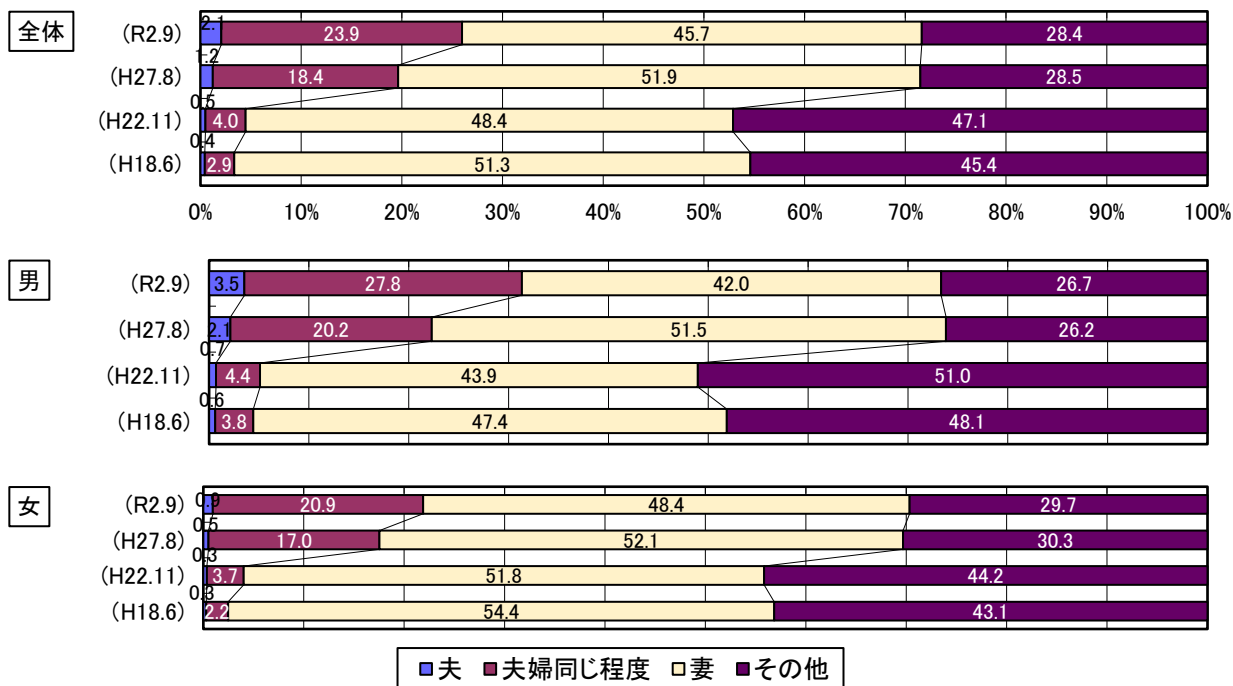
<性別による比較>

「妻」と答えた人の割合は男女ともに高くなっている。全体的に男性が「夫婦で分担する役割」が多いのに対し、女性は「家族で分担する役割」と回答している割合が多くなっている。

<既往調査との比較>

今年度調査では「夫婦同じ程度」と回答している人の割合が男女ともに増えている。



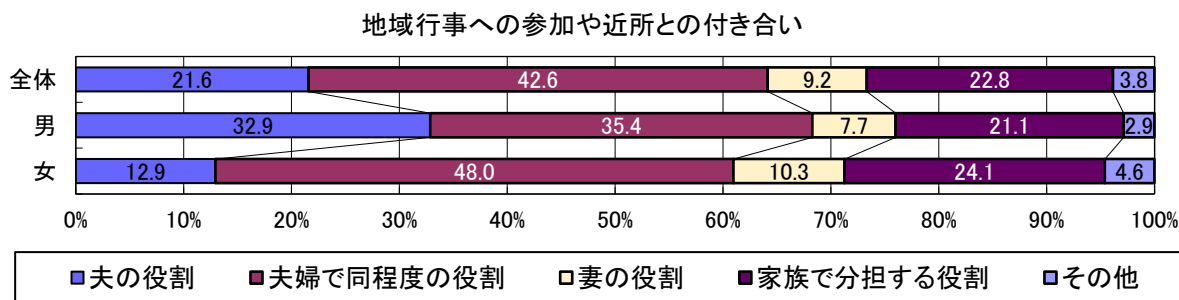


② 地域行事への参加や近所との付き合い

家庭における地域行事への参加や近所との付き合いの役割分担について聞いたところ、「夫婦で同程度」と答えた人の割合が42.6%と最も高く、次いで、「家族で分担する役割」22.8%、「夫の役割」21.6%の順となった。

<性別による比較>

「夫婦で同程度」と答えた人の割合は男女ともに高くなっている。男性が「夫の役割」と回答している割合が32.9%であるのに対し、女性は12.9%と20.0ポイント低い。また、「家族で分担する役割」と回答している割合も男性21.1%、女性24.1%と男性の方が3.0ポイント低くなっている。



③ 子どもの世話や教育

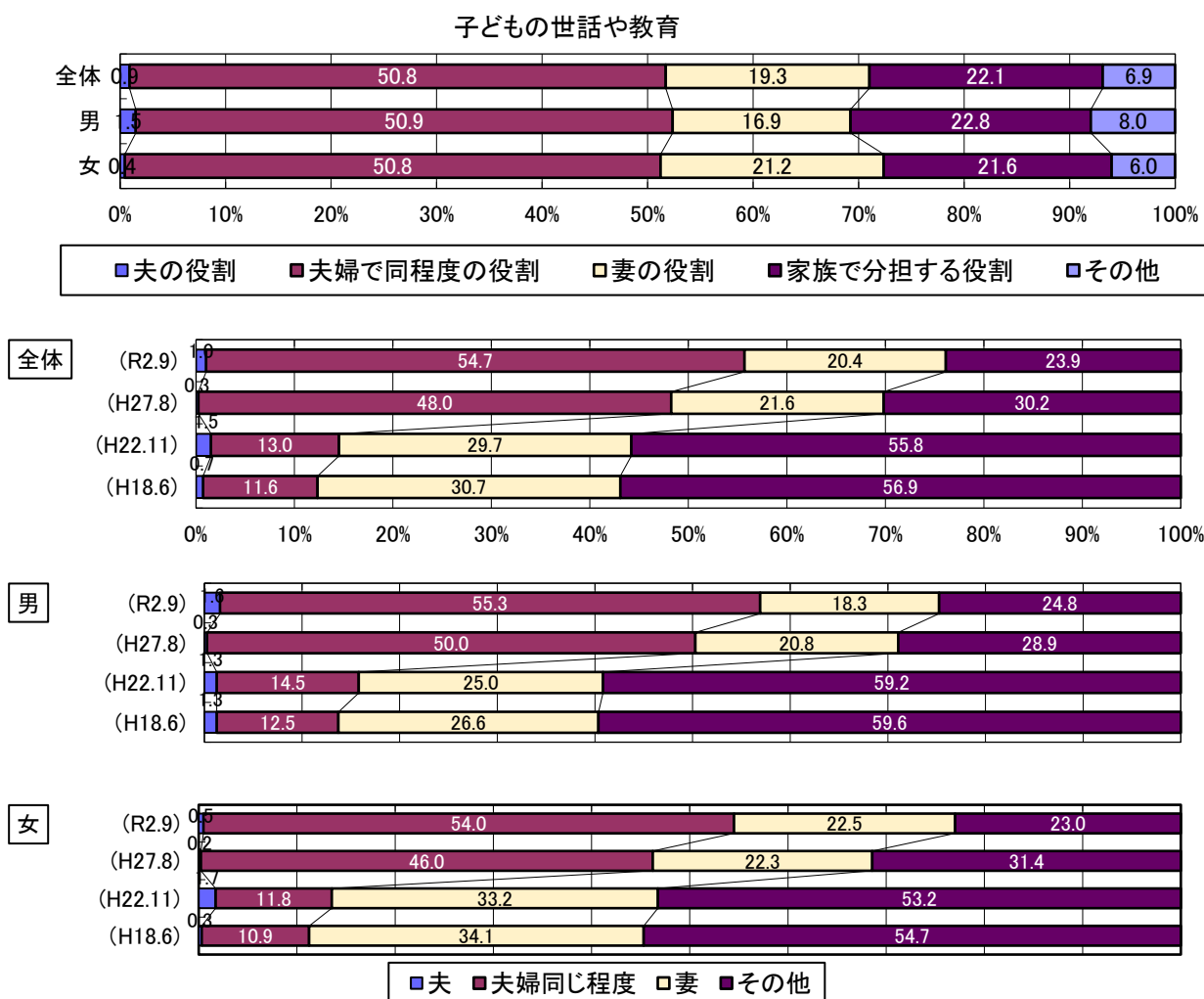
家庭における子どもの世話や教育の役割分担について聞いたところ、「夫婦で同程度」と答えた人の割合が50.8%と最も高く、次いで、「家族で分担する役割」22.1%、「妻の役割」19.3%の順となっている。

<性別による比較>

「夫婦で同程度」と答えた人の割合は男女ともに高くなっている。また、「妻の役割」と回答している割合も女性の方が男性よりも高くなっている。

<既往調査との比較>

「妻」の役割の回答が(30.7%→29.7%→21.6%→20.4%)と減少し、「夫婦同じ程度」の割合が(11.6%→13.0%→48.0%→54.7%)増加している。



④ 高齢者や病身者の世話

家庭における高齢者や病身者の世話の役割分担について聞いたところ、「夫婦で同程度の役割」と答えた人の割合が35.8%と最も高く、次いで、「家族で分担する」33.0%、「妻」18.2%の順となっている。

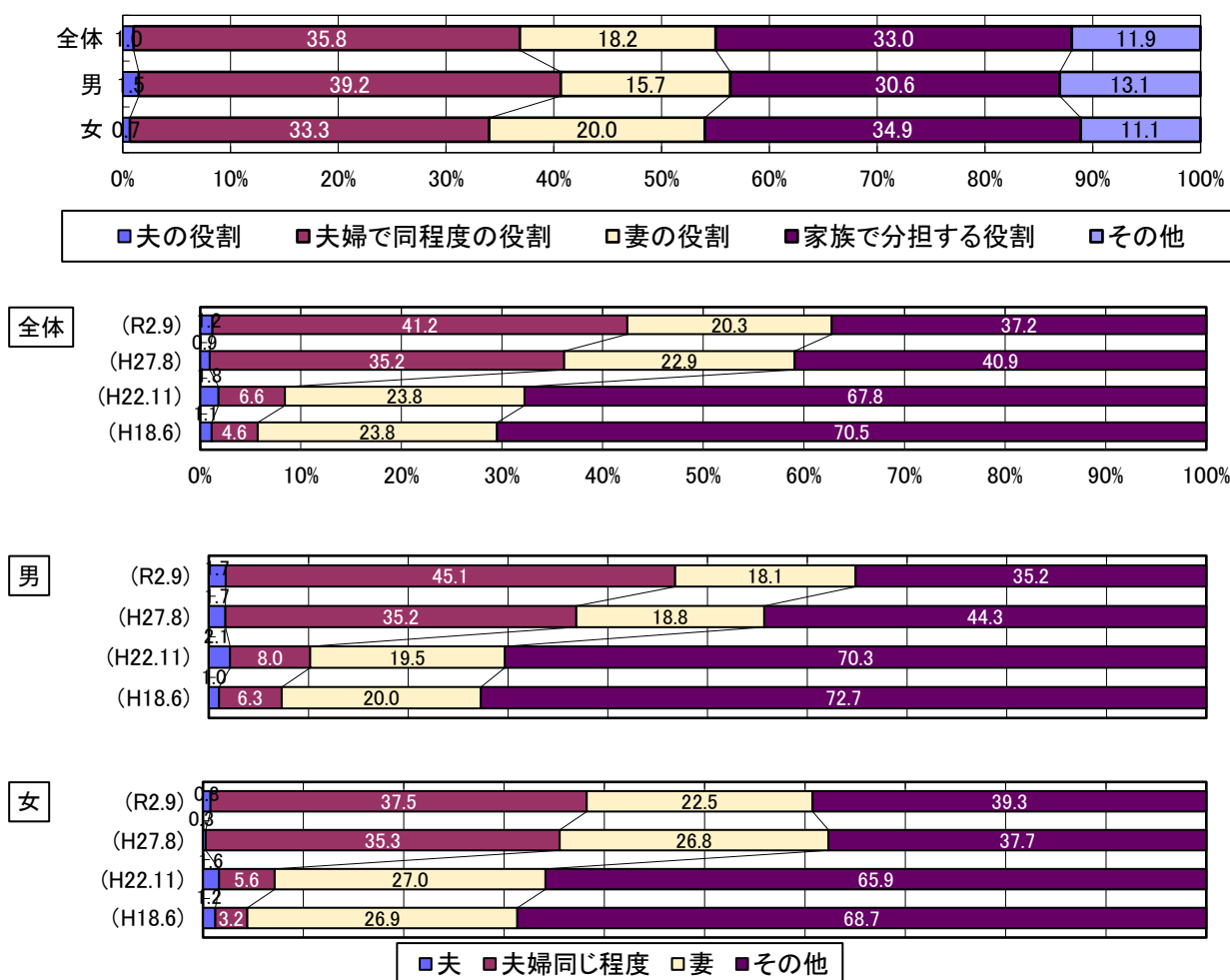
<性別による比較>

男性が「夫婦で同程度」と答えた人の割合が39.2%と最も高いのに対し、女性は33.3%と5.9ポイント低くなっている。女性は「家族で分担する役割」と回答した割合が最も高く、34.9%となっている。

<既往調査との比較>

前問と同様に、全体的に「妻」の役割とする回答が減少し、「夫婦で同じ程度」と回答する割合が増加している。

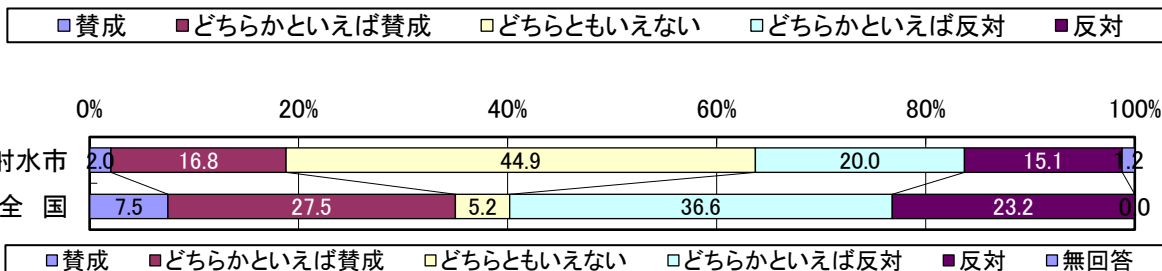
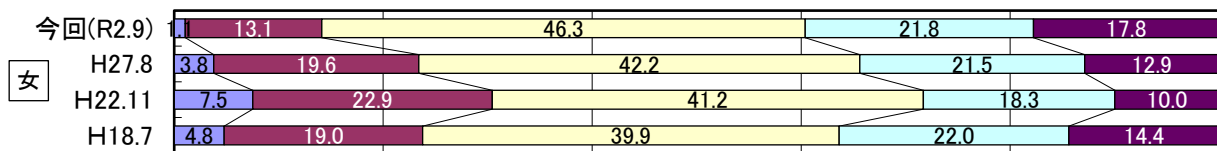
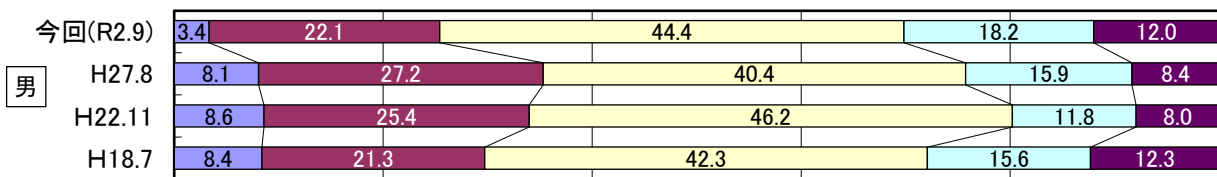
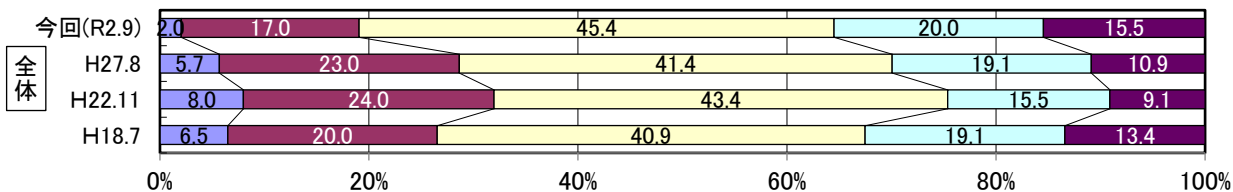
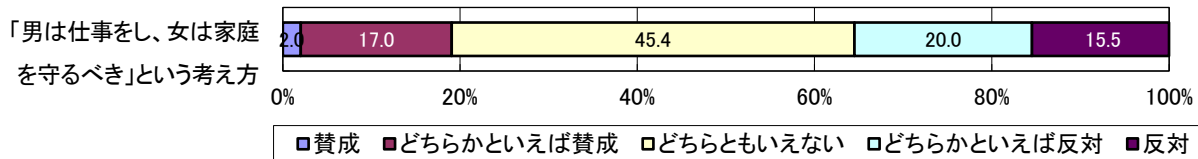
高齢者や病身者の世話や介護



問4
 「男は仕事をし、女は家庭を守るべき」という考え方について、あなたはどのように思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んで番号に○印をつけてください。(SA)

回答数/回収数 834/841

項目	回答数	構成比
賛成	17	2.0
どちらかといえば賛成	142	17.0
どちらともいえない	379	45.4
どちらかといえば反対	167	20.0
反対	129	15.5
合計	834	100.0



※全国との比較は無回答含む

「男は仕事、女は家庭を守るべきである」という考え方について聞いたところ、「賛成」「どちらかといえば賛成」とする人の割合が 19.0 %、「反対」「どちらかといえば反対」とする人の割合が 35.5%と、「賛成」「どちらかといえば賛成」が「反対」「どちらかといえば反対」を 16.5 ポイント下回っている。

<性別との比較>

「賛成」「どちらかといえば賛成」とする人の割合は、女性 (14.2%) より男性 (25.5%) の

方が高くなっている。「反対」「どちらかといえば反対」とする人の割合は、男性（30.2%）より女性（39.6%）の方が高くなっている。

<既往調査との比較>

平成 22 年度以降の調査では、「反対」「どちらかといえば反対」とする人の割合が増加してきている。

<全国調査との比較>

全国調査においても射水市同様に、「反対」「どちらかといえば反対」とする人の割合が「賛成」「どちらかといえば賛成」とする人の割合より高くなっている。

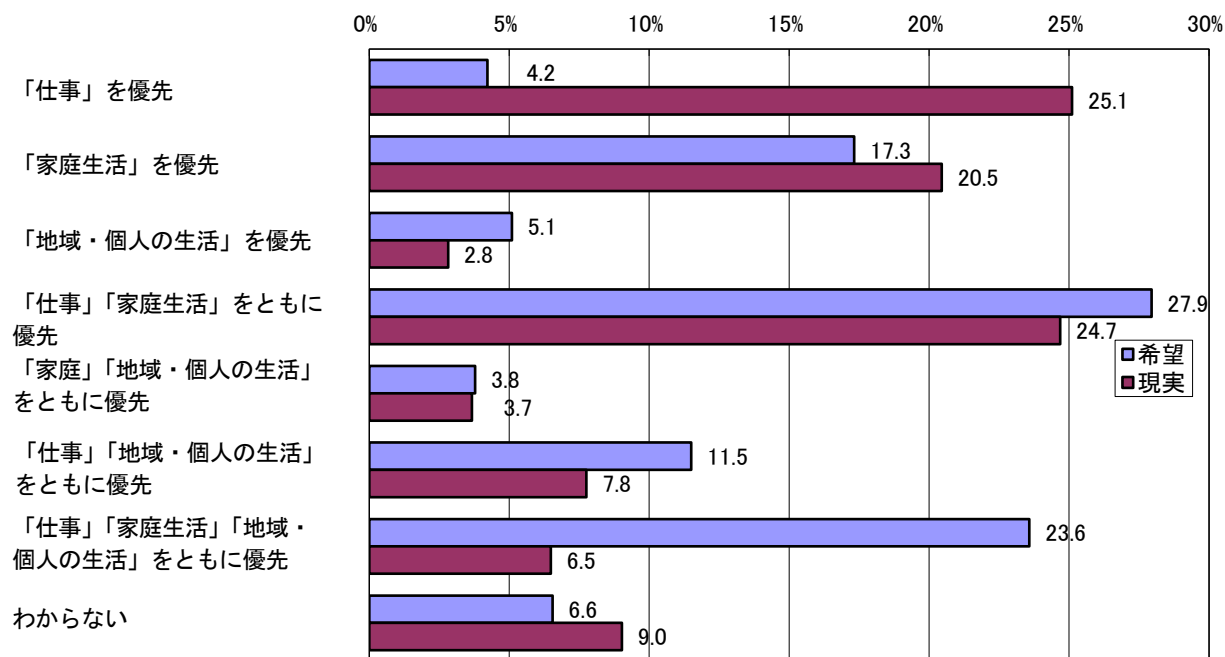
問5
 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動、学習、趣味、付き合い等）の優先度について、(1)あなたの希望に最も近いもの、(2)あなたの現実(現状)に最も近いものを、次の中からそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。(SA)

希望： 回答数/回収数 687/841

現実： 回答数/回収数 709/841

(上段：回答数、下段：%)

項目	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	わからない	合計
希望	29 4.2	119 17.3	35 5.1	192 27.9	26 3.8	79 11.5	162 23.6	45 6.6	687 100.0
現実	178 25.1	145 20.5	20 2.8	175 24.7	26 3.7	55 7.8	46 6.5	64 9.0	709 100.0



「仕事」を優先」と答えた人の割合は、『希望』では 4.2%となっているが、『現実』では 25.1%と最も高くなっている。一方、「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先」と答えた人の割合は、『希望』では 23.6%と高くなっているが、『現実』では 6.5%にとどまっている。

<性別による比較>

男女ともに「仕事」を優先」と答えた人の割合は、男性では希望と現実の差が 26.1 ポイント (希望 7.2%→現実 33.3%)、女性では差は 18.5 ポイント (希望 2.1%→現実 20.6%) と『現実』の方が高くなっている。一方、「家庭生活」を優先」と答えた人の割合は、男性では希望と現実の差が 0.9 ポイント (希望 13.1%→現実 12.2%) と『現実』の方が低くなっているのに対し、女性では差は 6.5 ポイント (希望 20.3%→現実 26.8%) と『現実』の方が高くなっている。

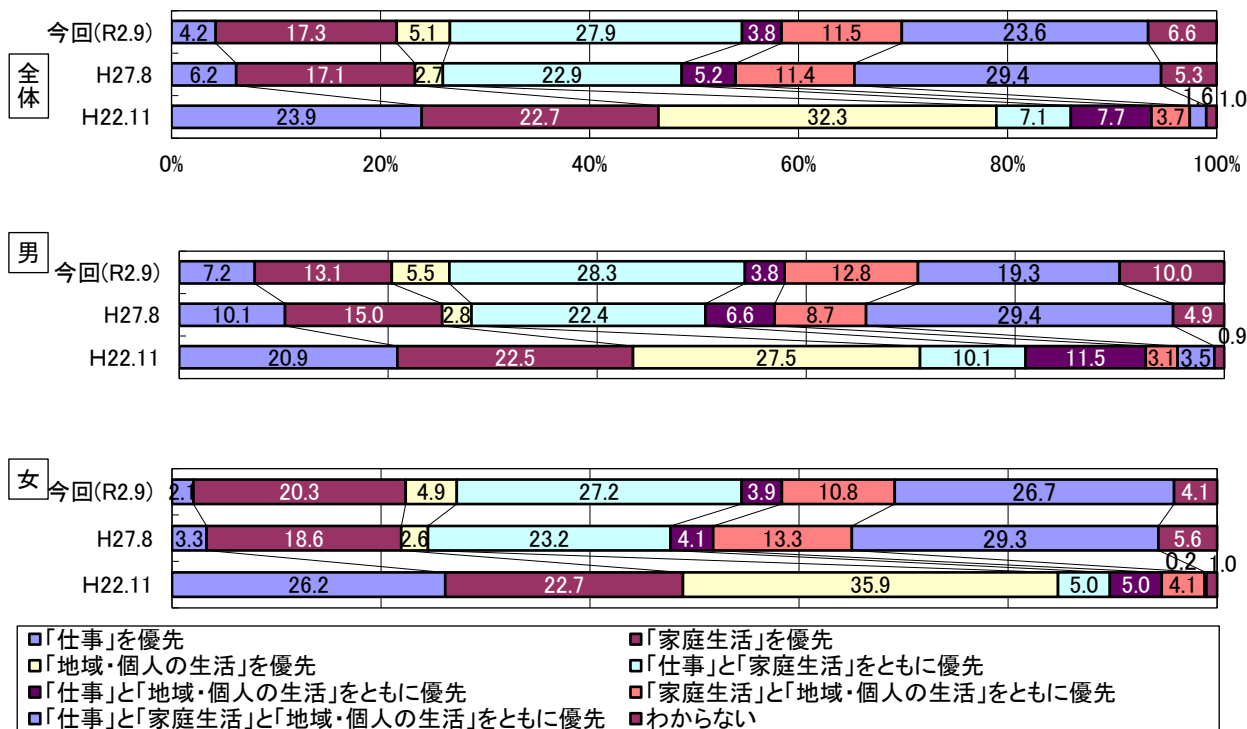
<既往調査との比較>

前回調査で希望の上位を占めていたのが「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに

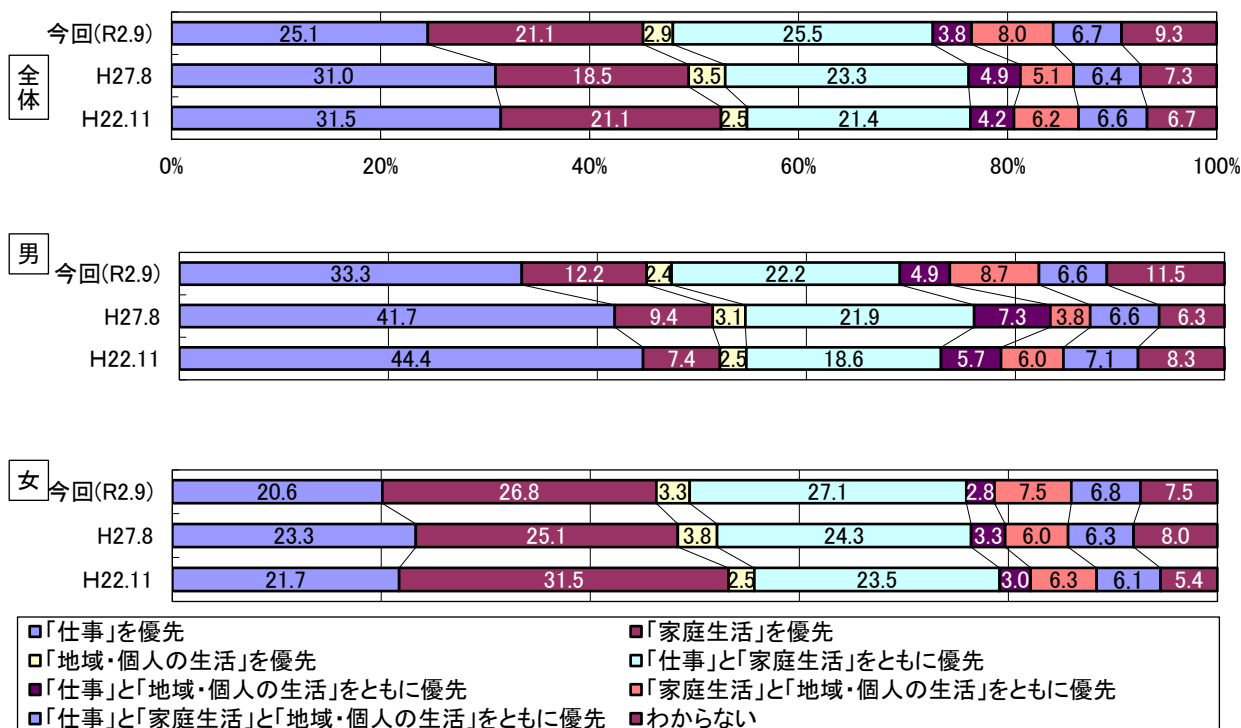
優先」であったのに対し、今回調査では「仕事」「家庭生活」をともに優先が最も大きくなった。
 <富山県調査、全国調査との比較>

富山県、全国調査と本調査では同様の傾向を示しており、希望においては「仕事」「家庭生活」をともに優先が最も大きくなっている一方で、現実（現状）では、「仕事」を優先が最も多くなっている。

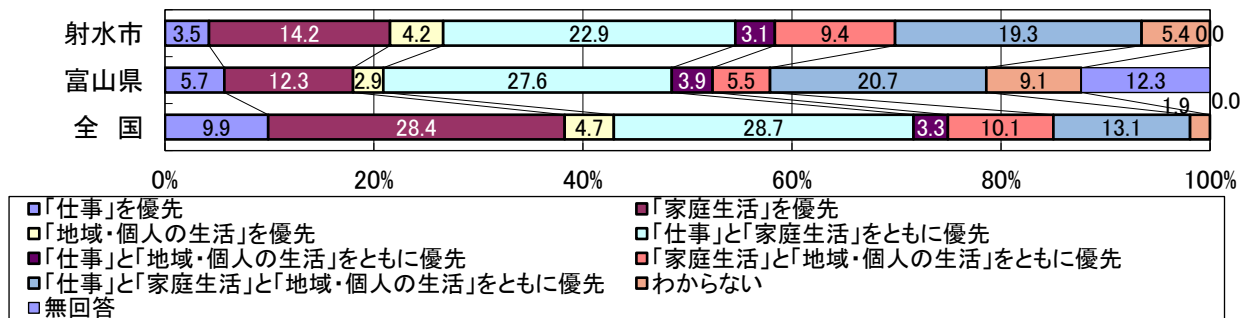
希望



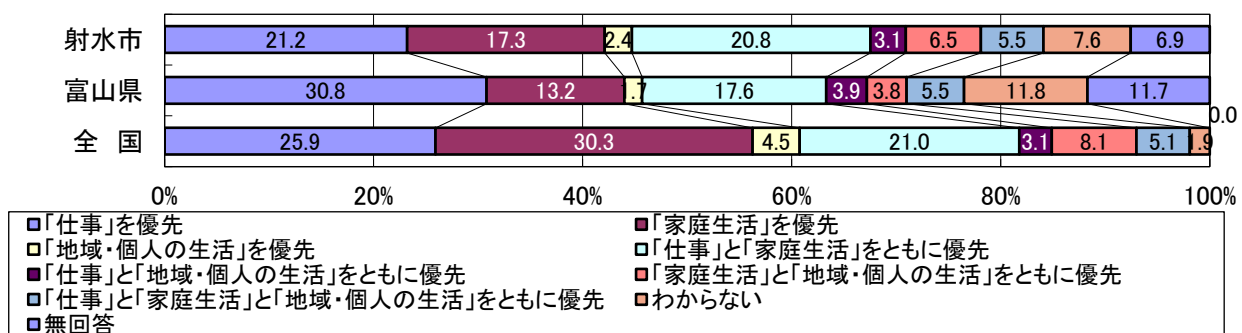
現実



希望



現実

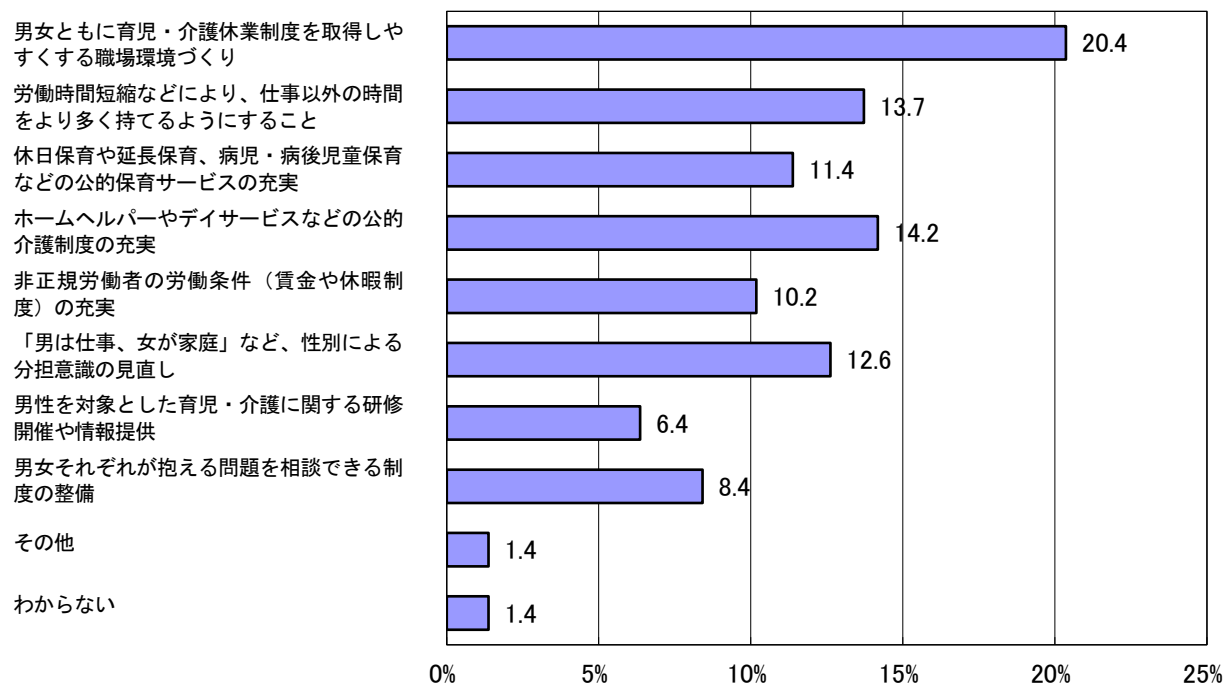


問6

男性と女性がともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 824/841

項目	回答数	構成比
男女とも育児・介護休業制度を取得しやすくする職場環境づくり	576	20.4
労働時間短縮などにより、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	388	13.7
休日保育や延長保育、病児・病後児保育などの公的保育サービスの充実	322	11.4
ホームヘルパーやデイサービスなど公的介護制度の充実	401	14.2
非正規労働者の労働条件（賃金や休暇制度など）向上	288	10.2
「男は仕事、女は家庭」など、性別による分担意識の見直し	357	12.6
男性を対象とした育児・介護に関する研修開催や情報提供	180	6.4
男女それぞれが抱える問題を相談できる制度の整備	238	8.4
その他	39	1.4
わからない	39	1.4
合計	2828	100.0



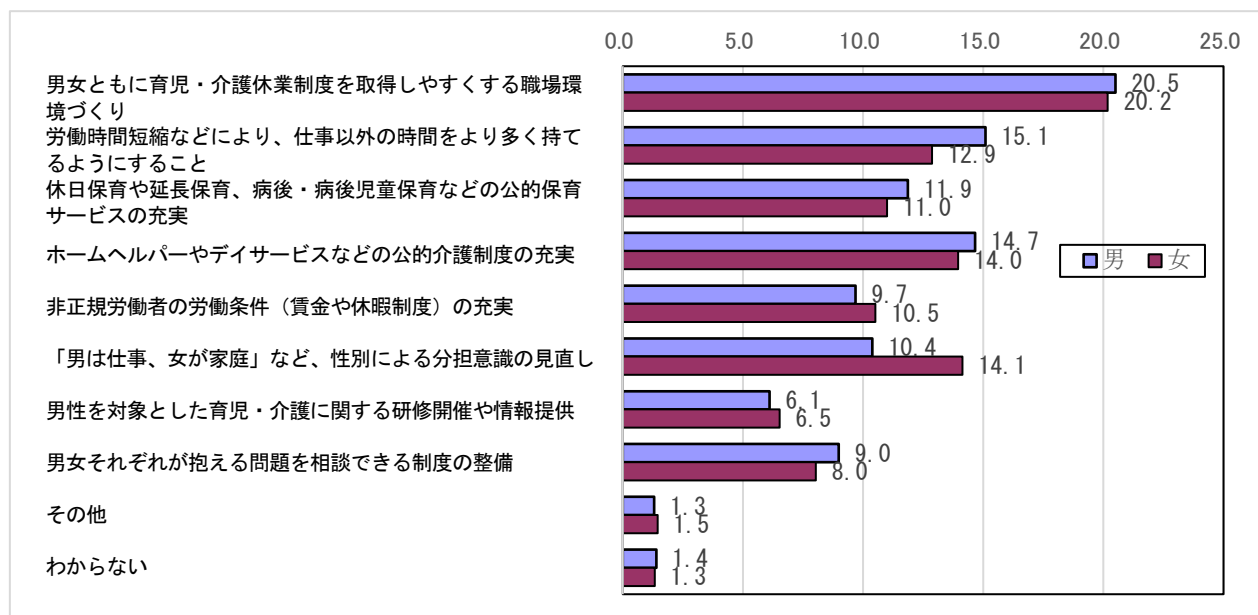
男性と女性がともに家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うことを聞いたところ、「男女とも育児・介護休業制度を取得しやすくする職場環境づくり」を挙げた人の割合が20.4%と最も高くなっている。次いで「ホームヘルパーやデイサービスなどの公的介護制度の充実」14.2%、「労働時間短縮などにより、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」13.7%となっている。

<性別による比較>

男女ともに同様な意見が挙げられているが、「男は仕事、女が家庭」など、性別による分担意識の見直し」を挙げた割合が男性より女性の方が3.7ポイント多くなっている。

「労働時間短縮などにより、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」を挙げた割合が女性より男性の方が2.2ポイント多い結果となった。

第2章 単純集計結果 3 家庭生活について

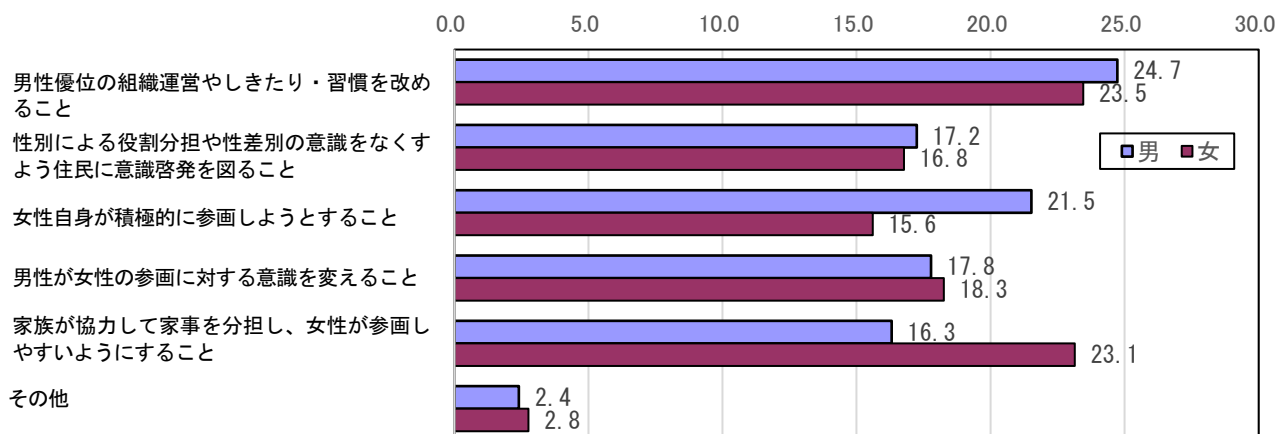
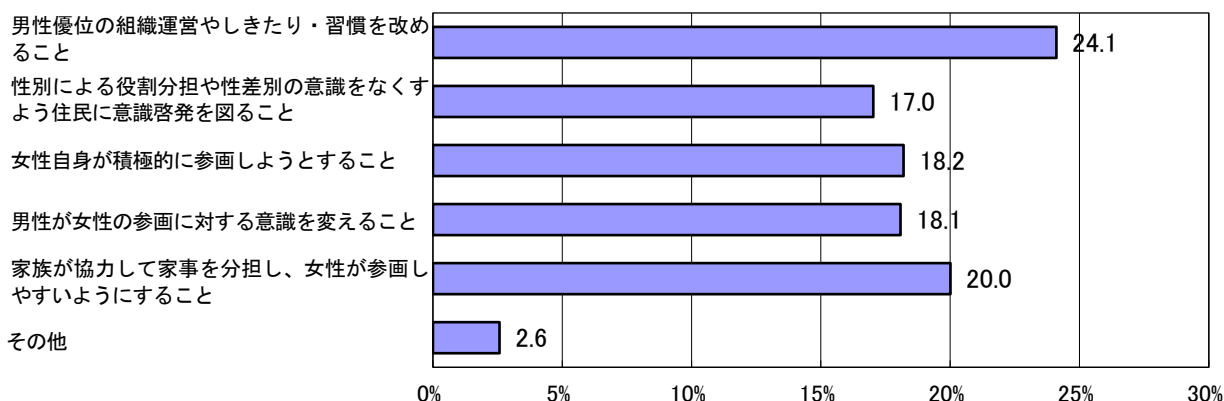


問7

女性の自治会長・町内会長が少ない現状において、どのような改善策が有効だと思いますか。次の中からあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 796/841

項目	回答数	構成比
男性優位の組織運営やしきたり・習慣を改めること	412	24.1
性別による役割分担や性差別の意識をなくすよう住民への意識啓発をはかること	291	17.0
女性自身が積極的に参画しようとする事	311	18.2
男性が女性の参画に対する意識を変えること	309	18.1
家族が協力をして家事を分担し、女性が参画しやすいようにすること	342	20.0
その他	44	2.6
合計	1709	100.0



女性の自治会長・町内会長が少ない現状における改善策について聞いたところ、「男性優位の組織運営やしきたり・習慣を改めること」を挙げた割合が24.1%と最も多く、次いで「家族が協力して家事を分担し、女性が参画しやすいようにすること」20.0%、「女性自身が積極的に参画しようとする事」18.2%、「男性が女性の参画に対する意識を変えること」18.1%であり、回答にあまり偏りが出ない結果となった。

<性別による比較>

「家族が協力して家事を分担し、女性が参画しやすいようにすること」と「男性が女性の参画に対する意識を変えること」を挙げた割合が男性より女性に多く、「男性優位の組織運営やしきたり・習慣を改めること」と「女性自身が積極的に参画しようとする事」を挙げた割合が女性より男性に多い結果となった。

4 就業・就労について

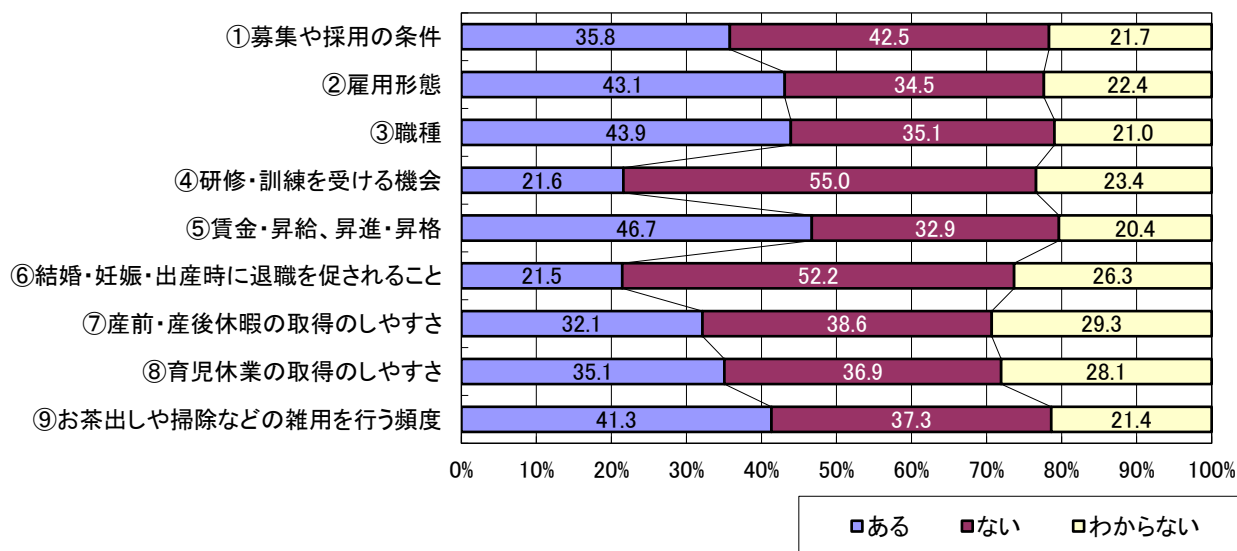
問8
 職場での男女平等についておたずねします。①～⑨の各項目について、それぞれ該当する回答の番号に○印を付けてください。なお、(1)は現在働いている方のみ、(2)はすべての方が回答ください。(SA)

(1) 不平等感の有無 (働いている方のみ)

回答数/回収数 503/583

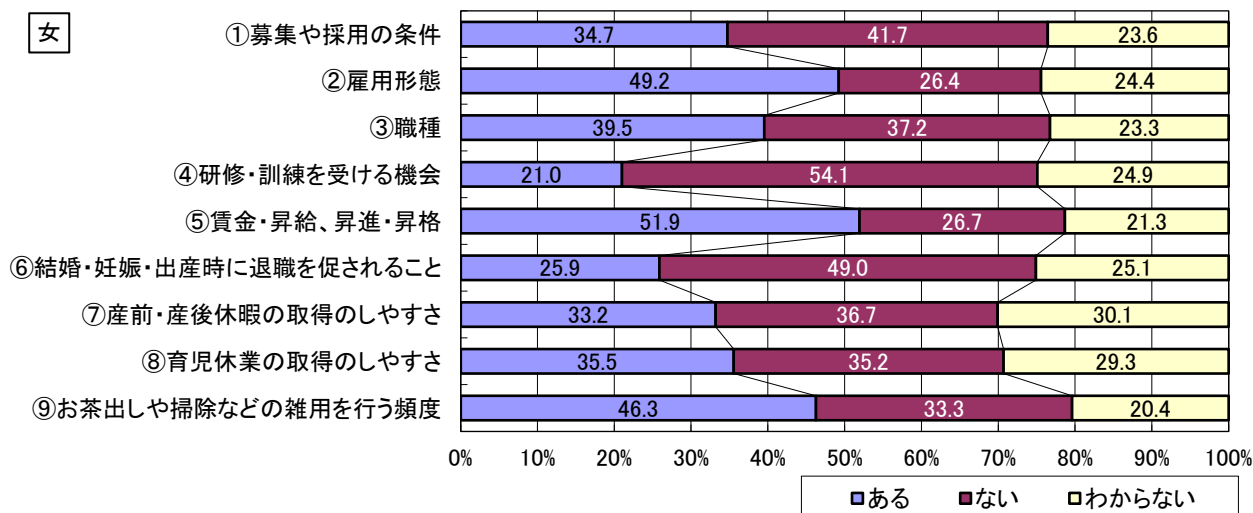
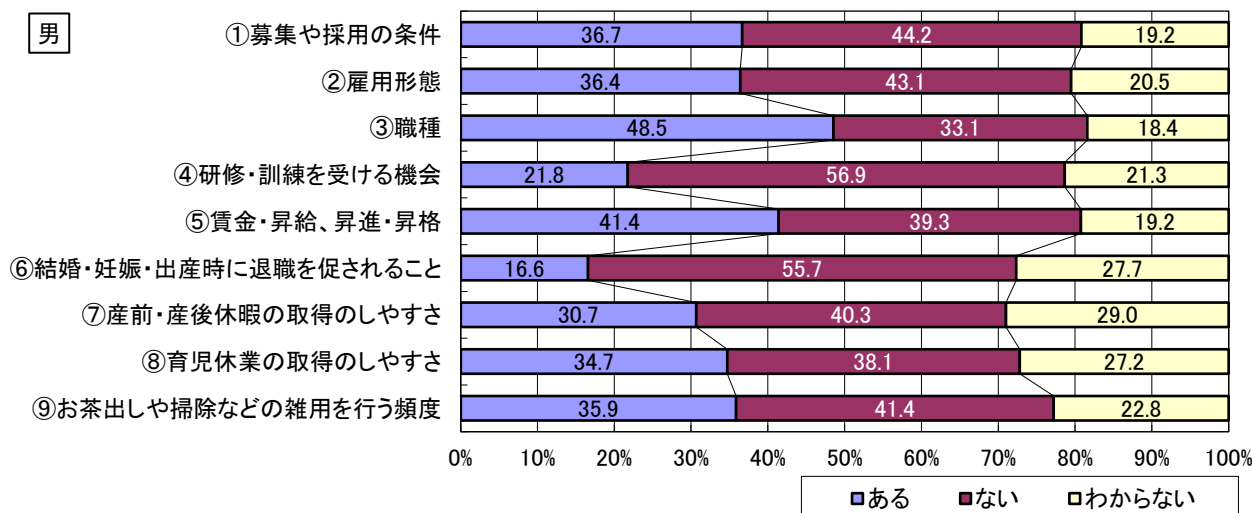
(上段：回答数、下段：%)

項目	ある	ない	わからない	合計
①募集や採用の条件	180 35.8	214 42.5	109 21.7	503 100.0
②雇用形態	216 43.1	173 34.5	112 22.4	501 100.0
③職種	220 43.9	176 35.1	105 21.0	501 100.0
④研修・訓練を受ける機会	108 21.6	275 55.0	117 23.4	500 100.0
⑤賃金・昇給、昇進・昇格	234 46.7	165 32.9	102 20.4	501 100.0
⑥結婚・妊娠・出産時に退職を促されること	106 21.5	258 52.2	130 26.3	494 100.0
⑦産前・産後休暇の取得のしやすさ	160 32.1	192 38.6	146 29.3	498 100.0
⑧育児休業の取得のしやすさ	175 35.1	184 36.9	140 28.1	499 100.0
⑨お茶出しや掃除などの雑用を行う頻度	205 41.3	185 37.3	106 21.4	496 100.0



職場における男女の不平等感の有無については、「賃金・昇給、昇進・昇格」で46.7%と最も高くなり、次いで「職種」43.9%、「雇用形態」43.1%、「お茶出しや掃除などの雑用を行う頻度」41.3%の順で高くなっている。

一方、「研修・訓練を受ける機会」「結婚・妊娠・出産時に退職を促されること」については、男女の不平等を感じる機会はない、と回答した割合が5割を超えている。



<性別による比較>

「職種」について不平等感があるとした男性（48.5%）に対して、女性（39.5%）と、9.0ポイント高くなっている。

「雇用形態」について不平等感があるとした男性（36.4%）に対して、女性（49.2%）と、12.8ポイント高くなっている。また「賃金・昇給、昇進・昇格」について不平等感があるとした男性（41.4%）に対して、女性（51.9%）と、10.5ポイント高くなっている。さらに、「お茶だしや掃除などの雑用を行う頻度」についても男性（35.9%）、女性（46.3%）と10.4ポイント高くなっている。

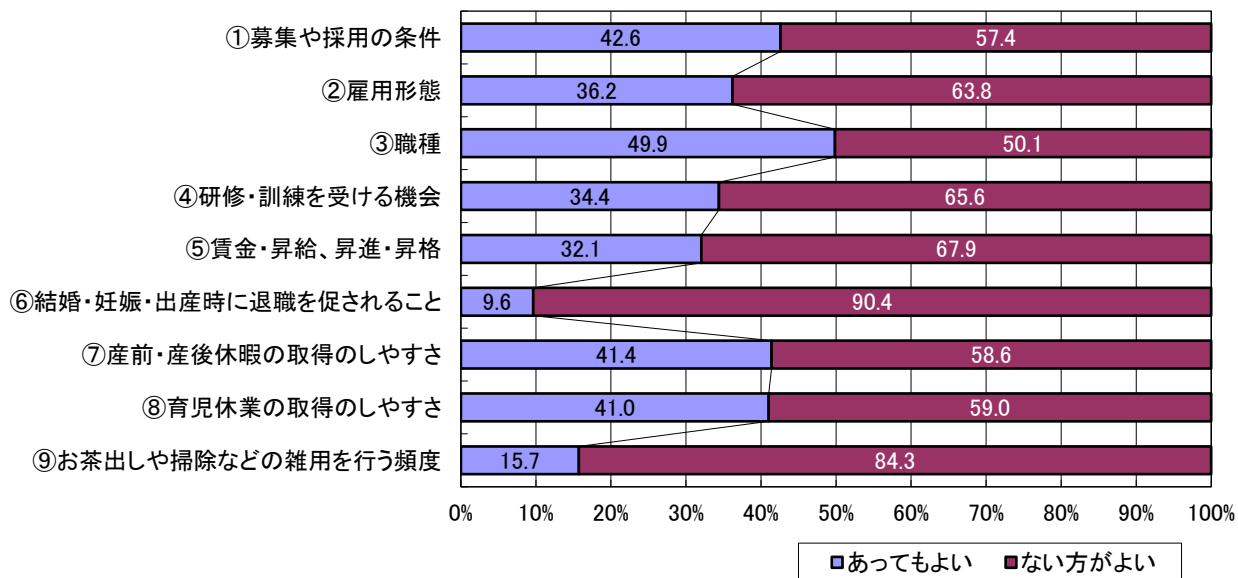
「研修・訓練を受ける機会」は男女ともに「不平等を感じる機会はない」の回答が5割を超えている。

(2) 不平等についての考え方 (すべての方)

回答数/回収数 704/841

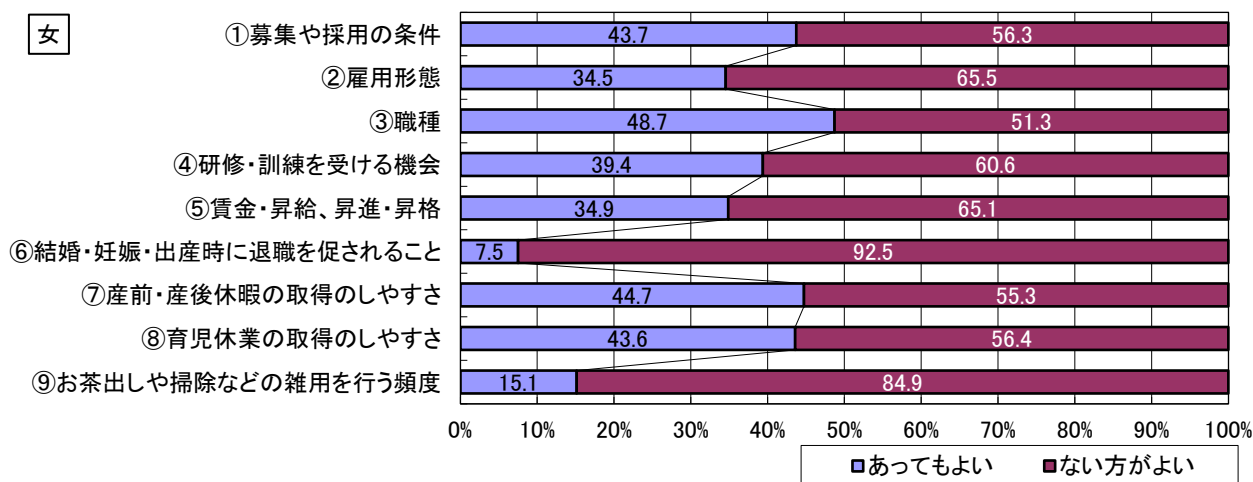
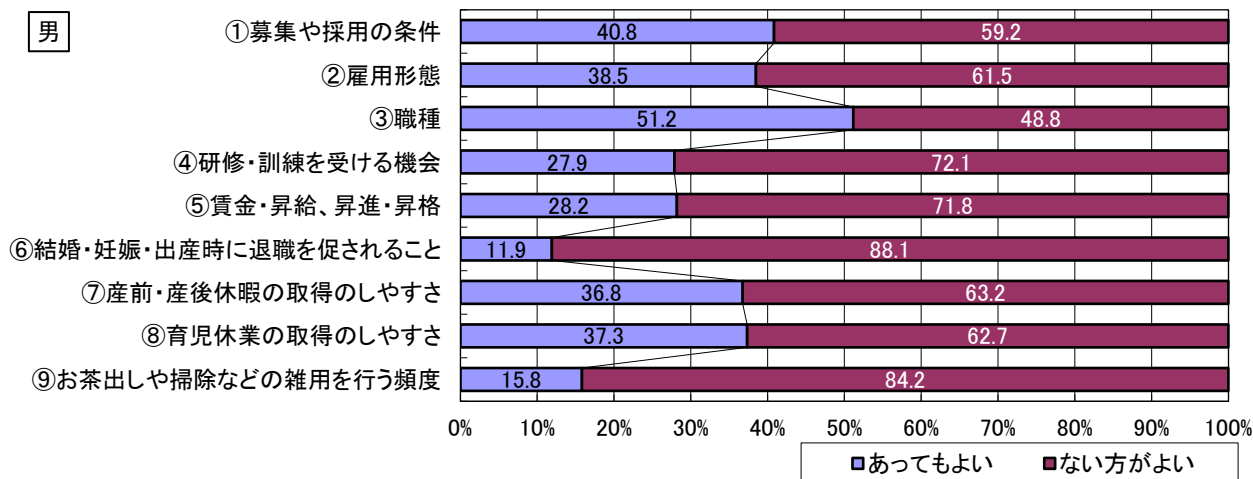
(上段：回答数、下段：%)

項目	あってもよい	ない方がよい	合計
①募集や採用の条件	300 42.6	404 57.4	704 100.0
②雇用形態	252 36.2	444 63.8	696 100.0
③職種	349 49.9	351 50.1	700 100.0
④研修・訓練を受ける機会	240 34.4	458 65.6	698 100.0
⑤賃金・昇給、昇進・昇格	225 32.1	477 67.9	702 100.0
⑥結婚・妊娠・出産時に退職を促されること	67 9.6	628 90.4	695 100.0
⑦産前・産後休暇の取得のしやすさ	289 41.4	409 58.6	698 100.0
⑧育児休業の取得のしやすさ	286 41.0	411 59.0	697 100.0
⑨お茶出しや掃除などの雑用を行う頻度	109 15.7	584 84.3	693 100.0



不平等感についての考え方において、「ない方がよい」の割合が高かったものは、「結婚・妊娠・出産時に退職を促されること」で90.4%、「お茶だしや掃除などの雑用を行う頻度」で84.3%である。

一方、「あってもよい」と「ない方がよい」の回答が均衡したものは「募集や採用の要件」「職種」「産前・産後休暇の取得のしやすさ」「育児休業の取得のしやすさ」であり、特に「職種」に関しては、5割以上の回答を得ている。



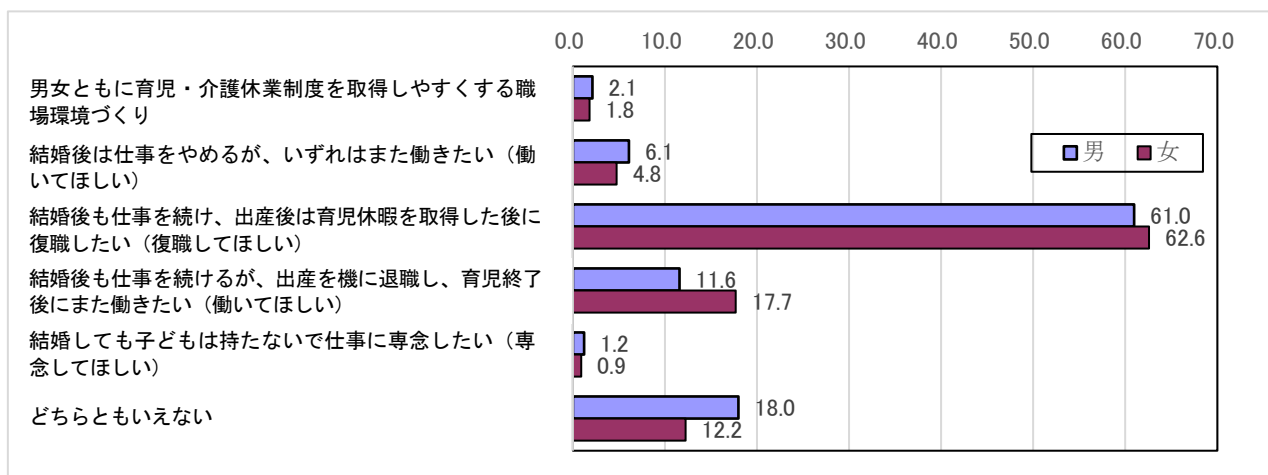
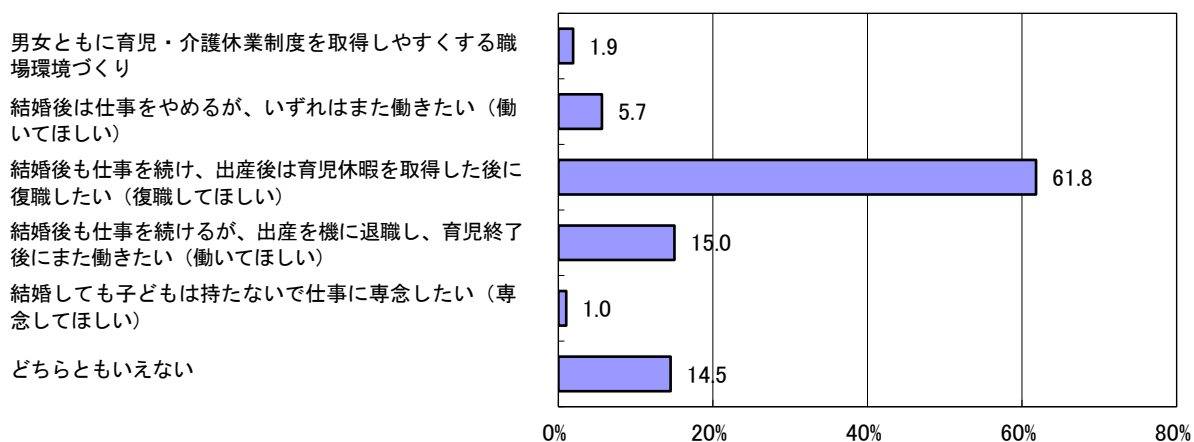
<性別による比較>

「研修・訓練を受ける機会」「賃金・昇給、昇進・昇格」「産前・産後の休暇の取得のしやすさ」「育児休業の取得のしやすさ」について「あってもよい」女性の方がそれぞれ11.5、6.3、7.3、6.2ポイント高くなっている。

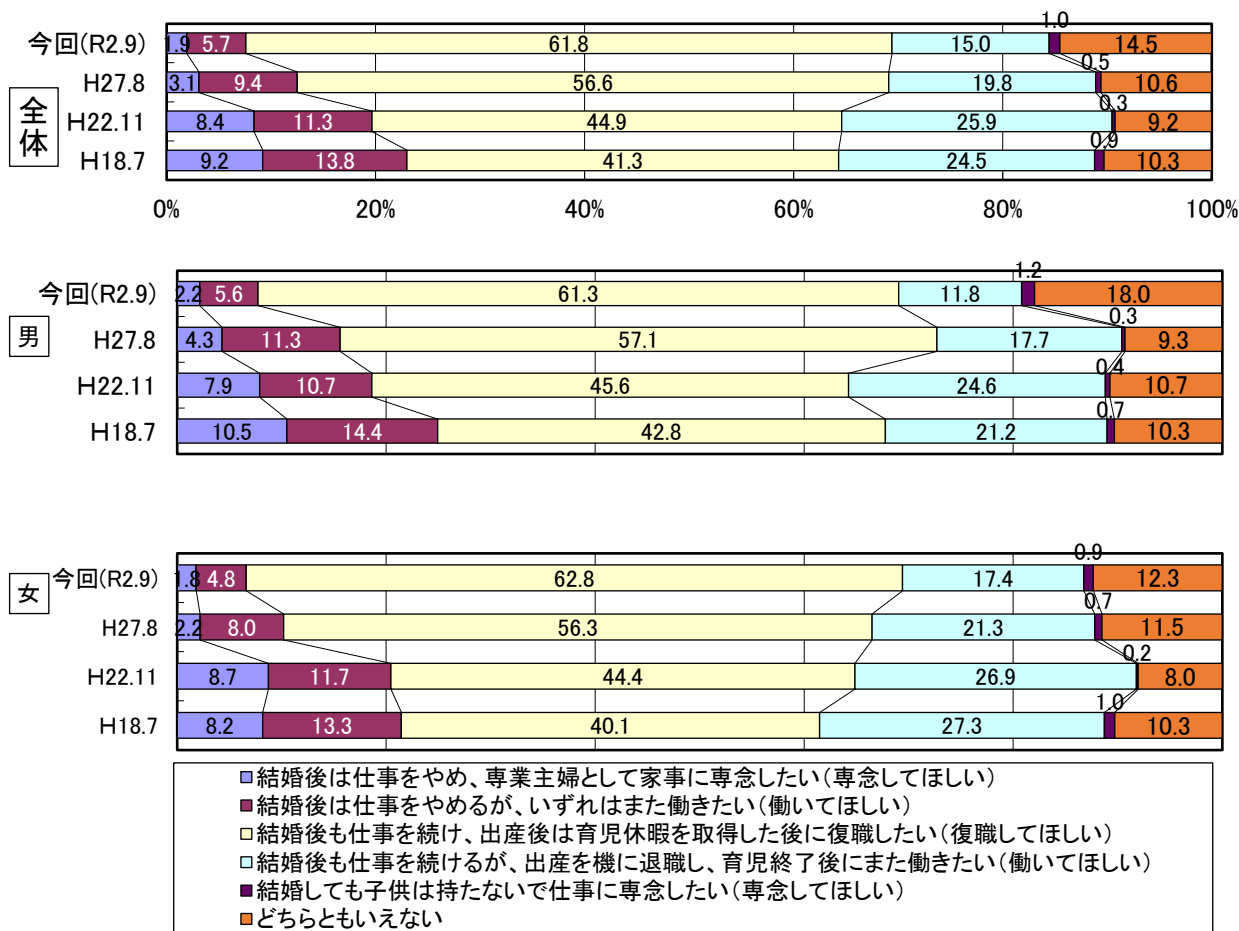
問9
一般的に女性が働くことについて、あなたはどのように考えますか。次の中からあてはまるものを1つ選んで番号に○印をつけてください。(SA)

回答数/回収数 778/841

項目	回答数	構成比
結婚後は仕事をやめ、専業主婦として家事に専念したい(専念してほしい)	15	1.9
結婚後は仕事をやめるが、いずれはまた働きたい(働いてほしい)	44	5.7
結婚後も仕事を続け、出産後は育児休暇を取得した後に復職したい(復職してほしい)	481	61.8
結婚後も仕事を続けるが、出産を機に退職し、育児終了後にまた働きたい(働いてほしい)	117	15.0
結婚しても子どもは持たないで仕事に専念したい(専念してほしい)	8	1.0
どちらともいえない	113	14.5
合計	778	100.0



結婚後の就業スタイルについて聞いたところ、「結婚後も仕事を続け、出産後は育児休暇を取得した後に復職したい(してほしい)」と答えた人の割合が男女とも最も高く、男性 61.3%、女性 62.8%であった。次いで、「結婚後も仕事を続けるが、出産を機に退職し、育児終了後にまた働きたい(働いてほしい)」と答えた人の割合が高くなっている(男性 11.8%、女性 17.4%)。



<既往調査との比較>

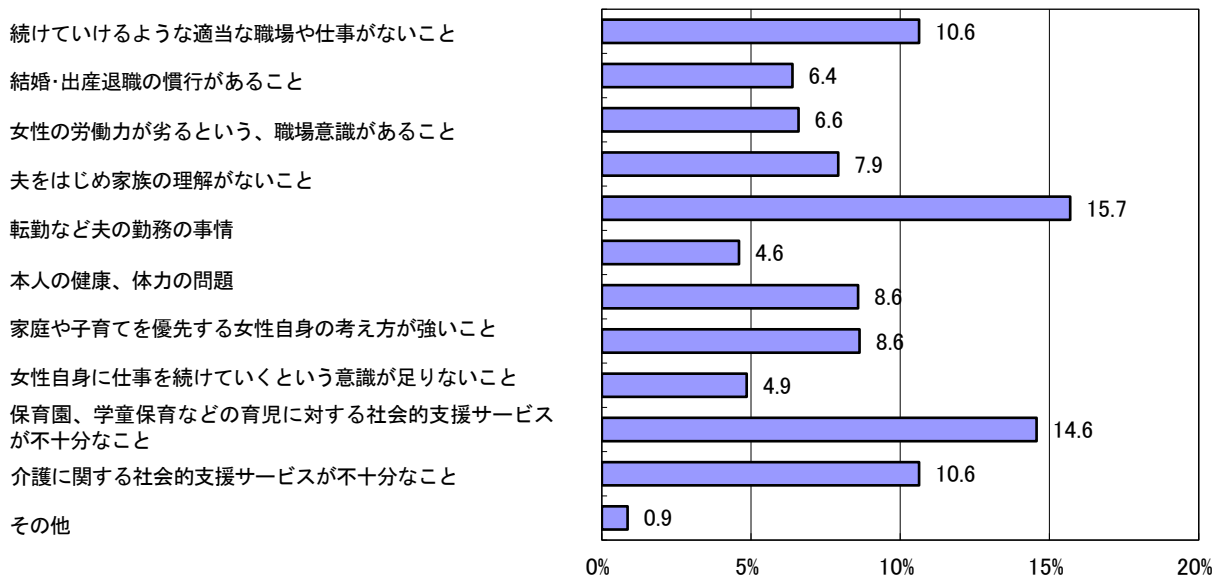
男女ともに全体的に同様の結果が見られ、結婚後も仕事を続けたいとする回答は（65.8%→70.8%→76.4%→76.8%）と増加している。

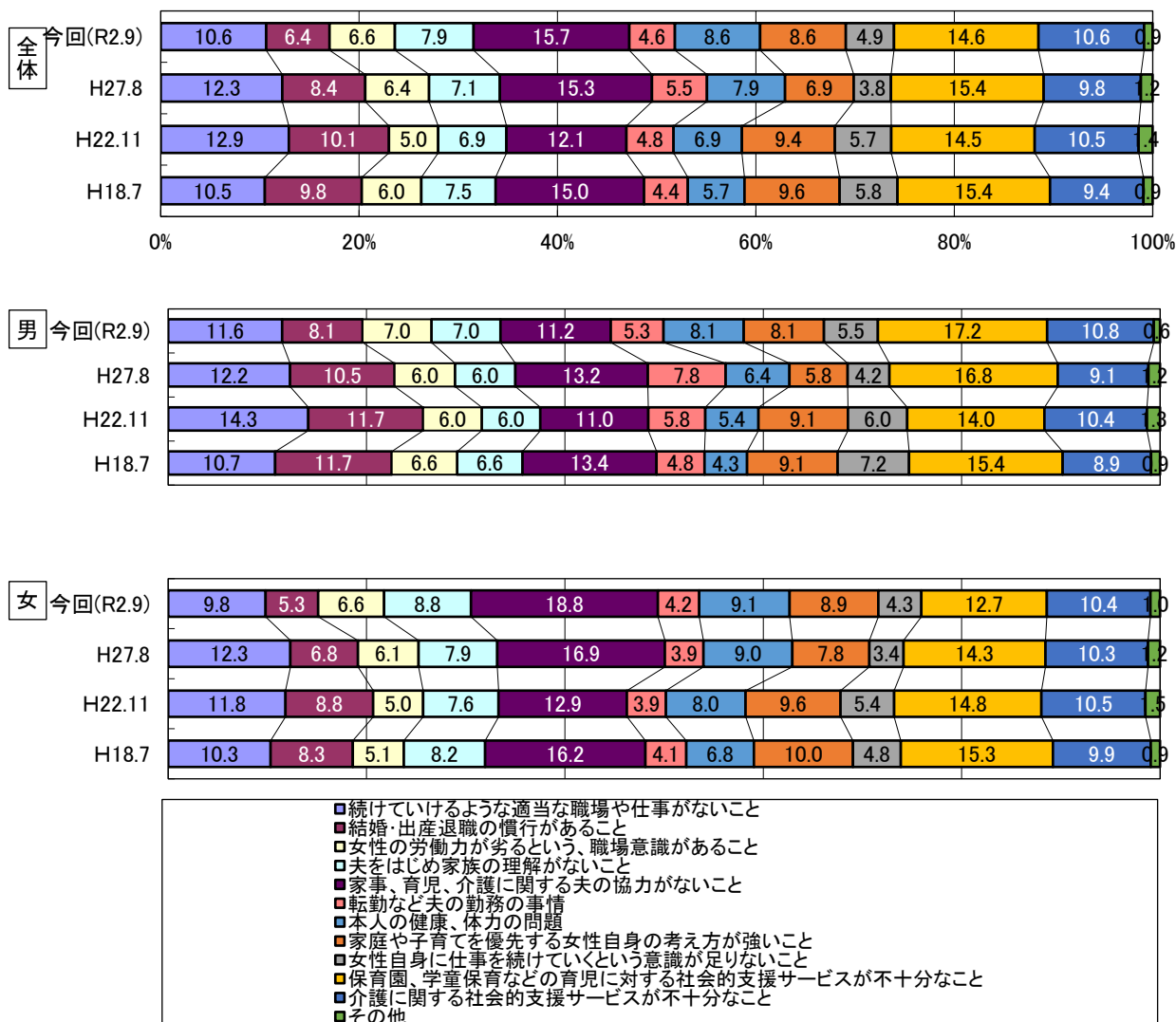
「結婚後は仕事をやめ、専業主婦として家事に専念したい（してほしい）」と答えた人の割合が男性（10.5%→7.9%→4.3%→2.2%）と 8.3 ポイント、女性（8.2%→8.7%→2.2%→1.8%）と 6.4 ポイント減少している。また、「結婚後も仕事を続け、出産後は育児休暇を取得した後に復職したい（復職してほしい）」と答えた人の割合が男性（42.8%→45.6%→57.1%→61.3%）と 18.5 ポイント、女性（40.1%→44.4%→56.3%→62.8%）と 22.7 ポイント増加している。

問10
 女性が働き続ける上では、どんな障害があると思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 764/841

項目	回答数	構成比
続けていけるような適当な職場や仕事がないこと	208	10.6
結婚・出産退職の慣行があること	125	6.4
女性の労働力が劣るといふ、職場意識があること	129	6.6
夫をはじめ家族の理解がないこと	155	7.9
家事、育児、介護に関する夫の協力がいないこと	307	15.7
転勤など夫の勤務の事情	90	4.6
本人の健康、体力の問題	168	8.6
家庭や子育てを優先する女性自身の考え方が強いこと	169	8.6
女性自身に仕事を続けていくという意識が足りないこと	95	4.9
保育園、学童保育などの育児に対する社会的支援サービスが不十分なこと	285	14.6
介護に関する社会的支援サービスが不十分なこと	208	10.6
その他	17	0.9
合計	1956	100.0





女性が働き続けていく上での障害について聞いたところ、「家事、育児、介護に関する夫の協力がなく」を挙げた人が最も多く15.7%、次いで「保育園、学童保育などの育児に対する社会的支援サービスが不十分なこと」14.6%、「続けていけるような適当な職場や仕事がないこと」10.6%の順となっている。

＜性別による比較＞

男性で「保育園、学童保育などの育児に対する社会的支援サービスが不十分なこと」と答えた人の割合が17.2%と最も高く、次いで「続けていけるような適当な職場や仕事がないこと」11.6%、「家事、育児、介護に関する夫の協力がなく」11.2%の順となっている。女性では、「家事、育児、介護に関する夫の協力がなく」が18.8%と最も高く、次いで「保育園、学童保育などの育児に対する社会的支援サービスが不十分なこと」12.7%、「介護に関する社会的支援サービスが不十分なこと」10.4%の順となっている。

＜既往調査との比較＞

「家事、育児、介護に関する夫の協力がなく」を回答した人の割合は、平成22年度調査では減少したものの、その後調査では増加してきている。

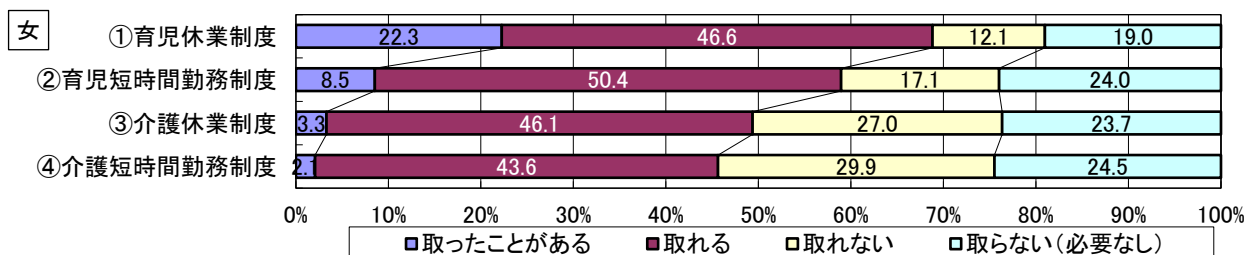
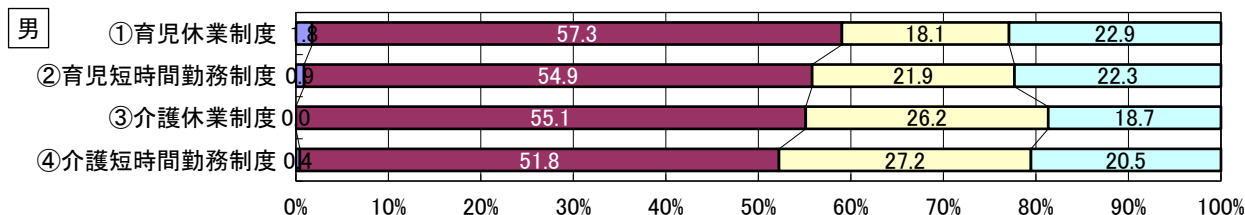
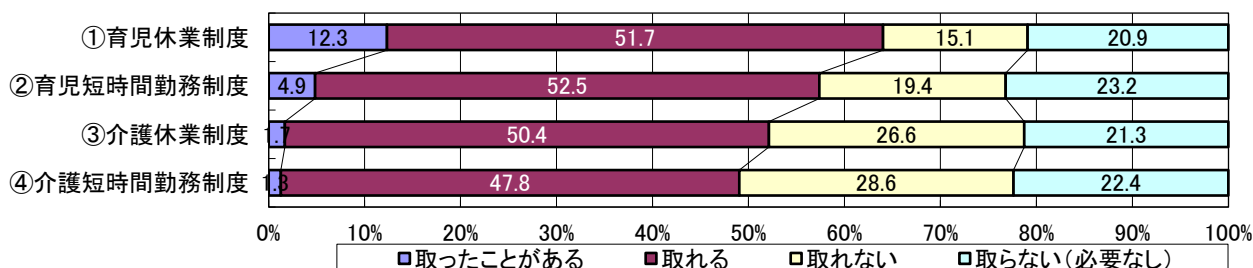
問11

現在働いている方のみにお聞きします。あなたの職場で、育児休業、介護休業を取得することはできますか（取得したことはありますか）。①～④の各制度についてあてはまるものをそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。（SA）

回答数/回収数 478/585

（上段：回答数、下段：％）

項目	取ったことがある	取れる	取れない	取らない(必要なし)	合計
①育児休業制度	59 12.3	247 51.7	72 15.1	100 20.9	478 100.0
②育児短時間勤務制度	23 4.9	249 52.5	92 19.4	110 23.2	474 100.0
③介護休業制度	8 1.7	237 50.4	125 26.6	100 21.3	470 100.0
④介護短時間勤務制度	6 1.3	224 47.8	134 28.6	105 22.4	469 100.0



職場において育児休業や介護休業、短時間勤務制度等を取得することはできるかについて聞いたところ、育児休業取得可能な職場が64.0%と最も多く、取得者も12.3%と最も多い。次いで育児短時間勤務取得可能な職場が57.4%であり、取得者は4.9%であった。

介護休業、介護短時間勤務については、取得可能な職場が5割程度あるものの、取得者は2.0%以下であり、介護休業については、いまだ定着していない様子が伺える。

<性別による比較>

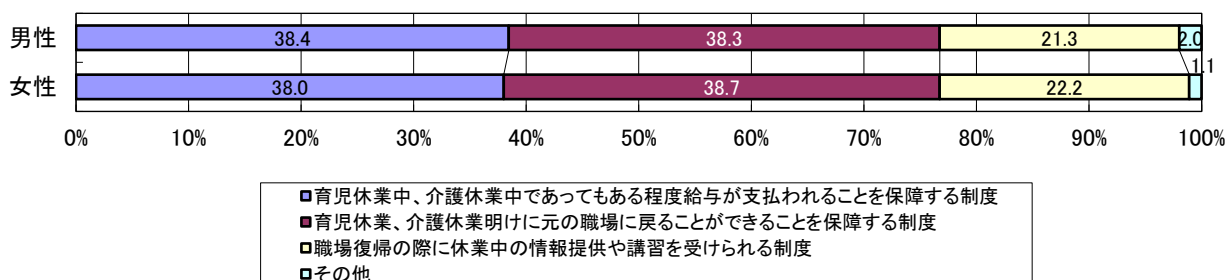
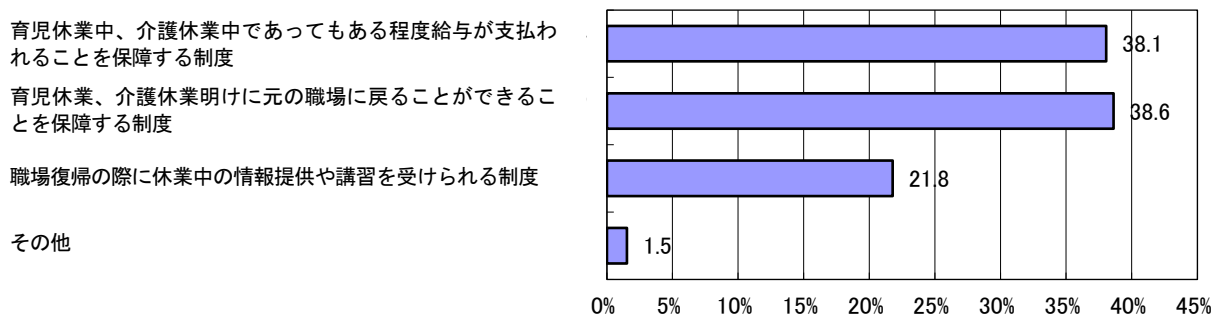
男性で休業制度を取得している人は2.0%以下にとどまり、育児、介護休業を「取れない」「取らない」と回答している人が4割を超えている。女性においても育児休業については半数以上が「取ったことがある」「取れる」と回答しているものの、介護休業について未だ取得者が少ない状況にある。

問12

育児休業・介護休業等を取得するためには、どのような制度を充実させたいと思いますか。次の中からあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 772/841

項目	回答数	構成比
育児休業中、介護休業中であってもある程度給与が支払われることを保障する制度	551	38.2
育児休業、介護休業明けに元の職場に戻ることができることを保障する制度	557	38.6
職場復帰の際に休業中の情報提供や講習を受けられる制度	314	21.7
その他	22	1.5
合計	1444	100.0



育児休業介護休業等を取得するためには、どのような制度を充実させたいか聞いたところ、「育児休業、介護休業明けにもとの職場に戻ることができることを保障する制度」と答えた人の割合が38.6%と最も多くなった。次いで、「育児休業中、介護休業中であってもある程度給与が支払われることを保障する制度」が38.1%、「職場復帰の際に休業中の情報提供や講習を受けられる制度」が21.8%であった。

<性別による比較>

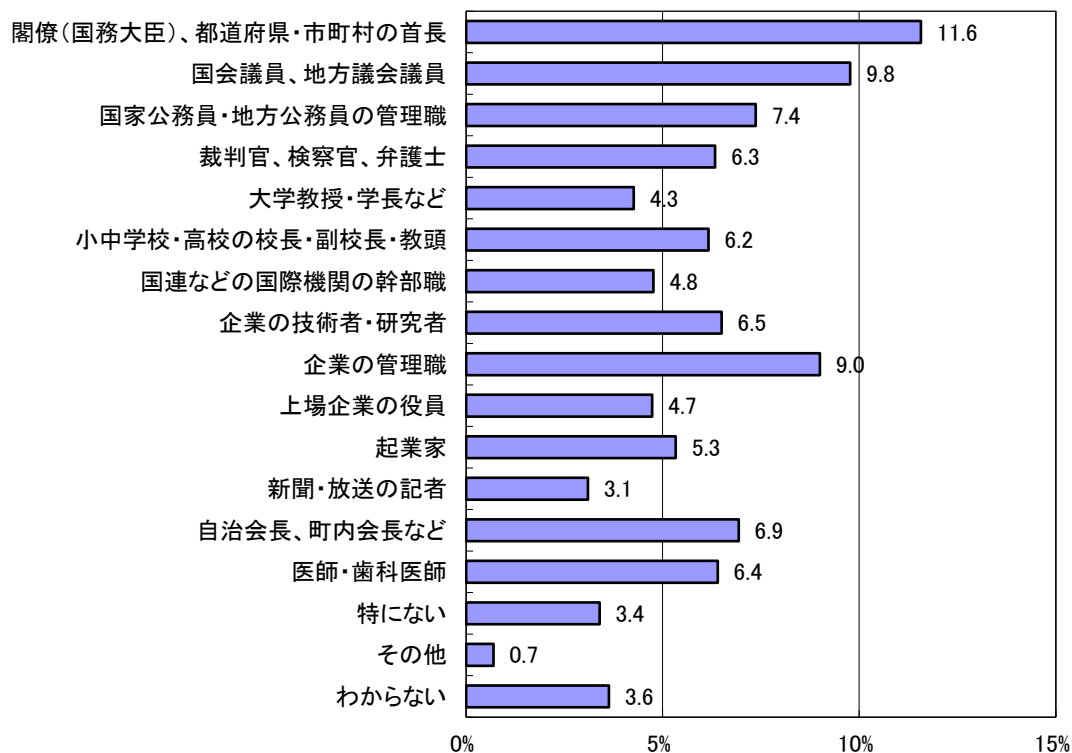
男女ともに同様の回答が得られ、休業を取得する際の懸念として、給与の問題と、元の職場に復帰できるかが課題となっていることがわかる。

問13

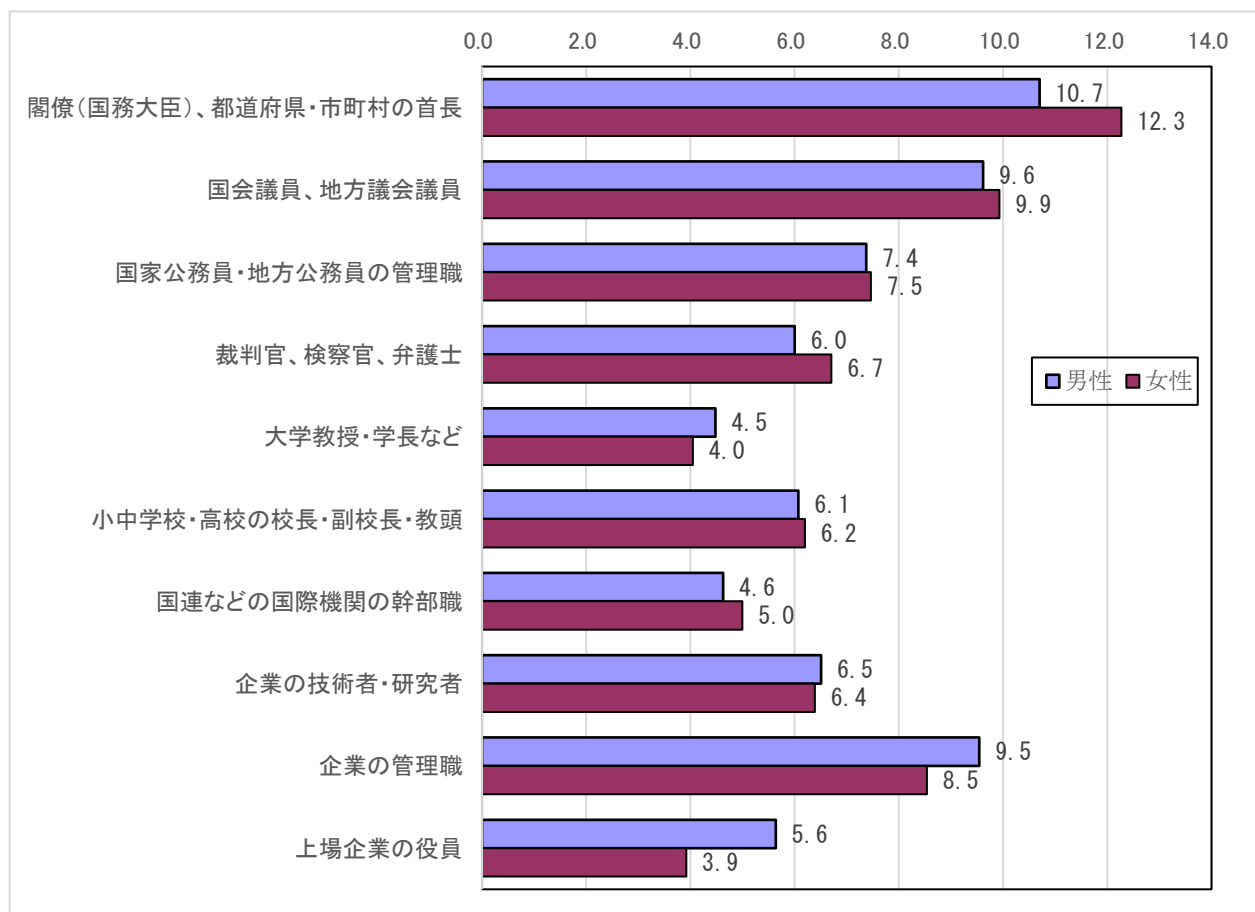
あなたが、今後女性がもっと増えた方がよいと思う職業・役職はどれですか。次の中からあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 801/841

項目	回答数	構成比
閣僚（国務大臣）、都道府県・市町村の首長	347	11.6
国会議員、地方議会議員	293	9.8
国家公務員・地方公務員の管理職	221	7.4
裁判官、検察官、弁護士	190	6.3
大学教授・学長など	128	4.3
小中学校・高校の校長・副校長・教頭	185	6.2
国連などの国際機関の幹部職	143	4.8
企業の技術者・研究者	195	6.5
企業の管理職	270	9.0
上場企業の役員	142	4.7
起業家	160	5.3
新聞・放送の記者	93	3.1
自治会長、町内会長など	208	6.9
医師・歯科医師	192	6.4
特にない	102	3.4
その他	21	0.7
わからない	109	3.6
合計	1702	56.8



今後、女性がもっと増えた方がよいと思う職業・役職について聞いたところ、「議員（国会、都道府県議会、市町村議会）」が11.6%と最も高くなった。次いで、「国会議員、地方議会議員」9.8%、「企業の管理職」9.0%の順となった。



<性別による比較>

男女とも同様な回答が出ている一方、「閣僚（国務大臣）、都道府県・市町村の首長」「医師・歯科医師」で女性の回答が男性より高い結果となった。

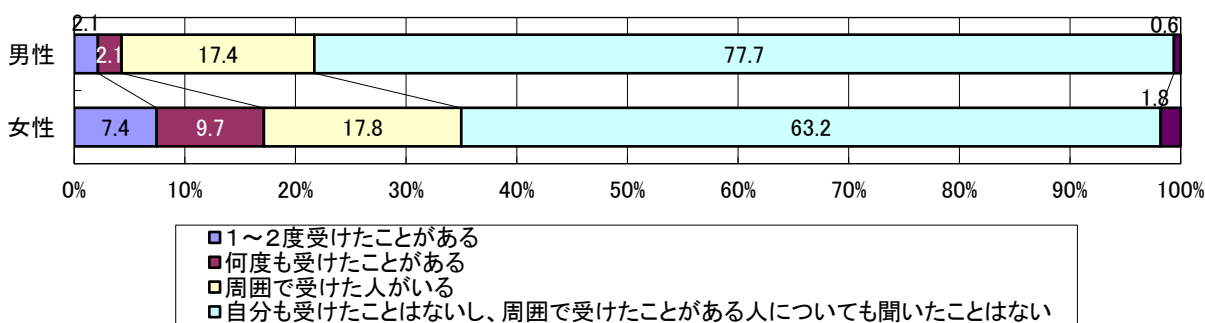
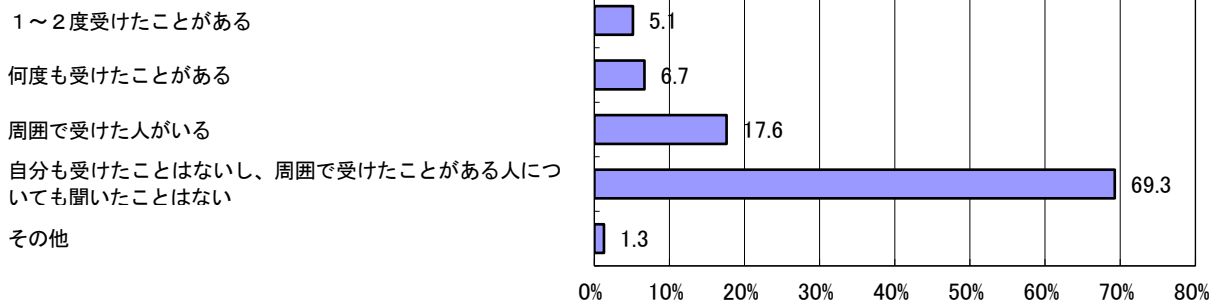
5 人権・多様性について

問14

あなたは、配偶者や恋人などから身体的暴力（なぐる、ける）や精神的暴力（心理的脅迫、大声でどなる）、性的暴力（避妊に協力しない、中絶の強要）、経済的暴力（生活費を渡さない）を受けたり、見聞きしたことはありますか。次の中からあてはまるものに○印をつけてください。（SA）

回答数/回収数 778/841

項目	回答数	構成比
1～2度受けたことがある	40	5.1
何度も受けたことがある	52	6.7
周囲で受けた人がある	137	17.6
自分も受けたことはないし、周囲で受けたことがある人についても聞いたことはない	539	69.3
その他	10	1.3
合計	778	100.0



配偶者や恋人から暴力を受けたことがあるか聞いたところ、「自分も受けたことはないし、周囲で受けたことがある人についても聞いたことがない」とする人の割合が69.3%と最も多いが、「1～2度受けたことがある」(5.1%)「何度も受けたことがある」(6.7%)と、暴力を受けたことがあるとする人の割合は17.6%となっている。

<性別による比較>

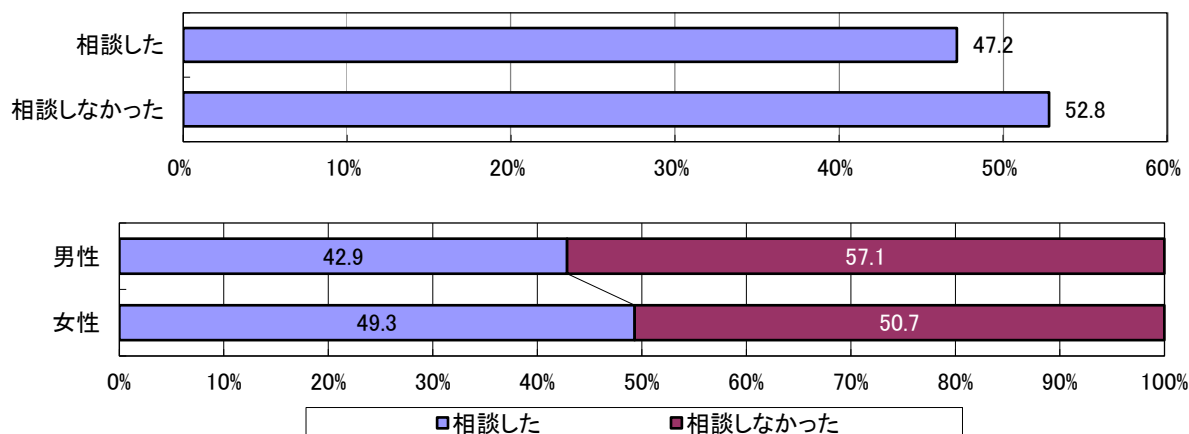
暴力を受けたことがある男性は合わせて4.2%、女性は合わせて17.1%で、女性への暴力の方が多くなっている。また、「何度もある」と答えた女性は9.7%と、男性(2.1%)を7.6ポイント上回っている。

問14-2

問14で「1」または「2」を選んだ方にお聞きします。そのことを誰かに相談しましたか。あてはまるものどちらかの番号に○印をつけてください。(SA)

回答数/回収数 89/92

項目	回答数	構成比
相談した	42	47.2
相談しなかった	47	52.8
合計	89	100.0



「DVを受けたことがある」と回答した人に「相談の有無」について聞いたところ、「相談した」とする人の割合は47.2%、「相談しなかった」は52.8%となっている。

<性別による比較>

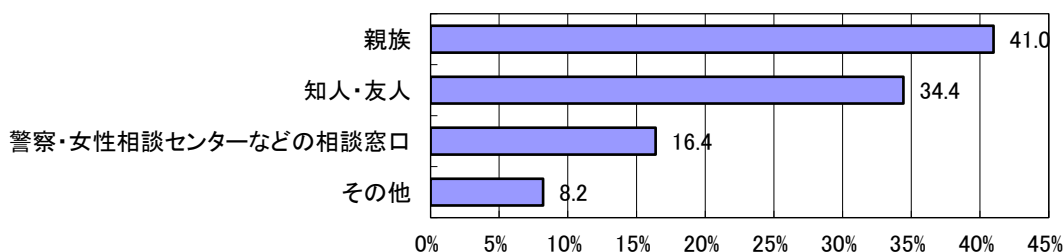
女性よりも男性の方が「相談しなかった」とした割合が多くなった。

問14-2-2

問14-2で「1」を選んだ方にお聞きします。そのことを誰に相談しましたか。次の中からあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 41/42

項目	回答数	構成比
親族	25	41.0
知人・友人	21	34.4
警察・女性相談センターなどの相談窓口	10	16.4
その他	5	8.2
合計	61	100.0



暴力を受けたことがあると答えた人に、誰かに相談したかどうか聞いたところ、「親族に相談した」(41.0%)「友人・知人に相談した」(34.4%)を挙げた人の割合が高くなっている。また、「警察・女性相談センター等相談窓口」(16.4%)と公共相談窓口の利用も見られた。

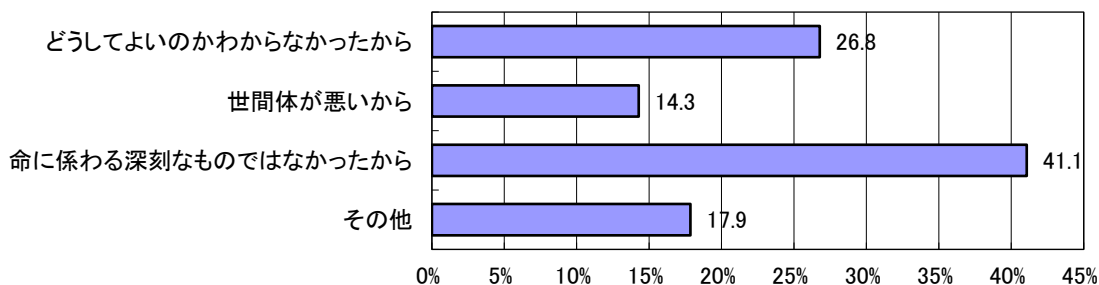
問14-2-3

問14-2で「2」を選んだ方にお聞きします。相談しなかった、できなかったのはなぜですか。次の中からあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。(MA)

(1) 相談しなかった理由

回答数/回収数 47/47

項目	回答数	構成比
どうしてよいかわからなかったから	15	26.8
世間体が悪いから	8	14.3
命に係わる深刻なものではなかったから	23	41.1
その他	10	17.9
合計	56	100.0



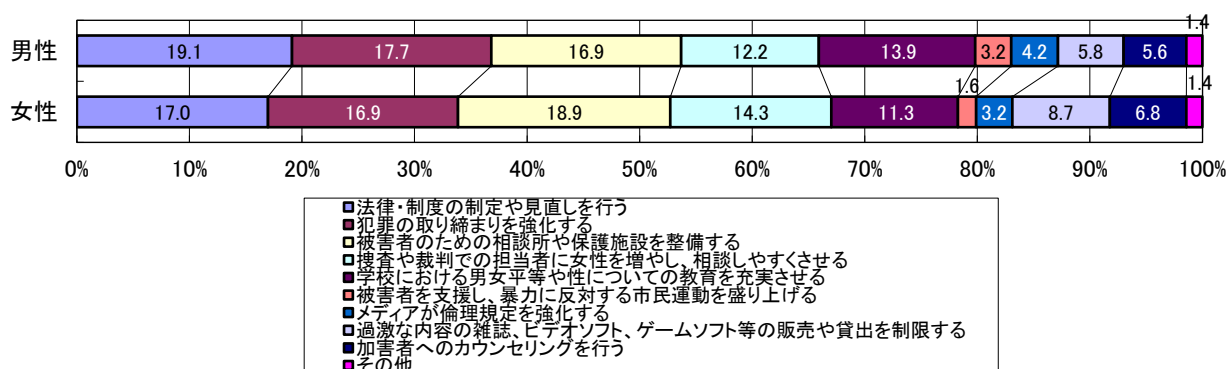
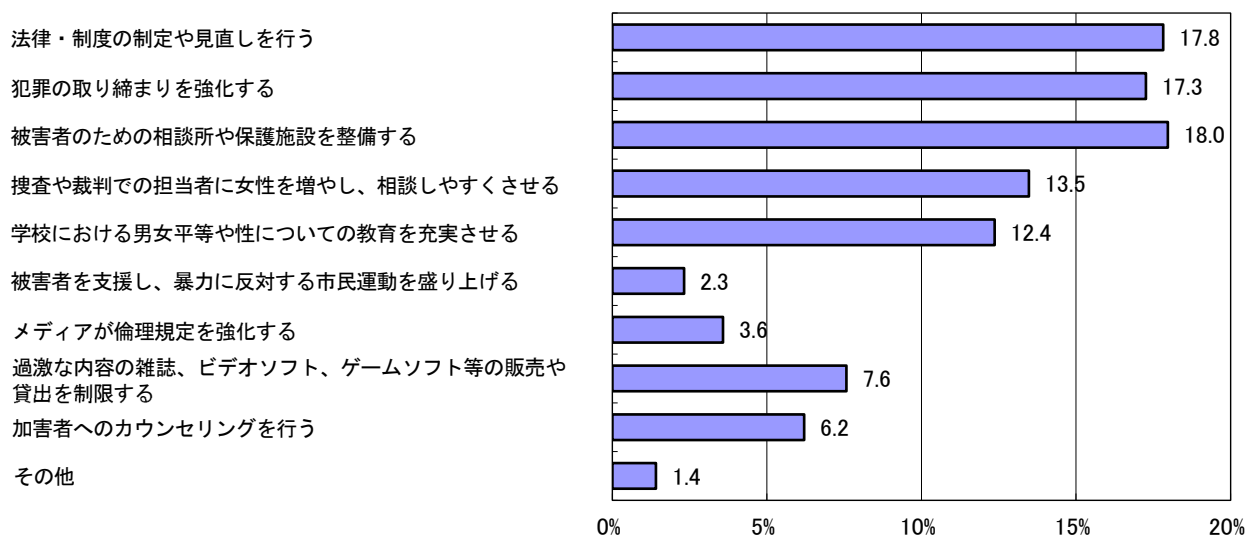
「DVを受けたことがある」と回答した人に「相談しなかった理由」について聞いたところ、「命に関わる深刻なものではなかったから」とする人の割合が41.1%と最も高くなった。「どうしたらよいかわからなかった」26.8%、「世間体が悪かったから」14.3%の順であった。

問15

性犯罪、売買春（いわゆる「援助交際」を含む）、配偶者等の暴力、セクシャル・ハラスメント等、女性に対する暴力や差別をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。（MA）

回答数/回収数 750/841

項目	回答数	構成比
法律・制度の制定や見直しを行う	353	17.8
犯罪の取り締まりを強化する	342	17.3
被害者のための相談所や保護施設を整備する	356	18.0
捜査や裁判での担当者に女性を増やし、相談しやすくさせる	267	13.5
学校における男女平等や性についての教育を充実させる	245	12.4
被害者を支援し、暴力に反対する市民運動を盛り上げる	46	2.3
メディアが倫理規定を強化する	71	3.6
過激な内容の雑誌、ビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する	150	7.6
加害者へのカウンセリングを行う	123	6.2
その他	28	1.4
合計	1981	100.0



女性に対する暴力や差別をなくすためにはどうしたらよいかについて、「被害者のための相談所や保護施設を整備する」と回答した人が18.0%と最も多く、次いで「法律・制度の制定や見直しを行う」(17.8%)「犯罪の取り締まりの強化を行う」(17.3%)の順であり、法律・制度の充実や取り締まり強化による公的な支援、相談や保護する場所の充実を望む回答が多く得られた。

<性別による比較>

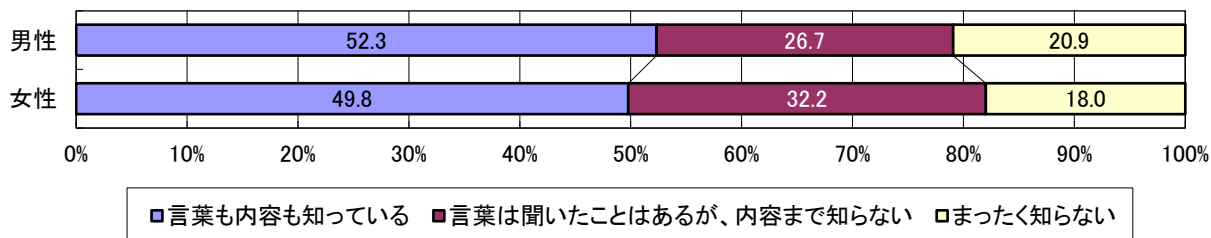
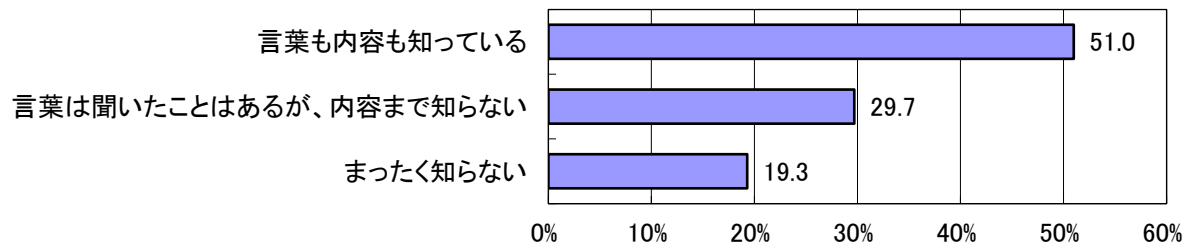
男女ともに同様な回答が得られた。

問16

あなたは、性的マイノリティ（LGBT等）という言葉についてどの程度ご存知ですか。あてはまるものを1つ選んで番号に○印をつけてください。（SA）

回答数/回収数 808/841

項目	回答数	構成比
言葉も内容も知っている	412	51.0
言葉は聞いたことはあるが、内容まで知らない	240	29.7
まったく知らない	156	19.3
合計	808	100.0



性的マイノリティの言葉の認知度について、「言葉も内容も知っている」と回答した人が51.0%と最も多く、言葉のみの認知度も含め、80.7%が認知されている状況にある。

<性別による比較>

言葉の認知度については女性 82.0%、男性 79.0%と、女性の方が多いが、内容まで把握しているのは男性の方が多き状況にある。

問17

性的マイノリティ（LGBT等）の方への支援として、どのような取組が重要だと考えますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。（MA）

回答数/回収数 777/841

項目	回答数	構成比
学校や企業における理解促進や啓発活動	369	21.6
行政による市民への理解促進や啓発活動	186	10.9
行政職員や教職員に対する研修の実施	90	5.3
性別に関係なく使用できるトイレや更衣室の設置、性別で区分されない制服の導入など、環境面での配慮	249	14.6
誰もが働きやすい職場環境づくりの取組	296	17.3
相談窓口や当事者同士が話せる場所の充実	157	9.2
偏見や差別解消等を目的とする法律や条例等の整備	236	13.8
わからない	128	7.5
合計	1711	100.0

学校や企業における理解促進や啓発活動

行政による市民への理解促進や啓発活動

行政職員や教職員に対する研修の実施

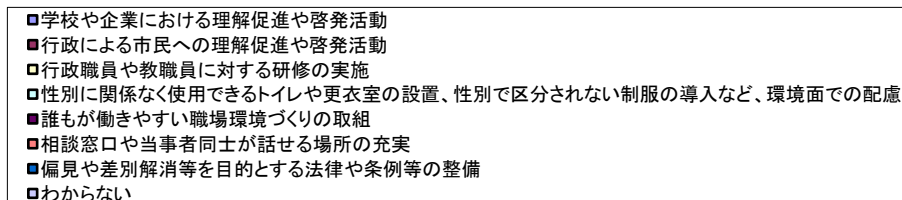
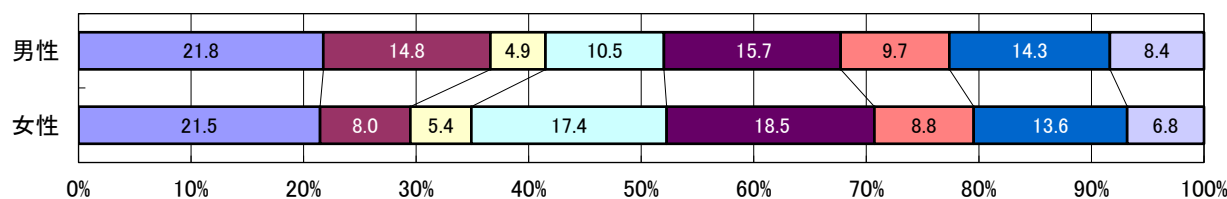
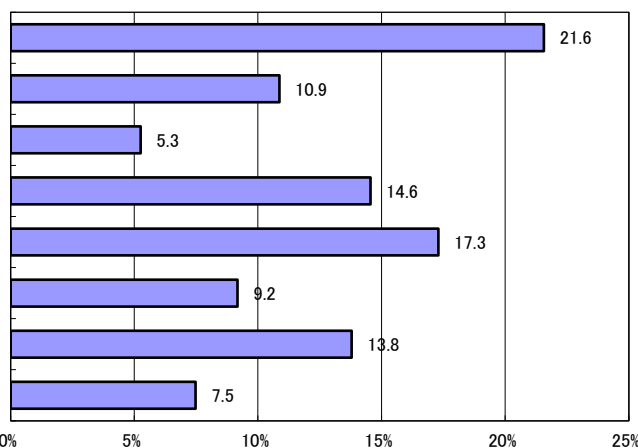
性別に関係なく使用できるトイレや更衣室の設置、性別で区分されない制服の導入など、環境面での配慮

誰もが働きやすい職場環境づくりの取組

相談窓口や当事者同士が話せる場所の充実

偏見や差別解消等を目的とする法律や条例等の整備

わからない



性的マイノリティの支援策について、「学校や企業における理解促進や啓発活動」と回答した人が 21.5%と最も多く、次いで「誰もが働きやすい職場環境づくりの取組」（17.3%）の順であった。

<性別による比較>

「行政による市民への理解促進や啓発活動」が男性 14.8%、女性 8.0%と男性が 6.8 ポイント高く、「性別に関係なく使用できるトイレや更衣室の設置、性別で区分されない制服の導入など、環境面での配慮」が男性 10.5%、女性 17.4%と女性の方が 6.9 ポイント高かった。

6 子どもの教育について

問18
 次の世代を担う子どもたち（小・中学生）に対して、人権尊重や男女平等の意識を育むために重要だと思うものはどれですか。次の中からあてはまるものすべての番号に○印をつけてください。（MA）

回答数/回収数 807/841

項目	回答数	構成比
学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望と能力・適性を重視して行う	520	28.6
学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望や能力・適性を重視して行う	403	22.2
学校において、人権や男女平等に関する授業を充実する	356	19.6
家庭教育学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行う	191	10.5
学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う	215	11.8
今のままでよい	27	1.5
その他	25	1.4
わからない	82	4.5
合計	1819	100.0

学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望と能力・適性を重視して行う

学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望や能力・適性を重視して行う

学校において、人権や男女平等に関する授業を充実する

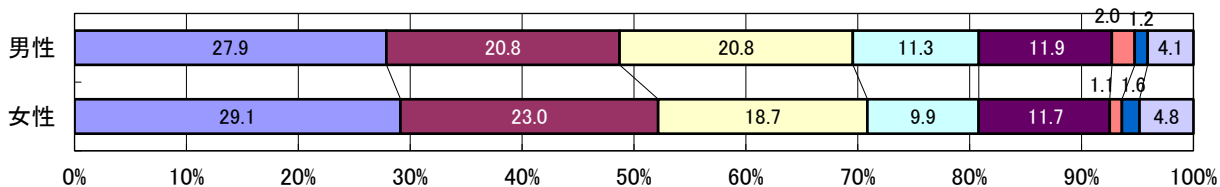
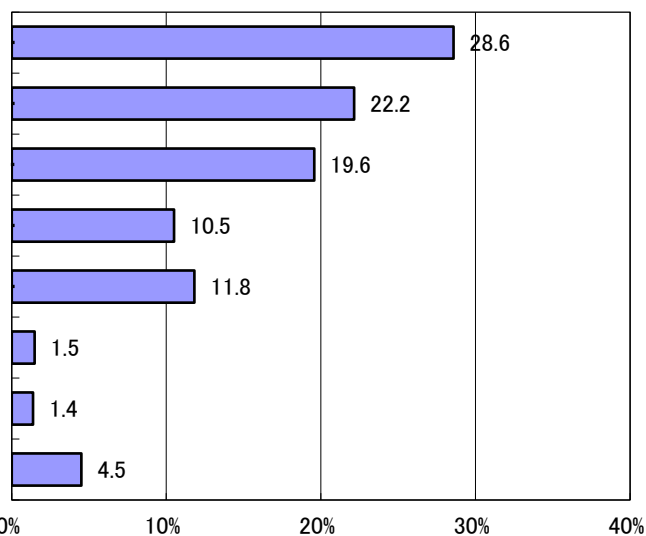
家庭教育や学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行う

学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う

今のままでよい

その他

わからない



- 学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望と能力・適性を重視して行う
- 学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望や能力・適性を重視して行う
- 学校において、人権や男女平等に関する授業を充実する
- 家庭教育学級、PTA等の会合などを活用し、保護者や地域の方を対象とした人権や男女平等に関する講座を行う
- 学校の教員に対し、人権や男女平等に関する研修を行う
- 今のままでよい
- その他
- わからない

次の世代を担う子どもたち（小・中学生）に対して、人権尊重や男女平等の意識を育成するため

に重要だと思うものについて聞いたところ、「学校における、学級活動や児童会・生徒会活動、クラブ活動等の役割分担について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望と能力・適性を重視して行う」と回答した人が28.6%と最も多くなった。次いで、「学校における、進路指導や職業教育について、男女を問わず、児童・生徒個人の希望や能力を重視して行う」が22.2%、「学校において、人権や男女平等に関する授業を充実する」19.6%の順となり、学校教育が人権尊重や男女平等の意識を育成するために重要と回答した人が多くなった。また、「保護者、地域」「教員」への男女平等に関する研修、講座の開催についての回答は、それぞれ10.5%、11.8%となった。

<性別による比較>

男女ともに同様の意見であったが、「学校における指導」について、女性(71.8%)の方が男性(69.5%)よりも高いことに対し、「家庭、地域、教員に対する研修、講座の開催」について男性(11.3%)の方が女性(9.9%)よりも高い結果となった。

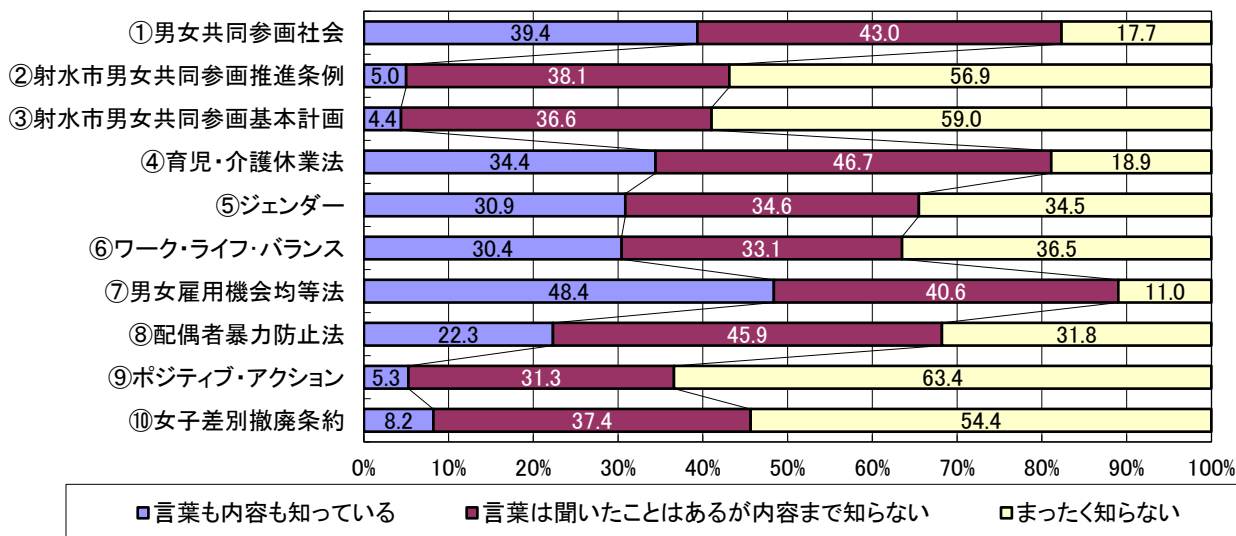
7 男女共同参画に関する施策について

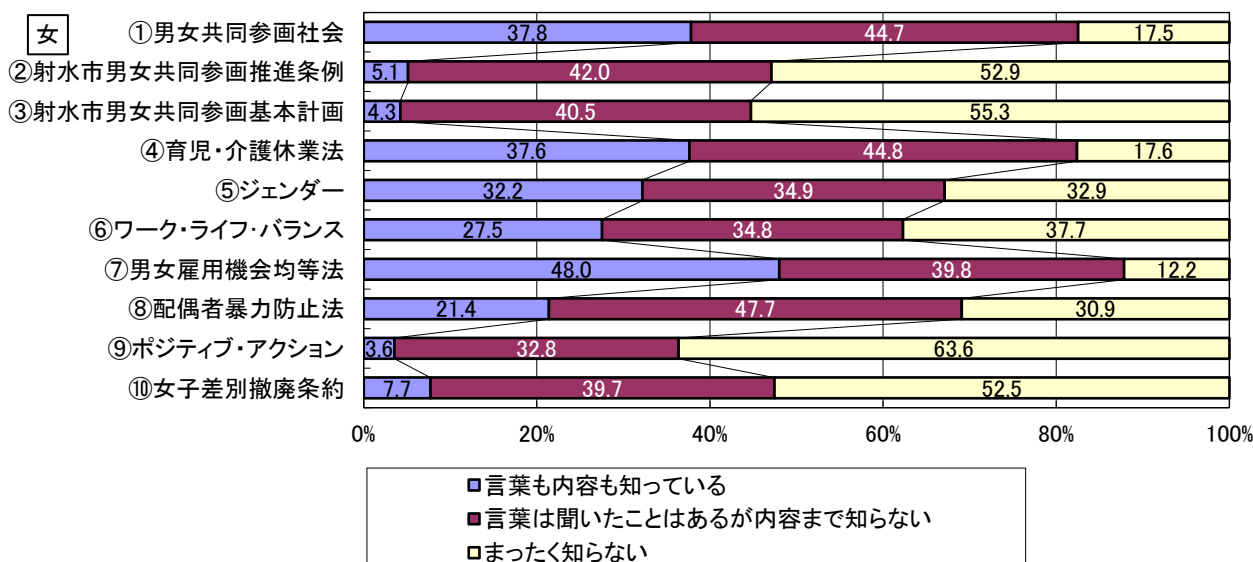
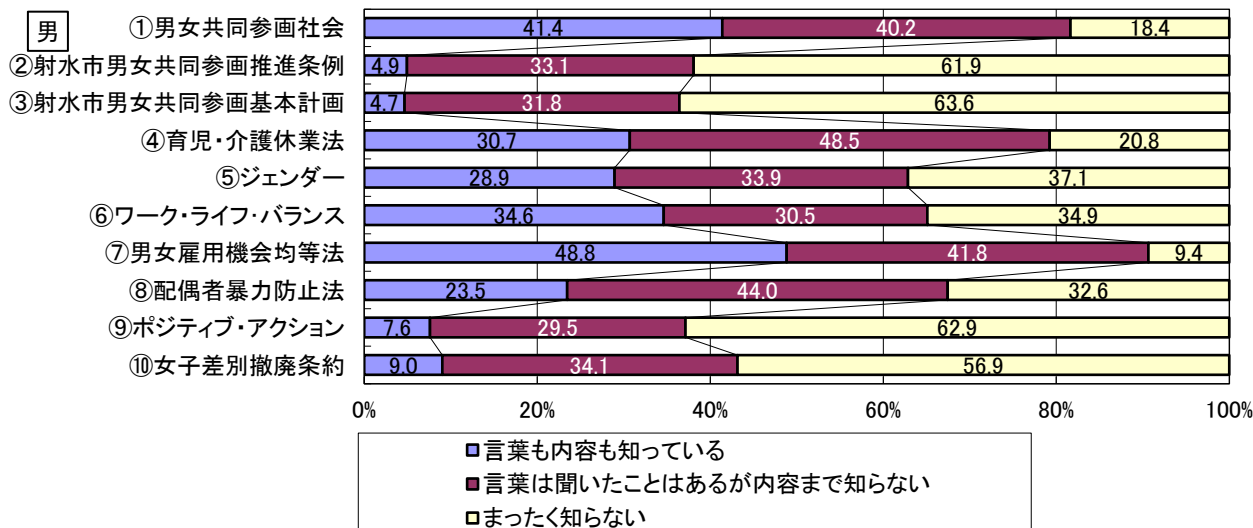
問19
 あなたは、次に挙げる言葉についてどの程度ご存知ですか。①から⑩についてあてはまるものをそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。(SA)

回答数/回収数 804/841

(上段：回答数、下段：%)

項目	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容まで知らない	まったく知らない	合計
①男女共同参画社会	316 39.4	345 43.0	142 17.7	803 100.0
②射水市男女共同参画推進条例	40 5.0	305 38.1	455 56.9	800 100.0
③射水市男女共同参画基本計画	35 4.4	292 36.6	470 59.0	797 100.0
④育児・介護休業法	275 34.4	373 46.7	151 18.9	799 100.0
⑤ジェンダー	245 30.9	275 34.6	274 34.5	794 100.0
⑥ワーク・ライフ・バランス	240 30.4	261 33.1	288 36.5	789 100.0
⑦男女雇用機会均等法	388 48.4	326 40.6	88 11.0	802 100.0
⑧配偶者暴力防止法	179 22.3	368 45.9	255 31.8	802 100.0
⑨ポジティブ・アクション	42 5.3	250 31.3	506 63.4	798 100.0
⑩女子差別撤廃条約	66 8.2	301 37.4	437 54.4	804 100.0





言葉の周知について聞いたところ、「男女雇用機会均等法」が 89.0%と最も高くなった。次いで、「男女共同参画社会」82.4%、「育児・介護休業法」が 81.1%であった。

一方、「まったく知らない」と回答した人が多かったのは「ポジティブアクション」63.4%、「射水市男女共同参画基本計画」59.0%、「射水市男女共同参画推進条例」56.9%、「女子差別撤廃条約」54.4%となった。

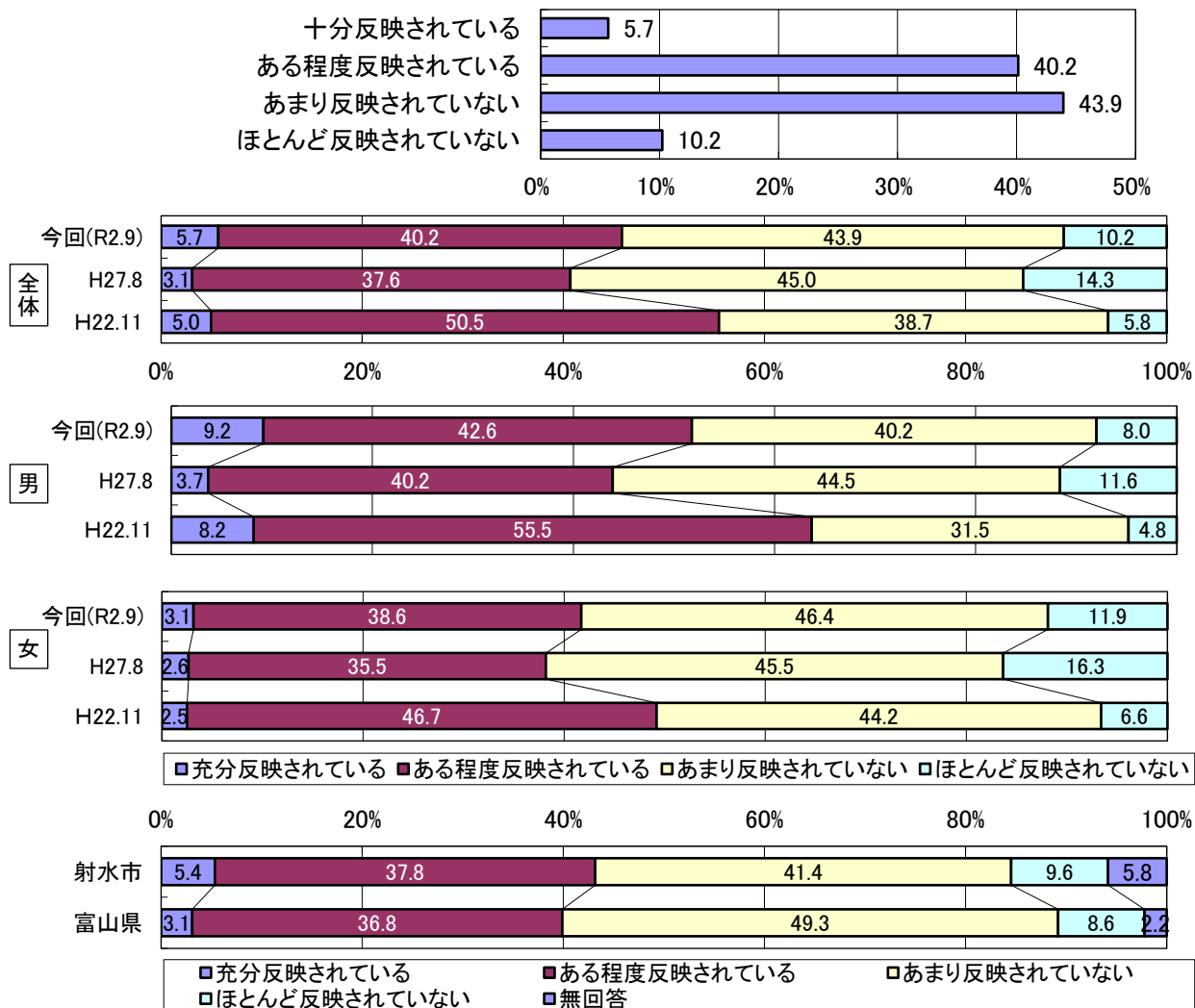
<性別による比較>

男女ともに同様の回答を得られたが、射水市男女共同参画推進条例、射水市男女共同参画基本計画の認知度は女性の方が高い。

問20
あなたは、女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んで番号に○印をつけてください。(SA)

回答数/回収数 792/841

項目	回答数	構成比
十分反映されている	45	5.7
ある程度反映されている	318	40.2
あまり反映されていない	348	43.9
ほとんど反映されていない	81	10.2
合計	792	100.0



※全国調査データなし、富山県データとの比較では無回答含む

女性の意見が政治や行政にどの程度反映されていると思うかについて聞いたところ、「反映されている」と回答した人が46.0%であったのに対し、「反映されていない」は54.0%であった。

<性別による比較>

「反映されている」と回答した人が男性51.8%であったのに対し、女性は41.7%と10.1ポイント低くなっている。

<既往調査との比較>

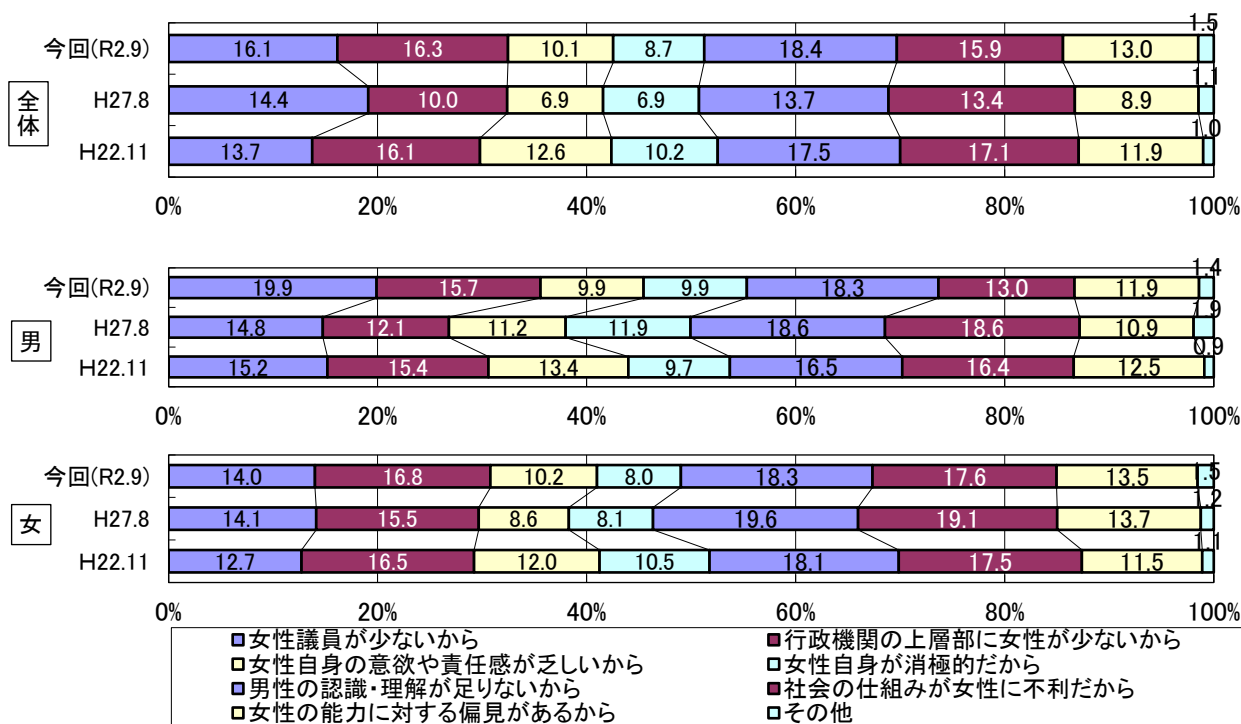
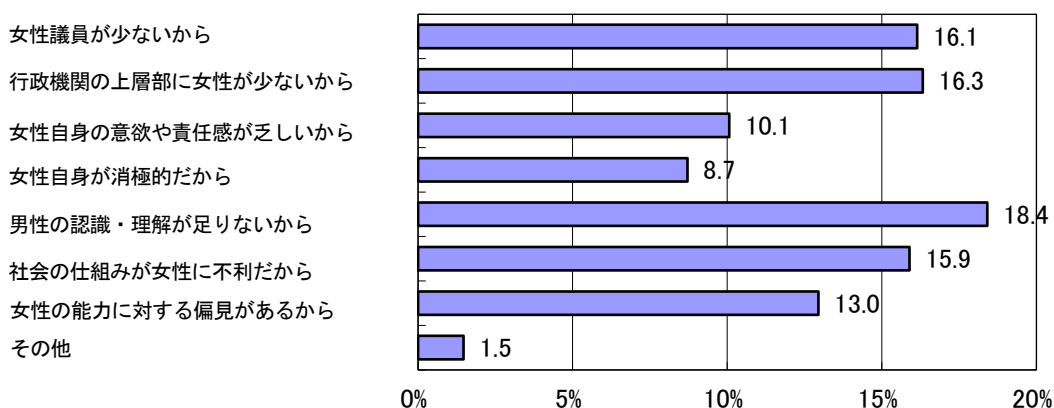
平成22年度では「反映されている」と回答した人が55.5%であったのに対し、今回調査では45.9%と平成22年から9.6ポイント低くなっている。

富山県との比較では、「反映されている」の回答が3.3ポイント高くなっている。

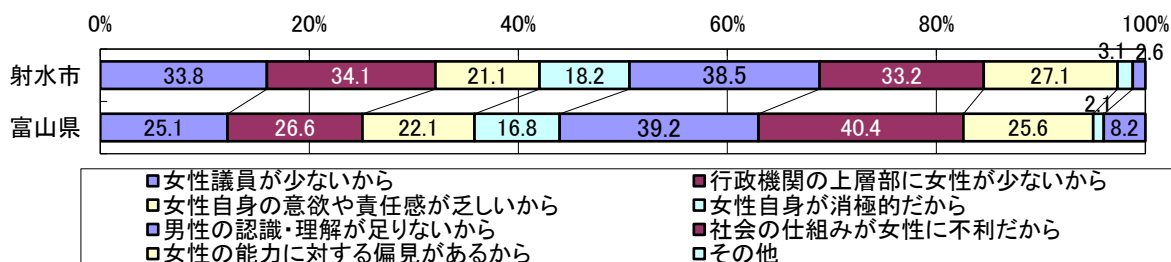
問20-2
 問20で「2」～「4」を選んだ方にお聞きします。女性の意見が反映されていない理由について、次の中からあなたが考えるものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。(MA)

回答数/回収数 714/747

項目	回答数	構成比
女性議員が少ないから	263	16.1
行政機関の上層部に女性が少ないから	266	16.3
女性自身の意欲や責任感が乏しいから	164	10.1
女性自身が消極的だから	142	8.7
男性の認識・理解が足りないから	300	18.4
社会の仕組みが女性に不利だから	259	15.9
女性の能力に対する偏見があるから	211	13.0
その他	24	1.5
合計	1629	100.0



第2章 単純集計結果 7 男女共同参画に関する施策について



※全国調査データなし、富山県データとの比較では無回答含む

前問で「十分反映されていない」とした人に、その理由について聞いたところ、「男性の認識、理解が足りない」を挙げた人の割合が18.4%と最も高く、次いで「行政機関の上層部に女性が少ない」(16.3%)、「女性議員が少ない」(16.1%)、「社会の仕組みが女性に不利である」(15.9%)などの順となっている。

<性別による比較>

男性は「女性議員が少ない」(19.9%)、女性は「男性の認識、理解が足りない」(18.3%)が最も多くなっている。

<既往調査との比較>

過年度の調査結果も今回の調査と同様の傾向にある。

<富山県との比較>

同じような回答を得られている。

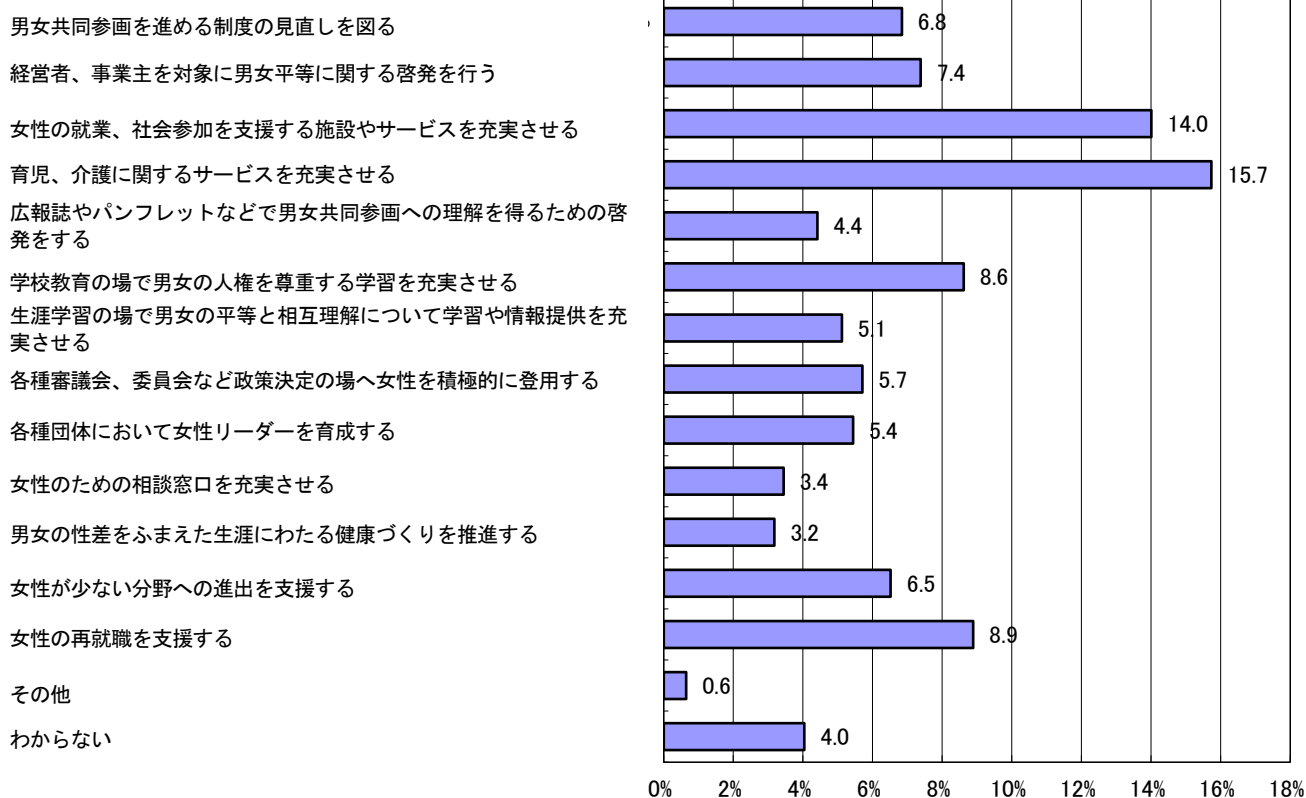
問2 1

男女共同参画を推進していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと考えますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで番号に○印をつけてください。

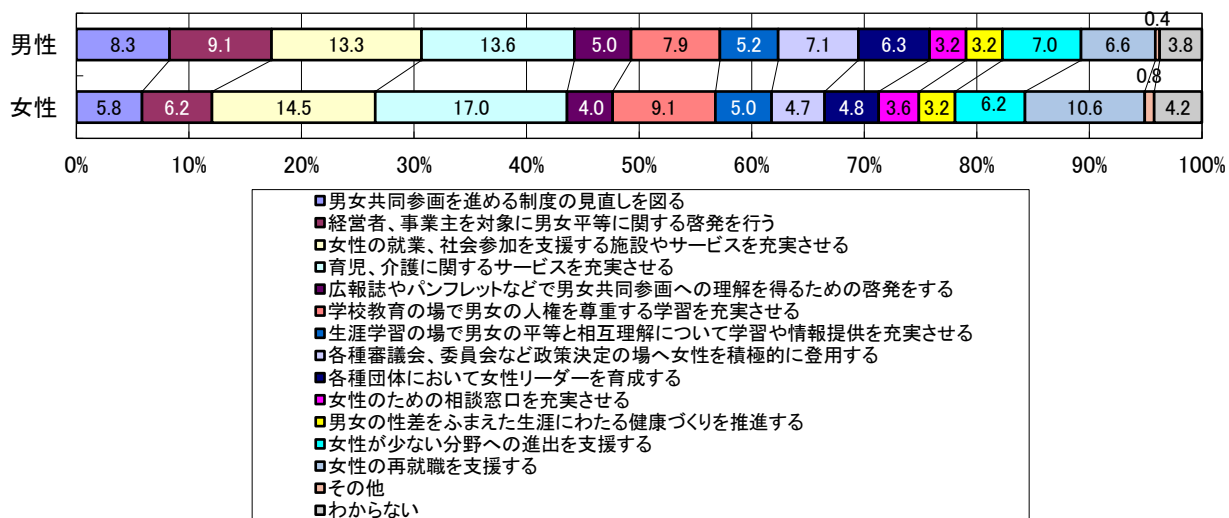
(MA)

回答数/回収数 794/841

項目	回答数	構成比
男女共同参画を進める制度の見直しを図る	127	6.8
経営者、事業主を対象に男女平等に関する啓発を行う	137	7.4
女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる	260	14.0
育児、介護に関するサービスを充実させる	292	15.7
広報誌やパンフレットなどで男女共同参画への理解を得るための啓発をする	82	4.4
学校教育の場で男女の人権を尊重する学習を充実させる	160	8.6
生涯学習の場で男女の平等と相互理解について学習や情報提供を充実させる	95	5.1
各種審議会、委員会など政策決定の場へ女性を積極的に登用する	106	5.7
各種団体において女性リーダーを育成する	101	5.4
女性のための相談窓口を充実させる	64	3.4
男女の性差をふまえた生涯にわたる健康づくりを推進する	59	3.2
女性が少ない分野への進出を支援する	121	6.5
女性の再就職を支援する	165	8.9
その他	12	0.6
わからない	75	4.0
合計	1856	100.0



第2章 単純集計結果 7 男女共同参画に関する施策について



男女共同参画を推進していくために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきか聞いたところ、「育児、介護に関するサービスを充実させる」が15.7%と最も多く、次いで「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる」について14.0%、「女性の再就職を支援する」8.9%、「学校教育の場で男女の人権を尊重する学習を充実させる」8.6%の順であった。

<性別による比較>

男女ともに同様の回答であった。

8 自由意見

問22

あなたが日頃、家庭や学校、職場、地域などにおいて男女平等や男女共同参画について感じていることがありましたら、ご自由にご記入ください。(FA)

性別	年齢	自由記述
女	40～49歳	男女共同参画について思うのは、それぞれの性別の個性を生かすことだと思います。例えば、女性はきめ細かく丁寧な作業が得意な人が多いとか。男性は社会的にリーダーになれる、おおらかな人が多いとか。そういう個性と、うまく社会のニーズに当てはまる仕事と確立していけば、幸せ度が高くなり、不満に思うことが少なくなるのではないかと思います。
男	50～59歳	<ul style="list-style-type: none"> ・内容によりけりである。 ・女性にできる仕事もあるなしあるから。 ・色々な人もおり、頑張り、できる女性には認めてあげることも大事です（それに甘える女性も少なくない）。できる人を大事にしたいですね！！
女	70歳以上	地域において感じること。男女が同じく参画する組織、団体、例えば自治会、体育協会、施設のリーダーがすべて男性であり、女性の意見が反映されない、分かってほしい。旧男性社会のままであると思っている。住みよい地域社会になるよう、改善的指導を求めます。
女	40～49歳	自分自身がパートから社員になりたいと思うけれど、時間的なしぼりが生活する上でつらく、負担になるので、現実的ではない。家事の負担は、買い物、調理、片付け、掃除、洗濯すべて自分と、時々子どもが手伝ってくれる程度。夫はそれでも時々やってくれるが、全体像が見えておらず、本音を言えば何もしていないのと同じ。月に一度食器の洗い物や、洗濯を干したくらいでは妻の悩みは分からないと思う。本人はいたって真面目にイクメン、カジメンと思っているフシがある。よくある話、パートは楽でしょ、正社は大変だよという。それはそうだとも思う。何かしら行政が力を入れても、家庭内ではこのようなものだと思います。私も外に出てバリバリ働きたいので歯がゆいばかりです。年齢的にもきつくなって、チャンスも減り、将来は貧乏決定。生活保護予備軍にならないようにするのがせいぜいです。
女	70歳以上	私は介護施設で夜勤ヘルパーとして働いていますが、私の職場では男女平等だと思っています。
男	40～49歳	女性は本当に平等を望んでいるのか。男性が行った方がよいことも女性に行ってもらうことになっても、女性は「それは男の仕事でしょ」と思ったり、言ったりはしないのか？適材適所を性差で分けずに行った時、女性は本当に嫌な仕事でも取り組んでくれるのか（それは男性でも一緒なんだろうけど…）女性の去り際に「女性にこんなことさせるか」という捨てゼリフを聞くと何となく。逆にきたない、くさい、めんどくさいことは男がやっていたりすることも…。女性が本当に平等を望むなら、去り際に「女性にこんなことさせるか」というセリフは聞きたくない。
女	60～69歳	目上の方は、女のくせにと口にするすることがあり、男社会だと感じます。
女	60～69歳	男女共同参画社会、なかなか難しい問題です。時代も変わり、男だから～、女だ

第2章 単純集計結果 8 自由意見

		から～と言ってもらえません。協力していかなければ。
男	70歳以上	仕事をしていれば家庭の役割を果たしていると思っていましたが、定年退職して家にいると、そうでないことがわかりました。料理教室に参加したり、掃除したり、日常生活の中での仕事を見つけています。まだまだ不十分だとは思いますが。
男	60～69歳	男性にも女性にも両方よいところはあります。子どもの頃の道理を教えていないと、何の役にも立つことがない、そのように感じます。教育が一番大切ではないでしょうか。
女	70歳以上	日頃からPTAとか、一部の父兄方が、自分がしなければならぬ子供のしつけを、何を勘違いしたか、学校が悪いと？自分の仕事を他人に押し付けるとはなんとも情けない世の中です。私たち老人は色々な事を聞くたびに、？。ある人は、先生より上の大学出ているので、あの先生に子どもを預けられないとの事？自分のバカさが分からないのだろうか。先生はやってられないとの事でした。友人の話です。今の人たちは、自画自賛する所があるんですね。問9:子供の小さい時は母親が家に居た方がよいし、子供の性格もわかり易いから。
男	40～49歳	男社会の会社で、女性は結婚すると退職してしまうことが多い。結婚しても出産で退職など。会社、地域のよほどの支援がないと、女性の働く場所は増えないと思う。
女	30～39歳	家庭内で一番稼ぐ人＝一家の大黒柱の考えはまだまだ存在していると思います。それは必然的に父親や男性が多数であり、女性もそれ同様に仕事をして稼ぐとなれば、なかなか難しい世の中だと感じています。正社員で働いても、家事や育児をするのはほとんど女性のような気がします。世間の目や男性の意識を変えなければ「男女平等」とはまだまだ言えない世の中だと思います。
男	30～39歳	男性よりも女性の能力、才能、体力、経験などが劣っているために、どうしても男性が優位であると感じています。
男	20～29歳	女性は事務、サポートの業務内容が多い気がする。実際に表に立つ仕事をする、客に下に見られたことがあるらしい。世代もあると思うが女性は家にいると思う風習がまだ残っている。日本の社会が変わらない限り、女性が働きにくい時代で進んでしまう。ダサい中年男が日本をダメにしている。
女	60～69歳	男女の性差：母性愛等、本来女性が子育てをしていく上で大切な生命（生き物としての命）を育むことも重要であると考えている。また現実的には男子の育児休業も質的な検証が必要であり、推進のみを強調すべきではないと考える。
女	40～49歳	子供を育てている女性が子供・家庭第一になり、自身の仕事における昇進や出世について考える余裕がないことは仕方ないことだと、子供を産んでから感じるようになりました。だから女性の社会進出＝女性の昇進・出世とは思いません。女性が働きやすい社会づくりが大切だと思います。
男	30～39歳	お年寄りの行政の方が意識改革してほしい。考え方が固くおもしろさを感じない。射水市で5万発の花火大会してください。
男	30～39歳	男女平等は今の時代に大事なことですが、男と女には違いがあることは事実なので、ある程度男女の役割は必要だと思います。
女	30～39歳	最近男女平等と言われ、大分意識されるようになってきているとは感じます。若い夫婦（核家族）が増えていると感じ、そのような家庭では夫婦で協力していると思いますが、町内会に参加すると、男性（高齢者）の方の意見が強く、「若

		い人、女は黙っていて」と言われる。まだまだ難しいのではと感じます。
女	18～19歳	年配の方の考えが変わらなければ、若い世代の考えは変えられない。
女	50～59歳	高齢者の割合が多い地域には特に、男性上位の考えが根付いていて、女性も平等を求めながらもその地域の中で生活していると感じる。若い世代は少しずつ家庭内、平等意識が広がっていると思うが、どれだけ啓発しても染みついた意識はひとりひとりが変えようと思わないと変わらないのではないかと思う。
男	60～69歳	家事・洗濯は男性もやるべきだということは十分理解しているのですが、どうも年長者（私61歳男性）には、行動に移せない。今の若い者（若い夫婦&これから結婚していく年代）は、イクメンが増えて多少なりとも行動様式が変わっていくのではないのでしょうか。いいことですよ。
女	70歳以上	結婚しようという人が少ない為に妊婦、子供達が少ないこと。子どもたちが多ければ多いほど、色んな面で経済面がうるおうと思います。人口が多ければ多いほど生産面。人口多の国は○になる。色んなものが買えるので消費も回すことができるし、若い人たちが多く出てくるので、日本の生活面がうるおう。日本の国がもっと発達すると思う。発達するには子供達に教育をしっかりする教える事。そして道徳面はとても重要だと思います。性的道徳面の社会的面の道徳面をしっかりすれば、18歳の選挙の政治に対する考え方、日本の将来性が分かる、変わると思います。日本の未来を担うのは若者です。若者を多く必要とします。それには子供を多く出産させる事だと思います。結婚の相手を探すのも行政も政治的にもっと積極的になることだと、国からもっと積極的に行う、政策事だと思います。今国が、人口が段々と減少している時、もう遅いと思いますが、以前人口が減少していると言う時からすぐに行うべき政策だったと思います。男女共同参画の感想ではありませんが、私は以前からずっと思っていたことを書かせてもらいました。
女	30～39歳	・職場において、仕事ができなくても男性で家庭があることだけを理由に給料が高いこと。または昇給のペースが早いこと。そのため、女性の管理職を増やすといいながら、結局は男性ばかりである。それなのに何かあると「女性の感性で」というふうに、その一言だけで押し付けられる。 ・女性だけ、子供が小さいからまだ早いと言われ、役職を外される。男性に同じ歳の子どもがいてもそれは関係ない。
女	60～69歳	介護について男性の理解を得られる事が大切だと思います。
男	40～49歳	・昔ほどではないが、子育て、地域行事は女性が行うという慣習は根強いと思う。 ・アンケートによる意識調査よりも、PRイベント会場や本当に困っている人の相談窓口での意見や実態調査をした方がより良いものになるのでは？ ・市政の活動が市民に見えていないのでは？もっと活動をPRしてほしい。
男	60～69歳	年齢別教育（例えば50歳以上、49～30歳、29～20歳）。現在の学校教育では生徒、学生に男女共同参画、男女平等に関する教育を啓発させているが、一般社会において浸透していない気がする。これは、一般社会において、各年齢層における段階的な教育や、マスコミ、メディアの発信が時代に沿ってなかったと思う。なので年齢別の再教育をした方が良い。
男	60～69歳	女性の多い職場に男性をもっと増やす（保育所、看護師等）。保育、看護の仕事でも、重い物、力のいる作業等多くあると思うから。男性の多い職場にも女性を

第2章 単純集計結果 8 自由意見

		もっと入れれば、職場内が明るくなると思う。
女	40～49歳	現状に不満はなく男女共同参画などと声高に言われるとプレッシャーを感じる。
女	60～69歳	60代の私には、男女平等なイメージが少ないので、学校教育やサービス充実していくことで平等な制度を作り上げてほしい。
男	60～69歳	申し訳ないが「男女不平等」をこれまでの人生で体感してこなかったため、この問題を解決する「男女共同参画」のための「戦略、戦術」の具体的な構想（青写真）が自分にないまま適当にアンケートに答えてしまいました。本当に申し訳なく思っています、ゴメンナサイ。ただ一つ言えることがあります。それは「人の不幸の上に自分の幸福を築こうとする者は悪（クズ）だ！！」という心理です。その様な人間はこの世から消え去るべきと思いますマジで。「老若男女」に関係なく一人一人の「世のため、人のため、強きを挫き、弱きを助ける（ウィン・ウィン・ウィンを目指す）」という思いが、家庭、学校、会社、社会、国、世界を幸福（平和）に導くと考えています。
女	60～69歳	行政のトップに意見書を送っても取り上げてもらう確率がほとんどない。特に女性の一般市民の声は、少数では取り上げてもらえない。射水市は子育て、福祉などいろいろな面で充実していると感じ、射水市の子どもは幸せだなと傍からみていると感じる。ただ住みやすくなればなるほど不満も生じるということも多く、道路や線路、川を挟んで違う小学校や中学校に行かなくてはいけないという声も多く聞く。こういう言葉を発するのは母親です。こういう声に耳を傾けていただけたらと思います。意味は違いますが女性という意味で書いてみました。
男	60～69歳	<ul style="list-style-type: none"> ・参画事業は平準化してきていない。 ・アンケートが難しい。よくわからない。 ・質問は簡単にしてほしい。
女	40～49歳	看護師なので女性の多い職場であり、職場内での性差別は（職員間では）少ないが、一定以上の年齢の男性の偏見や女性を軽視する言動には困っている。彼らは誰かに対していばることがアイデンティティの一部なので修正は不可能であると感じる。このアンケート自身も女性の立場や労働環境が低いものという前提のものであり、例えば問9の選択の中に、「パートナーに育休を取ってもらって、または主夫になってもらってすぐに復職する」という選択肢があってもよいのではと思う。質問の端々に男性優位が見え隠れしていて、これでは何も変わらないだろうなと思いました。
男	60～69歳	男女は平等であるが、能力に見合わない者を数値目標だけで登用したりすることは不平等である。海外では能力の高い、給与等の高い女性が仕事をし、男性が家庭に入る場合もある。重要なことは家庭内での判断をすること。その結果として、家事、仕事の分担が決まる。出産は男性にはできないが、その他の多くのものは分担できる（母乳は無理）。しかし母性も尊重が必要。
女	20～29歳	平等を願っているけど、男子と女子の性別についてはお互い尊いものだと考えてますので。男女共同参画は私の思う平等と違うと感じています。
女	30～39歳	漠然と、結婚、出産したら男性の給料が上がる（女性はむしろ休職勧告や据え置きや減給？）イメージがある。実際どうかはわからない。でも男性よりも女性が稼ぐと男性のプライドが傷つけられるなら現状の方が平和？ケンカやもめごとはめんどくさい。でもどのみち自立するには経済的自立は不可欠。そして仕事ができるのと、それに応じた給料がきちんともらえるのは、（男女共同参画の視点に

		限らず) イコールではない。
男	70歳以上	段階の世代の自分としては男尊女卑の世界を生きてきた。若い世代を見ると、自分の世界とは随分と違ってきている。教育の中で男女平等の意識を高める教育をすすめるとともに、女性が社会の中で活躍できる世の中、そして出産、子育てしやすい環境が整っていくことを切に望む。
女	50～59歳	私の年代(50代)以上は、同居が当たり前。家事、育児、介護は嫁がやって当たり前。男にさせるのは何事かと言われてきたため、夫もそれが当たり前の考えの中で生活してきて、80代の姑がまだ健在だと、なかなか男女共同参画という考えは難しいと思います。今更変えるのは大変です。今の30代以下の人たちは、家事、育児も協力しているようなので、少しずつ変わってきているとは思いますが。急に変えるのは無理ですが、一歩ずつ変えていけば、変わっていけばいいのではないのでしょうか。メディアの力が強くなっているので、そこも使いつつ、行政も頑張ってください。封筒にテープをつけてあるのはとてもありがたいです。
男	60～69歳	すべての男女が同じことができるように努力するのではなく、男は男らしく、女は女性らしく、社会の役に立つように行動していくことが、真の男女共同参画だと思います。
男	18～19歳	男女の平等はどのような状態なのでしょう?女性には出産など、男性と異なり、明確に社会に参加することができない場合があります。そういった「不利」は正していく必要があると思います。ですが「平等」とは、男性と女性の雇用を同じ数にするのが平等か、同じ条件で「男性」の方が多くなるのが平等か、見る人の立場で変わってくると思います。いろんな人の立場を考えながら「男女平等」を考える必要があると思います。
女	40～49歳	70歳以上くらい世代の方はどの方も男尊女卑の考え方がしっかりあるので、家庭(2世帯)や町内(地域)では、男女平等にはなっていません。私は何もかもが男女平等でなければいけないと思っていないのですが、それぞれの環境で、自分たちが居心地の良い状態を保つために、遠慮なく意見が言えるような社会になればいいなと思います。私は富山市から、結婚して射水市に移住してきましたが、地域性が特に「男は仕事、女は家庭」という考え方が根付いているように思います。そして女性の方はそれに不満なく当たり前のようによく考えておられます。私の周りには義父母の方と同居している方(女性)がたくさんおられますが、ほとんどの方が子供を育てながら仕事をされています。世代間のギャップに直面しながら生活しておられますが、まわりの方がどんどん考え方が変わっていくことを願っています。
男	60～69歳	個人を尊重して、第一に結婚後の夫婦別姓を認めるべきと思う。
男	40～49歳	人間社会においては必ず差別は発生するし、なくなることはないと思います。しかしながら、動物とは違って人間には理性があります。理想を語るよりも、もっと男女の性差を理解することが大切だと思います。差別ではなく区別、特徴ではなく適性により、個人の選択肢が広がるのが住みよい社会ではないかと思えます。なんでも平等というのも「いびつ」です。共同参画も表に出るのが共同なのか?夫の参加を支援する妻は参画していないのか?ということにもなりかねません。「したくでもできない」ことが悪であり、表に出たい、出たくない、仕事を精力的にしたい、家庭と両立したい、家庭を守りたい等、個々人が自らの望む選択ができる社会こそが、真の男女共同参画ではないのでしょうか?

第2章 単純集計結果 8 自由意見

女	50～59歳	同じ時間、同じ日数働いていても、どうしても男女の、給料での差があると思う。母子家庭だったのですが、一人目の子が成人になったらすぐ、市県民税が普通になり（その時は高岡に住んでいました）、二人目の子がいたため、その増額はとても大変でした。
女	50～59歳	男女平等や男女共同参画は、いろいろな意見を取り入れるためにはとても重要ではありますが、男女の根本的な性の違い等もあるので、相手を敬うという姿勢は、常に持っている必要があるのではないかと考えています。もしかすると今後は（男性のための…）という企画が増えてくるかもしれませんね。
女	70歳以上	地域の女性団体活動の中で永年にわたり、男女共同参画について勉強してきましたが、女性自身の意識がまだまだ男女差別を感じていて、権利ばかりを主張しては、女性の地位向上は期待できないと思います。男女の垣根を女性自身が意識なく自然に超えることから先ず始めることだと思います。
男	50～59歳	県民性（市民性）にて、性差を踏まえて男女平等で社会進出する女性が少ないと思われる。100人いれば20人は積極的かもしれないが、残り80人は、生活できるなら専業主婦を望んでいるのが、地方の女性ではと感じる。
女	20～29歳	男の育休は取得しても家のことも育児もせず、ぐーたらする人が多いと聞く。どーにかしてほしい。会社も女だからというのものもあるが、若い人が続けやすくしてほしい。若くても子育てしやすい社会頼む。
女	60～69歳	学校ではだいぶ男女平等や男女共同参画が浸透していて将来明るい見通しだと思いますが、家庭や地域では、まだ昭和初期までに生まれた人々の考えが根強く残っていて、継承されると思います（男尊女卑）。まれに女性のリーダー誕生した時は大賛成です。
女	20～29歳	・いつも一番トップ（市長、町長、社長、責任者）などは必ず男性です。どれだけ女性の意識改革といってもトップが男性ばかりの今の社会では、ツテもコネもない女性が、上に行くのはとても厳しいです。 ・射水市の取組を全く知らないのでもっと学校、職場、地域などにポスター掲示などしていけばよいと思います。
女	30～39歳	男性にもいろいろな方がおられますが、一般的に「女性の置かれている立場や状況を理解しているつもり」「女性に協力しているつもり」の方が多いと感じています。「女性が我慢しなければならないのは仕方のないこと」「女性が我慢するのは当たり前」といった従来からの風習が、現代社会には全く適合していないにも関わらず、根深く続いています。そのため、女性は家庭の内外から有言無言の圧力を受けることとなり、結果的に社会参加の機会を失ってしまいます。法律や制度を整えることは重要ですし、女性としてありがたいことだと思います。しかしながら老若男女問わず個人個人の理解や思考・感覚といった根本的なところが社会の変化に応じて変わらなければ、効果を発揮できないままになってしまうのではないのでしょうか？娘が大人になる頃、女性も遠慮し過ぎず伸び伸びと生きられる社会になっていることを願っています。
男	70歳以上	男性は実社会への貢献。女性は家庭と子どもへの役割が慣例となっていますが、女性の仕事への進出が増え、両性の役割分担がお互いの協力と、祖父母の協力が必要になってきており、二世代の同居、三世代の同居も、人口減や一人暮らしの老人問題が増える中、見直すべき時が来ているのではないのでしょうか。
女	70歳以上	問17：性的マイノリティの方への支援_トイレの中の一つだけを性別無しのもの

		を作る。
女	60～69歳	家庭内では、特に男女平等とか言わずとも、それぞれが助け合いの心で、口に出さずとも暮らしております。しかし社会では、まだまだ女性の立場が低いように思いますが、女性自身の意識も伴わなければ前に進めないと思います。
女	40～49歳	個々の意識があるため、簡単ではないと思う。男性の良さ、女性の良さがそれぞれある。家庭、職場、個人の意識が重要だと思います。職場では人手不足も問題になっているため、誰かが無理をしなければならぬ。とても重要だが難しい問題だと思います。
女	60～69歳	何でもかんでも男女を平等にというのは無理なこともあるので、男女それぞれの特性や得意分野を、受け入れやすい社会ができていけばよいと思います。
女	50～59歳	まだ50歳代の年代なので、まだ男性の方が何かと優位なポジションで、男は仕事、女は家庭さえ守っていればよいと言われて育ってきました。今の20～40歳代の方々は子育てにも非常に協力的で、育メンとか言われてとても微笑ましくて、私としてはとてもうらやましい限りです。子育て、食事の支度、後片付け、掃除、買い物、ゴミ出しなどなど、いろいろな家庭生活の仕事を男女関係なくしてほしいと思います。女は子育て、仕事、家庭生活における仕事、非常に大変です。男の方にわかってほしいです。
女	60～69歳	町内や市の活動で、婦人部（会）の活動が残っていることに疑問を感じます。昔と違い、今はほとんどの家庭で夫婦共働き。そして日曜日だからといって休めない職場や、平日の休みを取れない職場などがあります。それなのに、運動会、祭り、選挙などでは、女性に食事準備等を求められ、仕事の都合で休む人が多いと他の人に負担が掛かることとなります。こういう地域の実態を改善していかないといけないと思います。「今までこうやってきたんだから」という考えをなくすべき。世の中は変化していきますよね。
男	50～59歳	この様な調査があることこそナンセンス。しかし残念ながら実状である。男女ということではなく、人として社会の参画を推進するべし。
女	50～59歳	ずいぶん前より男女平等は言われてきましたが、職場での平等感は仕事内容や賃金においても感じられません。社会において深く浸透してこそ、家庭でもなされるのではないのでしょうか。若い頃よりずっと家庭と仕事を両立してきましたが、大変でした。今いる会社は上層部は役員になっているので定年もなく70代です。この方達の考えこそ建前と本音があり、外部との会議と実際の会社での言葉が違います。少しずつ意識を会社全体で変えていくしかないのでは。
男	70歳以上	男の言う事ばかり聞いて、女の言う事あまり聞かない。
女	60～69歳	家庭での仕事はどうしても女性の方が多い（家事、育児、その他）。それに社会での仕事と時間を一杯使っている。その外に色々なことをしたいと思ってもなかなかできない。頭では解っていてもまだまだ男性女性の仕事とどこかで区別をしているように思います。男性も家事・育児その他、家庭での（平等）協力があれば女性も外に目を向けることができるのでは…と思います。
女	50～59歳	新しく作られている分譲地の若い人達と昔からのしきたりなどがある年齢層の高い方との交流が難しい。
女	50～59歳	日中に自分がやってみたいことができれば良いと思う。・カラオケ、手芸、折紙、ちぎり絵、季節、七夕、クリスマス、こどもの日、おひなさまとか作って、皆さんでワイワイ楽しい時間がつくれれば良いと思う。

第2章 単純集計結果 8 自由意見

女	70歳以上	私は70歳です。13組の仲人をしました。三世代に同居になるととてもいいことがいっぱいありますと言います。娘も三世代同居の家へ行きました。すると80歳過ぎたおじいちゃんが手を合わせて目に涙を出しておられました。娘はおじちゃんとおばちゃんのおられる家へ行きたいと言っていました。私の家ではおばちゃんが54歳、おじいちゃんが94歳まで生きておられました。
男	60～69歳	共働き世帯では家事の分担が重要であり基本である。そうしないと女性の負担が大きくなり、歪みにより続かない。家庭という身近なところから男女共同参画を考えないといけない。
男	70歳以上	回答者を想像して、設問の内容、量を考えるべきです。
女	70歳以上	世間全般の意識が変わらないと平等な社会になっていかない。今の子どもの教育が将来の社会を作っていくと思う。
男	70歳以上	私たちの時代は女性自身も家庭優先の考え方でありました。
女	70歳以上	自分自身70歳です。夫を見取り、母を見取り、今は一人暮らしで、あまり参考にならないかも。それぞれ今まで職場で、女性の立場を生かして働いてきたような気がします。夫も女だからというのはあまりありませんでした。でも今どんどん女性が色々なところで活躍されていることを頼もしく思っています。平等とはそれぞれの能力で分かち合いながら職場に、社会に有るということだと思います。
男	20～29歳	このように射水市の男女平等に力を入れてくれるという事実が誇らしい。こういった高い意識でどんどんいろんな活動にチャレンジしてほしい。
男	70歳以上	問5：設問の意味が理解できません。問17：設問自体理解できない。個人の問題、他人が鑑賞する問題でない。
女	50～59歳	町内会で、お宮担当は男、体育委員は男か女があらかじめ指定されています。町内の集まりは様々な世代の人がいて、上の年齢になる程、男性優位の考え方をする人が多いし、近所ということで人間関係に気をつかうので、デリケートな問題で主張しづらいし、男女平等ということの一つにまとめていくのは難しいことなのかなと思います。どんどん市が情報を発信して行って、市民一人一人が意識して変わっていきけるよう、先導して行ってください。
女	30～39歳	転職先を探す時も、子供がすぐできるのではとたくさん断られました。再就職したくてもどうしたらよいか分からないことも多いのではと感じます。現在の職は、建前は平等ですが、男性の人数の割合も多いです。平等とはいいいがたいこともあります。今後親の介護もあると思うので、サービスが充実することや、自分が休みを取りやすくなることを望んでいます。学校で、という項目が多くありましたが、学校教員の仕事量がさらに大きくならないようお願いしたいです。せっかくアンケートに回答しているので、声が届くことを願うばかりです。
男	20～29歳	現場作業者は女性が少ない。今の会社は女性は少ないが、労働環境、給料は女性の方が良い。職種での男女差が少なくなしてほしい。
男	40～49歳	男には男、女には女の仕事があるのは仕方ないことだと思っています。大切なのは、お互いがお互いの「できること」「できないこと」を理解したうえで助け合うことだと思っています。問5：問題の読み取り難しい。問16：今はLGBTQです。問20-2：メディアにおけるコメンテーターの男女比に比例してTV、ネットからの情報を女性は積極的に得ていないのではないかなと思う。
女	50～59歳	問11：②③④は取れるかもしれないが誰も（今まで）取ったという話は聞いたこ

		とがない。
男	60～69歳	日常生活において男女の役割を平等にすることから始めることが重要である
男	60～69歳	これは男性の仕事、これは女性という決まった事ないと思うが、生活している中で、これは男性の方が得意、女性の方が向いているという事を感じることもある。今は妻も定年を迎え、家庭という小さな社会でお互いを思いやり、自分でできる事を手伝ったり、してほしい事を言葉で伝えたりしながら、今より少し努力をすることを心掛けている。今までの自分、社会、家族を振り返ると、女性も仕事をもち、能力を発揮することも大切。そしてこれからの社会の継続、発展を考えると、子供を産み育てる重要性も感じる。その子供を産み育てる中で、どうしても女性にしかできないことがある。女性が家庭と仕事の両立をと考えられた時には協力する一方、子供のために何が大切なのだろうと考えることも大切なのではないかと感じる。基本的には一方的に自分の想いを押し付ける（考えの改善につながるので発信は大切）だけではなく、相手を思いやる優しい社会でありたい。
女	50～59歳	男女平等と言っても、各々の役割、お互いに代わることのできない役割がある。男性と同じように力仕事をしろといわれても、力、体力の差はあるし、出産、育児は男性はできないし、育児については子供の精神的成長において母親の役割は重要。「男女平等」という言葉を薄っぺらい知識、理解で分かったように唱える行政は望みません。お互いを思いやり、理解しあえる基本をきちんと定着させることが大事。
女	20～29歳	現在2児を家で日中見ております（2人目妊娠を機に仕事は退職しました）。今は働いていないため、子育てが自分の仕事のようになっています。主人は毎日残業で、土日のみ子どもたちと触れ合う時間があります。2人産んで思ったことは、育児は2人でするものなのに1人で頑張っている感が強いことです（主人は協力的ですが）。難しいかもしれませんが、1歳未満の子がいる家庭は定時で退社する。男性の育児義務化を早急に進めてほしいです。働き方改革で、男性の考えは前より育児に関心があると思いますが、まだまだ「育児は女性の仕事」という考えが強いと思います。学校などで男女平等についてしっかり教えていただき、将来の社会がもっと良いものになることを願っています。
女	50～59歳	日常の生活（仕事、家のこと）に忙しく生活しています。なるべくなら、無理に順番だからと言われて、地区の役員などに参加できない、したくない。できる方、されたい方が良いと思われる。アンケートも本当は断りたい。
男	70歳以上	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県、市に進出している女性には少し勉強不足と責任不足がみえる。もっと体験し、そして政治の場に出てほしい。 ・職場において、産休問題は、難問であるが、職場でその現場の人が1年以内ということは、大きな穴となる。そこをうまく埋めれる企業はあまりない。依然と当たり前いうところは少し。当人にも、また代理を務める人にも禍根が残る。
男	50～59歳	問5：質問と回答の意味が理解できません。
女	70歳以上	女性は外に出ず家庭を守るという教育の元育ち、また、そのような家庭でもありました。今振り返れば現況の時代に青春を送っていたら、違う生き方ができたのかも、改めて思い知らされました。また、考えようによれば、古き良き環境に生きたとも思われますが、この調査票を記入しながら、良かったのか悪かったのか考えさせられます。今とは違う年代でこのような質問調査を受けていたら、全

第2章 単純集計結果 8 自由意見

		然回答が変わっていたのではと思われます。男女平等と叫ばれて久しく、いまだ完成を見ていないし、男女共同参画も人孔の減少で浮かび上がってきた案のように思われます。正直この年になり、このような事より介護の充実を切望する年になってからの調査項目ではないような気がし、疑問を持ちながら回答しました。次々世代に期待したいと思います。
男	70歳以上	小中学校の先生を増員して、夜遅くまで学校で子供を見るような方法はないものでしょうか。そうすれば安心して女性が社会参画できると思います。大変難しい問題ですので、当局で頑張ってください。
女	70歳以上	男にしかできないこと、女にしかできないこと。社会は助けたり助けられたりして成り立っている。昔の良い所もたくさんあると思いますが、時代にも沿っていかねば。
男	60～69歳	地域社会で、例えば行事であれ、活動であれ、自治会活動においても従来の男性中心社会の視点で議論され、決定している。組織自体、〇〇〇、男と女、夫と妻と関係なし、参画できるように変えていく。このままでは地域は衰退していく。
女	30～39歳	現在30歳の娘は知的障害です。いろいろ聞く事は無理です。よろしく願います。
男	40～49歳	世に平等はない。それぞれの長を生かした仕事を行うことが大切で、その環境を整えることが必要であると思う。
無回答	70歳以上	昔とちがう所がたくさんありわかりません。しんぼう、がまんがたりない。私は脳こうそくになって10年。1年生2年生なみでかん字がかけなくなりました。ごめんなさいひらがなだけで。1月5日救急車で〇〇病院へ。退院の時に先生が通院するのに大変なので近くの病院を。今は近所の病院に通院しています。ところが先生にいわれた言葉。射水市に病院はないのか、先生は自分でしらべ(うん)これじゃあね…。その時はがまんをしていましたが、家に帰ってくるとくやしくてなりませんでした。次に行くのがいやでいやでなりません。初めの1人目の先生でなく2人目の先生になってからです。ごめんなさい自分勝手な事ばかり書きまして。射水市の人たちは高岡市の病院へ行くのは許しがたいのでしょうか。
女	60～69歳	男女平等でないという事はある程度必要であるのではと思います。
男	60～69歳	自治会や町内会活動に女性が参画しやすい制度の見直しを図ってほしい
女	60～69歳	いろいろな行事がありますが、あまり参加したくはないので、みなさんに感謝です。
女	20～29歳	共働きであっても職種によっては違うが、男性の方が給与が良いことから、生活は男性の力で成り立っているという意識を持っている人が多くいるように思う。そして父親が家事をする姿を見ても(そういう環境で育てても)女性が家事をするのが当たり前だという考えが根強くあるようだ。大人になってから男女平等!と言われてもそう思えないと思うので、幼い頃からの環境+学びは大切だと思う。しかし今は女性も強く生きていて、逆の立場になってしまっていることも多いと思う。
男	50～59歳	地域活動においても伝統や習慣などから、男女平等、共同参画が難しい場面がよくあります。何でもかんでも平等を主張することには無理があると思いますので、できるところから、どうしたらできるのかをみんなで話し合っ実現していくことが大事だと思います。
女	70歳以上	問8：不平等があってもいいのかそれとも各項目にその考え方があってもいいの

		か？
女	50～59歳	問20-2：大事になって世論が動いた時でないとは反映されない、何事も。
女	50～59歳	男女平等は皆が知っていることだと思うが、実際には実行されていないことも多い。もっと皆の理解を得るにはどうしたらいいか考えていくことが必要。また実行していくリーダーを育てる必要があると思う。
男	40～49歳	大切なのは教育であると思う。今後の社会では、どんな障害があろうがなかろうが、男女関係なく、立ち上がる者は立ち上がり、静観するものは動かない。各組織に求められるのはリーダーの育成であり、「女性」とあらかずのは、公平とは思えない。→敢えてテコ入れが必要な時代ではない。男女ともに適切なリーダーを育成する、またはその機会を平等に与える事が重要であると思う。その際に男女平等を教えるのではなく、学校で学んでいる社会が望ましい。
女	50～59歳	女性も能力がある人がたくさんいます。男女平等に女性も昇級すべきです。管理者も女性がなってもよいと思います。
女	40～49歳	家庭においては夫婦で協力できることはお互い協力していけるような環境であることが望ましいと思います。社会においては男女のへだたりのない環境、偏見のないことが良いと思います。人それぞれの分野において、得意、不得意のものがあると思うので、それぞれの得意分野をいかせるような社会であれば生活がしやすいと思います。
男	70歳以上	高齢者男女の差が感じられる
女	50～59歳	男女平等に賛成している反面、地域のことについては男性に任せて楽だと思っている部分があります。今回のアンケートで男女共同参画についてもっと知りたいと思いました。
男	70歳以上	企業での経験を基に女性が参画しやすい雰囲気づくりに努めているが、一般的に消極的である。
男	60～69歳	・家庭、職場、地域でも昔ながらの男尊女卑の習慣が脈々と受け継がれている現状があると思う。 ・職場でのパート、非正規雇用労働者でも男女で格差はあると思う。
女	70歳以上	「男だから」「女のくせに」と言われた時代から、幼少期の男児だろうと親も積極的に料理作りをさせる時代になっています。そう思うと、男女平等などの意識が随分根付いてきていると思いますが、現実はどうでしょうか。事件、事故、政治、人種差別等のニュースを目にすると、まだまだ遠い道の様にも思います。歴史や時代、社会制度や習慣、環境、経験、文化等の違いにより、こうしたことは時間がかかるようです。それでも教育を行き届かせ、男女平等の情報提供や啓蒙等を根気強く発信し続けることが、社会にも学校にも職場にも地域家庭にも、その思いが行き渡ることなのではないかと思いました。アンケートを記入することになり、あらためて考えさせられる機会をいただきました。ありがとうございました。
女	20～29歳	職業、地位によって他人を見下す考えをもっている人がいる限り是正されるとか思えない。学歴ではなく、能力を見て育成することが必要だと思う。
男	50～59歳	50代の男性ですが介護福祉士として働いています。介護の現場は女性の方が多いのですが、介護サービスを受けられる利用者の方のキーパーソンになれるのは息子さんという場合も多いです。「介護の事は男だから分からない」「介護の事は嫁にまかせている」等の話もよく聞かれます。要介護者がおられる家庭であれ

第2章 単純集計結果 8 自由意見

		ば、家族で支えていかなければならないと思います。男性の方のための介護や福祉に関する勉強会やセミナーがあれば良いと思います。
女	50～59歳	うちの会社は取り扱いの商品そのものが男性、女性、(LGBT)のものなので、こちら側の仕事に男女不平等がなかったとしても、相手に対してセクハラにならない様にと気をつかうなど、配慮が必要な場合が多いので課題がそれなりにあります。問8：⑨高い場所の蛍光灯の取りかえなどは男性に任せたい。
女	60～69歳	男女の区別をせず、それぞれに勝っている箇所を出し、適材適所でやっていただけたらと思います。
女	70歳以上	子ども学校行ってる時に、3番目の子が休んだりして、校長先生出てきて怒られて…気分が悪かったずっと昔の話になりますけど、今は忘れません。昔はおこることしかなかったのか？と思います。話し合いがなかったですね。今でも忘れません。おこるより話し合いだと思います。
女	70歳以上	お茶出しや掃除などの雑用を行う頻度→この点を問題となるのはかなり意識レベルが低い、問題外、地域的なものか？
男	60～69歳	能力のある女性をどんどんと管理職等に登用していくこと。ただし年功序列による管理職への登用は止めること。
男	70歳以上	男女とも年齢問わずもう少し広範囲における社会（実態社会）を勉強し、直すことから始まる。政治、経済、社会、文化、芸術等をマルチに見れる人材が未来を作る。男女共同は同じベースに立ってこそ初めて存在する。射水市はまだまだ遅れている。まずは市役所関係を率先して見直すべきだろう。
女	60～69歳	日常生活に追われ、なかなか参加することができず、また言葉だけは知っていますが、よりよい社会になればいいですね。
男	50～59歳	男女平等とは何だろうと考える。性別による能力の違いや思考の違いなど、生物としての役割もある。男女同権なら理解するが、それでも性別による権利の違いは、存在すると考える。性別による向き不向きも存在し、一律に平等にすることには無理があると思う。男女共同参画においては、ワーク・ライフ・バランスや、意識の問題、根強い男社会の傾向などがかかわっていると感じる。それが、女性の管理職や役員、首長、議員の数に現れていると思う。男女のライフスタイルや社会的構造など根本を変えなければ実現不可能では？
男	18～19歳	男女の性役割が男女共同参画の停滞や足止めになっていると思った。また国によって男女の管理職や議員の人数、割合が違うことから、文化やその平等に対する意識の差が関係していると思った。
女	70歳以上	私の住んでいる地域では、男性がごみ出しをされたり、洗濯をしたりと、自分でできることを苦なくされている姿を見かけることがあり、大変に良い事だと思います。これからも多くの方に広まってほしいと思います（学校の先生方や、役所に勤めの方、その他の方が率先してやっております）。これからも今以上に協力しあい継続を大切にして一人一人が幸せで、住みやすい地域になるよう切望いたします。今さらながらですが、「自分をみがき、技をみがき（自分のできる事等）、地域をみがく」の意識を持てる人になりたいものとする時間をいただき深く感謝いたします。ありがとうございました。
女	60～69歳	問3：食事の支度、片付け、掃除、洗濯は、主婦である私が望んで（やりたいから）していることで、誰の役割とか決められない。そういう人もいるのでは。
女	50～59歳	今や共働きで、家事分担している家庭も増えてはきているが、「男性は仕事、女

		性は家事育児」という考えはまだまだ強いように思います。
女	30～39歳	<p>仕事をするにしてもなんにしても子どものこと（世話）は女性：妻がするのが当たり前になっている。風邪ひいて休むのも妻。たまには羽を伸ばしたく夜散歩く（出歩きたい）と思っても、夫は良いが、妻はなかなか行けない。行けたとしても子どもの面倒をみてくれていた夫の機嫌が良くなかったりして気が気ではない心境。夫（男）の仕事量が大変なのはよくわかります。まだまだ男が強い社会です。男性も気軽…という言い方が合っているかわかりませんが、休みやすい環境、世間の目も優しくなれば良いのではと思います。</p>
女	40～49歳	<p>結婚して19年目です。だんなも子どもが生まれる前（妊娠する前）までは、家事も協力してくれていました。が、妊娠して子どもできてから、一切家事育児、だんなは協力してくれません。私も10歳から持病があり、病気のことも知っていますが。一番寂しかったのは、当時3交替をしていただんな。陣痛がきて、だんなに病院まで送ってもらいましたが、だんなは仕事だからと言って荷物を預けて帰っただんなです。2人ともです。子どもが夜泣きすれば2階からうるさくて眠れない。ミルクでも飲ませて泣き止ませろ！です。昼間私が寝ていても、旦那に怒られたり。ぎっくり腰になった私の腰を、だんなに足でけられたこともありました。今もだんなからひどい言葉あつかいです。名前では呼ばず、私のことをドスメロ。今はクス野郎です。子どもがいる前でも。今年コロナの影響で収入も減り、イライラして、毎日私に対して暴言吐きまくりです。私もつらいです。でも子供がいるし我慢しています。昨日は「お前の変え、いつでも顔面、ひざげりできるわ。いつでも殴れるわ」って言われています。だんなはお酒飲みません。シラフで毎日暴言吐いています。頑張ります。私。子どものために。こんな人もいる事知ってもらえるだけで私はうれしいです。</p>
女	30～39歳	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的には性別による身体能力の差はどうしようもないので、ある程度の性別による職業の不平等は仕方なく、現状に不満はない。→逆に女性は重いものを持たなくて良い、や、レディースディがあるなど優遇されていることがたくさんあり、現状のままが私は過ごしやすいと思う。 ・私の働いている会社は状率上認められているからと、会社の指定した日で15日有給休暇が消費されてしまい、自由に使える有給が年に5日しかない。子どもの体調不良や行事で5日では全く足りず、欠勤になってしまうので、一斉年休の制度をなくしてほしい。子どもを持つ女性たちみんな、本当に困っている。
男	40～49歳	<p>地域活動（町内会や地区行事）は特に、男女の役割分担が旧態のままに感じる。婦人会、児童クラブ等は、女性が主体の組織だが、そこに男女共同参画の意識とどう折り合いをつけるのか。独り親家庭はどんな不利が地域活動の中であるのか、あまり議論されていない気がします。</p>
男	50～59歳	<p>私自身は共働きの家庭で家事なども積極的にしますが、年代によってはまだまだ男女平等の意識はかなり低いと思います。現在はかなり改善されていると感じますが、まだまだ日本は男女平等の意識が低いので、政府の働きかけが必要だと思います。</p>
女	60～69歳	<p>担当課の職員の方々がご協力下さって大変ありがたく思っています。職場で女性の方が育休を取って安心して元の場所に戻る率が、富山県では低いように感じます。この件も踏まえ、女性の出産=退職につながっているのではないのでしょうか。この事案ももっと詳しく勉強していきたいと思います。</p>

第2章 単純集計結果 8 自由意見

男	20～29歳	世の中は男尊女卑である以上に美尊醜卑だと思います。
男	40～49歳	平等の意味が分からない。男と女はそれぞれの長所を伸ばし、短所を助け合える社会になれば。同じになる必要はないと思う。政治で平等になるのか？
女	40～49歳	大学生の時にジェンダーを学びました。25年以上たつのに、理解が深くなっていないと感じています。
女	50～59歳	世の中を良くしていくために重要なことは、次の世代を担う子供たちを、人として日本人として、道徳などを生まれた時から愛情を注ぎ、目を離さず教える事が最も重要な事であり、裕福な生活、社会を造る事は次に来る事柄だと私は思います。専業主婦という見返りのない大変な仕事ですが、それを見下すような世の中では、この世も終わりと思います。ちなみに私は母子家庭だったので、働きながら子育てをしました。
女	40～49歳	現状維持で良いと思います。
女	30～39歳	共働きしなければならないという世間の空気、共働きでないと生活できないという経済状況は女性に不利である。実質賃金の低下が少子化を助長し、女性の半強制的な労働、家事というダブルワークにつながっている。 女性は男性と違い出産というイベントがあるので、仕事と育児をするのは、個人の能力の高さが必要となる。
女	40～49歳	女性部という組織の必要性を感じない。昔の専業主婦の集まりからは時代が変わりほとんどの人が働いているので負担が大きい。「女性だけの行事」は時代遅れ。ただし、高齢の方には必要な場所でもある。 男女ともに参加できる地域活動に変えていくべきだと思うし運営をボランティア頼りにするのはこの先厳しいと思う。
男	30～39歳	男女の差別と区別が混同している
男	70歳以上	女は女でしかできないしごとがある、男はいくら頑張ってもできないことがある、むかしからそうである、
女	30～39歳	共働きしなければならないという世間の空気、共働きでないと生活できないという経済状況は女性に不利である。実質賃金の低下が少子化を助長し、女性の半強制的な労働、家事というダブルワークにつながっている。 女性は男性と違い出産というイベントがあるので、仕事と育児をするのは、個人の能力の高さが必要となる。
女	70歳以上	家庭では、ほとんど何もなくて亭主面している夫に手を焼く！リタイヤ時点で主婦も退職と思っています。その後の人生は出来る事は協力してやる！現役時代とは違うのですが、80歳の旦那さまの意識は変えられません!!! わずかな期間でも未亡人を経験したい。偽らざる気持ちです。家庭では男女平等など空事です。
女	40～49歳	比較的射水市は女性の活躍が多いところだとおもうが地区に目を移すと祭礼を手伝っても男性や男児には後日結構な額の花代がもらえるのに、女子とくに笛太鼓で参加する女兒にはお菓子しかもらえないなどの場面を小さいうちから見ていると自然と差別が芽生える場面になっているので気になっている 昔ながらの場面で意識は育つとおもうのでこういう場面からの意識の改革がいるのではないかとおもう
男	30～39歳	若い人たちには男女平等参加社会が浸透していると感じるが、年配の人たちには浸透している感じがしない。年配の方たちの意識を変えることは難しいと思う。

		社会情勢の変化に応じて法律や制度ができるのはいいと思うが、アフーマティブアクションになりすぎないようにしてほしい。
女	40～49歳	国や自治体、事業所など、方針を考える上層部の人たちがほとんど男性で、しかもその年代の人たちは、奥さんに家庭を任せているような世代。女性が社会で輝けと言うなら、男性が家庭でも輝けと言いたい。
男	40～49歳	仕事が多すぎる。核家族化が進んだため、「人生双六」を理解していない若者が増え、仕事と娯楽にリソースを使い、子を産み育て、命をつないでいくことの重要性を理解していない人が増えている。例えば高齢出産の結果、子育てと介護の時期が重なったり、子どもの数を減らした結果、子どもが将来大きな介護負担に苦しむことなどまで、思い至らない。
男	30～39歳	職場で若年職員が育休や産休をとる時、周りへの配慮が欠けるからか、特に年配女性職員から不満を聞くことが多い。お互いのコミュニケーションの不足ではないかと考える。当事者だけでなく、チームや組織で、私たち男性も働きやすい、子育てしやすい環境づくりに努めていく必要があると感じている。
女	60～69歳	男女が平等に生活できる社会の実現にはお互いの立場を理解することだと思えます。そのためにはお互いに余裕のある生活を保証すること。具体的には労働時間の短縮が不可欠と考えます。全ての世代で8時間労働を基準にするのではなく、6時間労働を基準に生活が回れば余裕が出て立場の違いを乗り越えて相互理解が進むのではないのでしょうか。一般企業では難しいのでまず、行政から6時間勤務を実行してはどうですか。
男	20～29歳	少なくとも今の若者に男女平等についての理解が乏しい人はあまりいないと思えます。男女共同参画社会を目指すためには、一人の人間を性別というフィルターで見のではなく、一個人として尊重する意識を浸透させることが大切であると考えています。
女	40～49歳	女性だけに視点を向けられているが、男性も少なからず不平等を感じている方もおられると思う。男女という表現というより人としての平等という考え方も大事なのではないかと思います。
男	20～29歳	女性が不当な扱いを受けている場を排除することはもちろん重要だが、男女に存在する身体的、精神的な違いを無視するような考え方は、余計な軋轢を生む。むしろ違いを正しく認識し、個人がより幸福な生き方を自由に選び取っていける人生こそが理想的だと思う。
女	40～49歳	女性だけに視点を向けられているが、男性も少なからず不平等を感じている方もおられると思う。男女という表現というより人としての平等という考え方も大事なのではないかと思います。
女	40～49歳	家庭内に置いて、全く興味が無いのか家事に関して協力しない主人が許せません。 共働きであります義母が居ることもあり、手伝うことすらしません。 金銭感覚も無く、物欲も強くいつまでもお金もあると思いきや先々を考えず要求に対して断ると大声を出し怒り無視します。全てが苦痛でなりません。性欲も強く断れば怒り狂い無視です。
男	40～49歳	ハローワークで事実上性別によって就ける職業が制限される求人は禁止すべき。 (「女性(男性)が活躍できる現場です」のような表記は禁止すべき)

第2章 単純集計結果 8 自由意見

男	40～49歳	結局な所、女性には危険だからといって楽な仕事ばかりやらせているから、やはり工場等では差別がある。
男	40～49歳	今、日本国として最も危惧すべきは少子化問題である。なぜならそれは国家存亡に関わるからである。男女共同参画は少子化に拍車をかける恐れがあるので、バランスをとることが重要だ。
女	20～29歳	身の周りの夫婦を見ると、男性が家庭に非協力的だったり態度が大きいことが多く、女性側に負担が掛かっていると感じている。
男	50～59歳	学校、職場、地域での男女平等や男女共同参画はもちろん賛成ですが、育児や家事も大事な役割だと思います。いろいろな生き方が認められるべきで、専業主婦の方はもっと認められても良いのではないのでしょうか？「仕事をしていない女性は活躍していない」と圧力がかかっているように感じられます。
女	40～49歳	親世代(70代)に、男女平等という考え方が乏しいので、自分たちのやり方が認知されにくい。
男	50～59歳	言葉ばかりが先行して、実際の行動や活動が見えていない
女	18～19歳	<p>男女平等のみに着目せず、ありとあらゆるジェンダー、セクシャリティの人々に平等や自由が実現されるべきだと感じています。「男性」「女性」の枠組みを超えて、人権という観点から物事を進められる社会でなければ、「男女平等」も「男女共同参画」も難しいと考えています。</p> <p>平等や自由の実現のためには、まず偏見やイメージを正しい知識に置き換える必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>この「正しい知識に置き換える」役割を果たせるのは教育であると感じています。特に高校までの保健や社会科の授業は大きな役割を果たしていると実感しています。保健や社会科の授業、もしくは学年/学校集会での特別講座を用いて、子どもたち世代への意識の変化を促進してほしいと感じています。</p> <p>大人、特にお年寄りの方が持つ偏見やイメージを正しい知識に置き換えるためには、行政やメディアの力が必要だと考えています。</p>
女	50～59歳	<p>人権に関する質問があったが、社会的弱者として、女性と性的マイノリティの外、外国人の人権についても考えていく必要がある。ネット上で、日本に住む外国人に対し、「嫌なら帰れば」と発言する人が見られることをとても残念に思う。日本に受け入れた以上、彼らの生活の保障が日本人と同等でなければならない。</p> <p>政府は、「女性の輝く社会」、「一億総活躍社会」、「働き方改革」などのスローガンを掲げてきたが、まずは男性主体の長時間労働を見直すべきである。現在の社会は、女性に対し、子どもを生め、子育ても介護も家事も仕事も頑張れと言っているように思える。男性も女性も短時間労働で、家事も育児も過度なストレスなく行える社会を目指すべき。働き方改革関連法で、残業時間の上限など決められたが、まだまだ労働時間は長く、残業を減らす方法も、精神論に頼っている。短時間の労働で生活できるだけの報酬を得ることができる社会が理想だと思う。強者のみが生き残れる社会であってはならない。男性も女性も、子どものいる人もいない人も、ひとり親であっても、適正な報酬で平等に働ける社会でなくてはいけない。また、女性や外国人を雇用調整として利用している現状は改めなければならない。</p> <p>日本の女性の地位が世界最低レベルという結果がでている。日本の政治の世界は</p>

		<p>男性社会で、そこで女性が活躍するには、相当な困難が伴う。フランスに習い、男女ペアで選挙に立候補する方式が取り入れるべきではないかと思う。女性が政治の場で発言する機会が増えれば、女性が生きやすい社会実現の一步となるのではないかと思う。</p> <p>男尊女卑、性的マイノリティや外国人への差別意識を持たないようにするには、子どもの時からの教育が重要であると思う。子どもの教育に関わる人は、人権に対して深く理解し、対応しなければならない。また、家庭に置いても、男女平等の意識、行動が必要である。（「男は強く、女は愛嬌があり優しく」とか「女の子には家事をさせ、男性にはさせない」など、子どもの時に刷り込みすべきではない。）一度持ったあらゆる考え方、特に差別意識は大人になってから矯正するのは難しく、子どものときから、男女平等と弱者を助ける気持ちを養う教育が必要である。特に大人になってからDVの加害者となることの多い男性への教育は重要だと思う。性教育についても、幼児の段階からすべきであると思う。</p> <p>女子高生や若い女性の商品化が気になる。昔から、商品売る手段として、男性の性的欲望を刺激する若い女性のイメージを利用する手法（企業広告、アイドルなど）はあったが、最近危惧しているのは、政府や地方自治体なども、萌えを感じるキャラクターを使用して広報を行う手法を取り入れていることである。うまく説明できないが、若い女性や女子高生を利用した広報は、女性差別につながるリスクがある。</p> <p>参考HP https://wezz-y.com/archives/40686</p>
女	50～59歳	<p>富山県では悪い意味で多様性が認められない空気があると、生まれ育っていても思う。LGBTQ当事者を実際に知らない人も多いが、当事者が空気として言えないだけ。あと富山県の女性センターは声の低い相談者がかけると勝手に男性「加害者」と判断し電話を切るようなことを3回もやり、かなり打ちのめされた。現在まだDVの後遺症があるが、富山県の窓口は信用できない。射水市で言えば、今でも医学的知識のないフェミニストカウンセラーの派遣はやめてほしい。彼女らがカウンセラーになる過程に医学的知識は必要ないため、精神的に疲れたクライアントの話は聞けないし、最悪状態を悪くする</p>